

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 171

田井たれをず遺跡
田井ちご池遺跡
岡東高塚遺跡

ふるさと農道緊急整備事業に伴う発掘調査

2003

岡山県教育委員会



田井たれをず遺跡遠景（北東から）

序

津山盆地の東端に位置する勝田郡勝央町南部には、弥生時代の人々が暮らした小中遺跡や、古代に郡の役所が置かれた平遺跡など、地域の中心となる多くの遺跡が知られています。これを北から見下ろす間山^{はしたやま}の山上にも、岡高塚などの古墳が築かれ、古代には間山高福寺が建立される一方で、勝田焼の生産が行われるなど、往時の人々がそれぞれに営みの跡を残しています。

この間山を縦断する形で計画されたふるさと農道につきましては、周知の遺跡を保護することはできたものの、いくつかの埋蔵文化財包蔵地を新たに発見し、それらについては記録保存の措置を執ることになりました。

調査の対象となりました田井たれをず遺跡・田井ちご池遺跡・岡東高塚遺跡の三つの遺跡からは、いずれも平地からはずいぶん高いところに所在する弥生時代の集落が検出されました。これらの山の上の集落は、山裾の小中遺跡の集落とほぼ同時期に存在していたらしく、それらの集団関係がどうであったか注目されるところです。また、岡東高塚遺跡の火葬墓や勝田焼灰原についても、新たな資料となりました。

その調査成果をまとめた本書が、埋蔵文化財に対する理解を深めるとともに、教育・学術のために広く活用されることを期待いたします。

なお、発掘調査の実施から本書の作成に至るまで、岡山県勝英地方振興局をはじめとする関係各位から多大な御協力をいただきました。ここに深甚なる謝意を表すものであります。

平成15年1月

岡山県古代吉備文化財センター

所長 正岡 睦夫

例 言

1 本書は、ふるさと農道緊急整備事業に伴い、岡山県教育委員会が岡山県農林水産部の依頼を受け、岡山県古代吉備文化財センターが発掘調査を実施した、田井たれをたれをいず遺跡・田井ちご池遺跡・岡東高塚遺跡おかひがしたかつかの調査報告書である。

なお、岡東高塚遺跡については、文化財保護法に基づく書類をはじめとして、調査終了まで岡東高塚20号墳他と呼称していたが、調査の結果、調査対象地内に古墳が所在しないことが判明したため、名称を変更する。

2 各遺跡の所在地は、次のとおりである。

田井たれをかつたしょうおう遺跡：勝田郡勝央町田井字たれをたれをいず828他

田井ちご池遺跡：〃 〃 〃 字ちご池999他

岡東高塚遺跡：〃 〃 岡字東高塚1152-1他

3 確認調査は、平成10年度に光永真一・金田善敬・蛭原啓介が担当して実施し、平成11年度に光永・氏平昭則が担当して実施した。面積は、それぞれ872㎡と33㎡である。

4 発掘調査の実施年度、担当者、面積は次のとおりである。

田井たれをたれをいず遺跡：平成10・11年度、光永・氏平・金田・蛭原、1,170㎡

田井ちご池遺跡：平成12年度、光永・杉山光紀、2,140㎡

岡東高塚遺跡：平成12年度、光永・杉山・蛭原、1,355㎡

5 本書の作成は、平成13年度に実施し、光永が担当した。

6 本書の執筆は、担当者が分担し、目次または文末に氏名を記した。全体の編集は光永が行った。

7 出土遺物の鑑定は、下記の専門家・機関に依頼した。記して深謝の意を表す次第である。

・石器の石材鑑定 妹尾護（倉敷芸術科学大学）

・炭化材の樹種鑑定 パリノ・サーヴェイ株式会社

8 遺物写真については、江尻泰幸氏の協力と援助を得た。

9 本書に関連する出土遺物および図面・写真・マイクロフィルム等は、岡山県古代吉備文化財センター（岡山市西花尻1325-3）に保管している。

凡 例

- 1 本書に用いた高度値は海拔高であり、方位は平面直角座標第V系の座標北である。また、各調査区全体図等の座標値および抄録に記載した経緯度は、日本測地系に準拠している。
- 2 本書記載の遺構・遺物の図には個別にその縮尺率を記しているが、基本的には次のとおり統一している。

竪穴住居・方形竪穴住居状遺構・段状遺構等：1／60 土壙・焼土壙等：1／30

火葬墓：1／20

土器・陶磁器：1／4・1／6 石器・石製品：1／1・1／2・1／3・1／6

鉄器：1／3

- 3 各遺跡・調査区の全体図においては、遺構番号の表記にあたって、次の略号を付している。

竪穴住居：住 方形竪穴住居状遺構：方 段状遺構：段 炉状遺構：炉

土壙墓：墓 火葬墓：火 焼土壙：焼 土壙：土 灰原：灰

- 4 遺物番号については、土器・陶磁器には番号だけを付け、石器・石製品にはS、鉄器にはMを、番号の前に付けている。
- 5 本書においては、土器の径が不確実な場合に、中軸線の両脇で輪郭線に空白を設けて表示している。
- 6 本書記載の遺構図において、被熱範囲等に付した点描等は、次のとおり統一している。

被熱・・・  炭・・・  焼土・・・ 

- 7 本書記載の土器色調については、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』を基準にしている。
- 8 本書の第2・3図は、国土交通省国土地理院発行の1/25,000地形図「津山東部」を複製し、加筆・縮小したものである。
- 9 本書における時期区分は、一般的な政治史区分に準拠している。

本文目次

序

例言

凡例

| | |
|------------------------------------|----|
| 第1章 調査に至る経緯と調査の経過…………… (光永) … | 1 |
| 第1節 調査に至る経緯 …………… | 1 |
| 第2節 調査および整理の経過 …………… | 1 |
| 第3節 調査および整理の体制 …………… | 2 |
| 第4節 日誌抄 …………… | 3 |
| 第2章 遺跡の位置と環境 …………… (光永) … | 4 |
| 第3章 田井たれをず遺跡 …………… (光永・氏平・金田・蛭原) … | 6 |
| 第1節 遺跡の概要 …………… | 6 |
| 第2節 遺構・遺物 …………… | 7 |
| 第3節 まとめ …………… | 16 |
| 第4章 田井ちご池遺跡 …………… (光永) … | 17 |
| 第1節 東区の概要 …………… | 17 |
| 第2節 西区の概要 …………… | 20 |
| 第3節 まとめ …………… | 30 |
| 第5章 岡東高塚遺跡 …………… (光永・蛭原) … | 31 |
| 第1節 遺跡の概要 …………… | 31 |
| 第2節 遺構・遺物 …………… | 32 |
| 第3節 まとめ …………… | 42 |

抄録

挿図目次

| | | | |
|--|----|--|----|
| 第1図 遺跡位置図 (1/2,000,000) …………… | 1 | 第13図 土壌9～12 (1/30) …………… | 13 |
| 第2図 確認調査位置図 (1/50,000) …………… | 1 | 第14図 土壌13・14 (1/30) …………… | 14 |
| 第3図 周辺の遺跡分布図 (1/40,000) …………… | 5 | 第15図 包含層出土遺物 (1/2・1/3・1/4) …………… | 15 |
| 第4図 田井たれをず遺跡調査前地形図 (1/600) …………… | 6 | 第16図 田井ちご池遺跡東区調査前地形図 (1/600) …………… | 17 |
| 第5図 田井たれをず遺跡全体図 (1/400) …………… | 6 | 第17図 田井ちご池遺跡東区全体図 (1/400) …………… | 17 |
| 第6図 竪穴住居1 (1/60)・出土遺物 (1/2・1/4) …………… | 7 | 第18図 方形竪穴住居状遺構1 (1/60)・出土遺物 (1/4) …………… | 18 |
| 第7図 竪穴住居2 (1/60) …………… | 8 | 第19図 土壌1～5 (1/30)・出土遺物 (1/4) …………… | 19 |
| 第8図 竪穴住居2出土遺物 (1/3・1/4・1/6) …………… | 9 | 第20図 東区包含層出土遺物 (1/4) …………… | 19 |
| 第9図 段状遺構1～4 (1/60) …………… | 10 | 第21図 田井ちご池遺跡西区調査前地形図 (1/600) …………… | 20 |
| 第10図 段状遺構1・2・4出土遺物 (1/3・1/4) …………… | 11 | 第22図 田井ちご池遺跡西区全体図 (1/500) …………… | 20 |
| 第11図 土壌墓1 (1/30) …………… | 11 | 第23図 竪穴住居1 (1/60)・出土遺物 (1/4) …………… | 21 |
| 第12図 土壌1～8 (1/30)・土壌2・4出土遺物 (1/2・1/4) …………… | 12 | 第24図 竪穴住居2 (1/60) …………… | 22 |

| | |
|--|----|
| 第25図 竪穴住居 2 土層断面図 (1/60) | 23 |
| 第26図 竪穴住居 2 炉 1 ~ 3 (1/30) | 23 |
| 第27図 竪穴住居 2 出土遺物 (1) (1/4) | 24 |
| 第28図 竪穴住居 2 出土遺物 (2) (1/1・1/3・1/4) | 25 |
| 第29図 竪穴住居 2 炭化材検出状況 (1/80) ・床面出土土器 (1/8) | 26 |
| 第30図 方形竪穴住居状遺構 2 (1/60) | 27 |
| 第31図 方形竪穴住居状遺構 2 炭化材出土状況 (1/80) ・床面出土土器 (1/8) | 28 |
| 第32図 方形竪穴住居状遺構 2 出土遺物 (1/3・1/4) | 28 |
| 第33図 焼土壇 1 (1/30) | 29 |
| 第34図 炉状遺構 1 (1/30)・出土遺物 (1/4) | 29 |
| 第35図 西区包含層出土遺物 (1/4) | 29 |
| 第36図 岡東高塚遺跡調査前地形図 (1/800) | 31 |
| 第37図 岡東高塚遺跡全体図 (1/400) | 31 |

| | |
|--|----|
| 第38図 竪穴住居 1 (1/60)・出土遺物 (1/2・1/3・1/4) | 32 |
| 第39図 方形竪穴住居状遺構 1 (1/60)・炭化物検出状況 (1/60)・出土遺物 (1/2) | 33 |
| 第40図 段状遺構 1 (1/60)・出土遺物 (1/4) | 34 |
| 第41図 包含層出土遺物 (1) (1/2・1/4) | 34 |
| 第42図 包含層出土遺物 (2) (1/4) | 34 |
| 第43図 火葬墓 1 (1/20)・出土遺物 (1/4) | 35 |
| 第44図 灰原 1 出土遺物 (1) (1/4) | 36 |
| 第45図 灰原 1 出土遺物 (2) (1/6) | 37 |
| 第46図 灰原 1 出土遺物 (3) (1/6) | 38 |
| 第47図 灰原 1 出土遺物 (4) (1/4) | 39 |
| 第48図 灰原 1 出土遺物 (5) (1/4) | 40 |
| 第49図 灰原 1 出土遺物 (6) (1/4) | 41 |

表 目 次

| | |
|-----------------|----|
| 確認調査概要一覧表 | 2 |
| 土器観察表 | 43 |

| | |
|-------------|----|
| 石器観察表 | 48 |
|-------------|----|

図 版 目 次

| | |
|-------------------------------|--|
| 巻頭図版 田井たれをず遺跡遠景 (北東から) | |
| 田井たれをず遺跡 | |
| 図版 1-1 全景 (北西から、空中撮影) | |
| 2 竪穴住居 1 (南西から) | |
| 3 竪穴住居 1 屋外溝 (南東から) | |
| 図版 2-1 竪穴住居 2 (北から) | |
| 2 竪穴住居 2 屋外溝 (北から) | |
| 3 段状遺構 1 (東から) | |
| 図版 3-1 段状遺構 2 (南東から) | |
| 2 段状遺構 3・4 (南東から) | |
| 3 土壇墓 1 (東から) | |
| 田井ちご池遺跡 | |
| 図版 4-1 全景 (南から、空中撮影) | |
| 2 方形竪穴住居状遺構 1 (東から) | |
| 3 竪穴住居 1 (西から) | |
| 図版 5-1 竪穴住居 2 (北西から) | |
| 2 竪穴住居 2 炭化材検出状況 (東から) | |
| 3 竪穴住居 2 土器 18 出土状況 (北から) | |
| 図版 6-1 竪穴住居 2 炉 1 (東から) | |
| 2 方形竪穴住居状遺構 2 (北西から) | |
| 3 方形竪穴住居状遺構 2 土器出土状況 (南から) | |
| 図版 7-1 方形竪穴住居状遺構 2 ポケット (東から) | |

| | |
|--------------------------------|--|
| 図版 7-2 焼土壇 1 (東から) | |
| 3 炉状遺構 1 (北から) | |
| 岡東高塚遺跡 | |
| 図版 8-1 全景 (南西から、空中撮影) | |
| 2 竪穴住居 1・方形竪穴住居状遺構 1 (南東から) | |
| 3 竪穴住居 1 (西から) | |
| 図版 9-1 方形竪穴住居状遺構 1 (西から) | |
| 2 段状遺構 1 (南から) | |
| 3 灰原 1 周辺 (北東から) | |
| 図版 10-1 火葬墓 1 検出状況 (西から) | |
| 2 火葬墓 1 土器出土状況 (西から) | |
| 3 火葬墓 1 (西から) | |
| 遺物 | |
| 図版 11-1 田井たれをず遺跡出土弥生土器 | |
| 2 石器・石製品 | |
| 図版 12 田井ちご池遺跡出土弥生土器 | |
| 図版 13-1 岡東高塚遺跡火葬墓 1 出土須恵器 | |
| 2 岡東高塚遺跡灰原 1 出土勝田焼 (1) | |
| 3 岡東高塚遺跡灰原 1 出土勝田焼 (2) | |
| 図版 14-1 岡東高塚遺跡灰原 1 出土勝田焼 (3) | |
| 2 岡東高塚遺跡灰原 1 出土勝田焼 (4) | |

第1章 調査に至る経緯と調査の経過

第1節 調査に至る経緯

岡山県勝英地方振興局（以下、勝英局）は、勝田郡勝央町岡から同町美野をつなぐ道路を、ふるさと農道事業として計画した。勝英局は、平成9年度に周知の遺跡を迂回して路線を設定し、周辺の埋蔵文化財について岡山県教育庁文化課（以下、文化課）に照会した。これを受けた文化課は、岡山県古代吉備文化財センター（以下、センター）とともに、路線周辺の踏査を実施し、遺跡が所在する可能性のある地点11か所を発見した。

第2節 調査および整理の経過

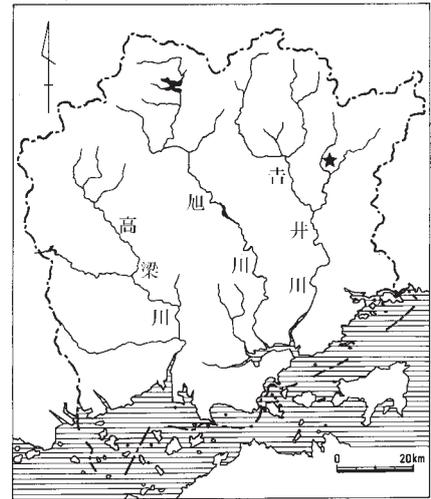
現地踏査によって発見された11か所の地点については、センター職員3名が担当して平成10年9・10月に確認調査を実施したが、用地買収の遅れたJ区については、平成11年4月にセンター職員2名により実施した。

調査は、幅1mの試掘溝を、各地点の地形等に合わせて配置・延長し、人力で基盤層まで掘り下げて、遺構・遺物の有無を確認した。調査面積は合計905㎡である。

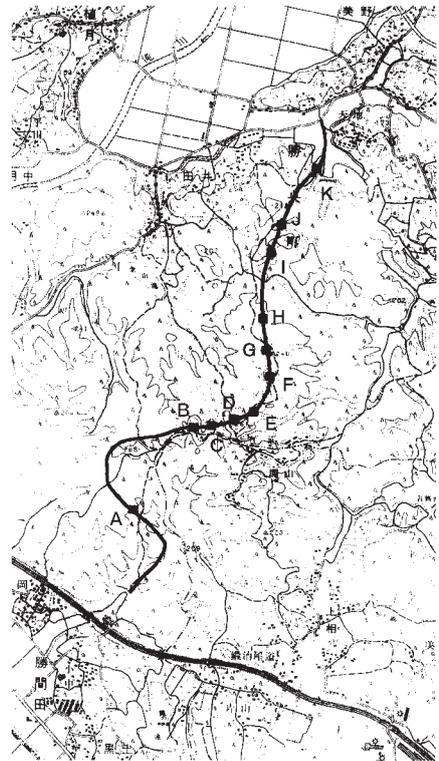
その結果は次頁の確認調査概要一覧表にまとめているが、11か所中の4か所で遺構を検出し、発掘調査が必要と判断された。残りの7か所については、畑地の開墾等によって旧地形が確認できず、遺物も近世以降のものを除いてほとんど出土しなかったため、調査の必要無しと判断した。

発掘調査は、センターが担当し、まず田井たれをず遺跡（I区）について平成11年2・3月に職員3名、同年4月に職員2名で実施した。調査面積は合計1,170㎡である。遺跡は、竪穴住居2軒、段状遺構4基、土壌墓1基等からなる弥生時代中期後半の集落であった。

平成12年10～12月には、職員3名で、岡東高塚遺跡（A区）の調査を実施した。調査途上で、古墳と想定していた部分が古墳でないことが判明したが、その下層に弥生時代後期前半



第1図 遺跡位置図 (1/2,000,000)



第2図 確認調査位置図 (1/50,000)

第1章 調査に至る経緯と調査の経過

| 調査区 | 所在地 (勝田郡勝央町) | 面積 (㎡) | 調査概要 | | 成果 | | 全面調査 | | 調査の所見 |
|------|--------------------|-----------|--------------|----------------|-----------|------|------|-------|--|
| | | | 検出遺構 | 出土遺物 | 時期 | 性格 | 要否 | 面積(㎡) | |
| A | 岡字東高塚1152-1 | 136 | 古墳2基、火葬墓1基 | 須恵器・鉄滓 | 古墳時代・平安時代 | 墓址 | 要 | 1,100 | 古墳2基は主体部の構造が不明。周知の岡東高塚古墳群19基に含まれる可能性が高いが、番号の対応は不能。火葬墓については、周辺の盛り土層との関係が不明。 |
| B | 山井字ちご池999 | 93 | 竪穴住居1軒 | 弥生土器・磨製石包丁 | 弥生時代後期 | 集落 | 要 | 1,940 | トレンチを設定した平坦面全体に集落が営まれた可能性が高いが、対象域の南半は遺存状況が良くない。 |
| C | 田井字ちご池996-1 | 49 | 石組遺構1基、造成面1段 | 須恵質布目瓦・須恵器 | 古代～中世 | 経塚関連 | 要 | 350 | 石組遺構は性格不明。対象域の南外側に経塚と考えられる遺構があり、これとの関係を調査する必要がある。 |
| D | 田井字ちご池956-3 | 79 | 畝状溝群 | 無し | | | 否 | | 畝状溝群は畑地造成に伴うものと考えられ、この時の地形変化により、II状の把握は不可能。 |
| E | 田井字間山917 外2筆 | 76 | 畝状溝群 | 須恵器・勝田焼・近世陶磁器類 | | | 否 | | 谷地形埋没後、畑地として利用されており、畝状溝群はこれに伴うものと考えられる。遺物も畑耕作土からの出土である。 |
| F | 田井字女夫岩910-1 | 79 | 無し | 近世陶磁器類・鉄滓 | | | 否 | | 平坦部は畑地造成と思われる地形変化を受けており、旧状の把握は不可能。 |
| G | 田井字女夫岩895 | 84 | 無し | 土師質土器 | | | 否 | | 旧地形を留めるが、遺構は認められない。 |
| H | 曾井字奥垂水1079 | 26 | 無し | 無し | | | 否 | | 〃 |
| I | 山井字たれをず828 | 51 | 竪穴住居2軒、土壇、柱穴 | 弥生土器 | 弥生時代後期 | 集落 | 要 | 1,170 | トレンチ周辺の集落遺構は、南西方向の緩斜面部分へ続くものと想定される。 |
| J | 曾井字奥垂水2161 | 33 | 無し | 無し | | | 否 | | II地形を留めるが、遺構は認められない。 |
| K | 美野字石谷2131-2 外2筆 | 199 | 無し | 鉄滓 | | | 否 | | 2段の畑地は、いずれも造成の際の地形変化を受けており、II状の把握は不可能。 |
| 合計面積 | | 905 | | | | | | 4,560 | |

確認調査概要一覧表

の竪穴住居を検出し、集落が当初設定した調査範囲の北側へ続くことが想定されたため、調査区を拡張したところ、新たに勝田焼の灰原状の遺物出土をみることとなった。調査面積は1,355㎡で、遺跡は、弥生時代の集落、奈良時代の火葬墓、平安時代の勝田焼灰原からなる複合遺跡であった。

平成12年12月から翌年3月にかけて、職員2名で、田井ちご池遺跡の調査を実施した。確認調査時のB区相当の西区では、弥生時代後期後半の集落の他に、古墳時代～古代の焼土壇・炉状遺構等を検出し、C区に相当する東区では、古代の遺構は明確に検出されなかったが、想定されていなかった弥生時代の集落を検出した。調査面積は2,140㎡である。

整理作業の一部は、平成10年度に調査事務所でを行い、その過半と報告書作成作業は、平成13年度にセンターで、職員1名が担当して実施した。

第3節 調査および整理の体制

| | | | |
|---|--|--|--|
| 平成10年度 岡山県教育委員会 教育長 岡山県教育庁 教育次長 文化課 課長 課長代理 参事 課長補佐 (埋蔵文化財係長) | 黒瀬 定生 平岩 武 高田 朋香 西山 猛 正岡 睦夫 松本 和男 | 文化財保護主任 大橋 雅也 主事 三宅 美博 岡山県古代吉備文化財センター 所長 葛原 克人 次長 大村 俊臣 <総務課> 課長 小倉 昇 課長補佐 安西 正則 (総務係長) 主査 山本 恭輔 <調査第二課> | 課長 伊藤 晃 課長補佐 下澤 公明 (第二係長) 文化財保護主査 光永 真一 (調査担当) 文化財保護主事 金田 善敬 (調査担当) 〃 蛭原 啓介 (調査担当) |
|---|--|--|--|

| 平成11年度 | 平成12年度 | 平成13年度 |
|----------------|----------------|----------------|
| 岡山県教育委員会 | 岡山県教育委員会 | 岡山県教育委員会 |
| 教育長 黒瀬 定生 | 教育長 黒瀬 定生 | 教育長 宮野 正司 |
| 岡山県教育庁 | 岡山県教育庁 | 岡山県教育庁 |
| 教育次長 宮野 正司 | 教育次長 宮野 正司 | 教育次長 國貞 忠克 |
| 文化課 | 文化課 | 文化課 |
| 課長 松井 英治 | 課長 松井 英治 | 課長 松井 英治 |
| 課長代理 佐々部和生 | 課長代理 佐々部和生 | 課長代理 松本 和男 |
| 参事 正岡 睦夫 | 課長代理 松本 和男 | (埋蔵文化財係長) |
| 課長補佐 松本 和男 | (埋蔵文化財係長) | 課長代理 藤井 守雄 |
| (埋蔵文化財係長) | 文化財保護主査 福本 明 | 主任 奥山 修司 |
| 文化財保護主任 大橋 雅也 | 主任 奥山 修司 | 岡山県古代吉備文化財センター |
| 主任 奥山 修司 | 岡山県古代吉備文化財センター | 所長 正岡 睦夫 |
| 岡山県古代吉備文化財センター | 所長 正岡 睦夫 | 次長 能登原 巧 |
| 所長 葛原 克人 | 次長 能登原 巧 | <総務課> |
| 次長 大村 俊臣 | <総務課> | 課長 安西 正則 |
| <総務課> | 課長 小倉 昇 | 総務係長 田中 秀樹 |
| 課長 小倉 昇 | 課長補佐 安西 正則 | 主任 小坂 文男 |
| 課長補佐 安西 正則 | (総務係長) | <調査第一課> |
| (総務係長) | 主査 山本 恭輔 | 課長 高畑 知功 |
| 主査 山本 恭輔 | <調査第三課> | 課長補佐 島崎 東 |
| <調査第三課> | 課長 柳瀬 昭彦 | (第二係長) |
| 課長 柳瀬 昭彦 | 課長補佐 岡田 博 | 文化財保護主幹 光永 真一 |
| 課長補佐 浅倉 秀昭 | (第三係長) | (報告書担当) |
| (第三係長) | 文化財保護主幹 杉山 光紀 | |
| 文化財保護主幹 光永 真一 | (調査担当) | |
| (調査担当) | 〃 光永 真一 | |
| 文化財保護主事 氏平 昭則 | (調査担当) | |
| (調査担当) | 文化財保護主事 蛭原 啓介 | |
| | (調査担当) | |

第4節 日誌抄

- 平成10年9月1日 A～I・K区確認調査開始。
- 10月31日 A～I・K区確認調査終了。
- 11年2月1日 田井たれをず遺跡発掘調査開始。
- 4月12日 J区確認調査開始。
- 16日 J区確認調査終了。
- 30日 田井たれをず遺跡発掘調査終了。
- 12年10月1日 岡東高塚遺跡発掘調査開始。
- 12月4日 田井ちご池遺跡発掘調査開始。
- 27日 岡東高塚遺跡発掘調査終了。
- 13年3月31日 田井ちご池遺跡発掘調査終了。
- 5月1日 整理および報告書作成作業開始。
- 9月30日 整理および報告書作成作業終了。

第2章 遺跡の位置と環境

田井たれをず遺跡・田井ちご池遺跡・岡東高塚遺跡の3遺跡は、現在の行政区画では、勝田郡勝央町の田井と岡に分けられるが、同じ間山^{はしたやま}山地に立地している。

北の中国山地と南の吉備高原に挟まれた津山盆地のなかでも、その東部では、ほとんどを丘陵地から台地によって構成され、吉井川水系と吉野川水系に東西で分かれる河川によって形成される低地がその間隙を埋めている。そのような津山盆地東部の地形にあって、間山山地は流紋岩質の古生層からなる小起伏山地として独立しており、頂部は海拔260mを超えている。間山山地の南側は、急な斜面となって現在中国自動車道が通る辺りの台地まで下り、さらに南側の勝間田低地に至る。東側および西側も同様に急な斜面であるのに対して、山地の北東部では緩く下って丘陵地となり、その北側の石生＝田井低地へと降っている。この石生＝田井低地を北東から南西へ流れる滝川は、間山山地を西に迂回して勝間田低地に至り、これを東に向かって流れて、盆地の南東隅で梶並川に合流する。現在の石生＝田井低地側と勝間田低地側の交通も、間山山地を迂回する形で行われており、調査の契機となった道路建設計画は、その経路短縮を意図したものである。調査対象となった3遺跡の間山山地における立地をみると、田井ちご池遺跡と岡東高塚遺跡は山地南部の最高位部に所在し、田井たれをず遺跡は北東部の丘陵地へ所在することになる。

間山周辺では縄文時代以前の遺跡は少なく、北西に少し離れて丘陵上に立地する金鶏塚遺跡で早期の押型文土器が知られるのみである。

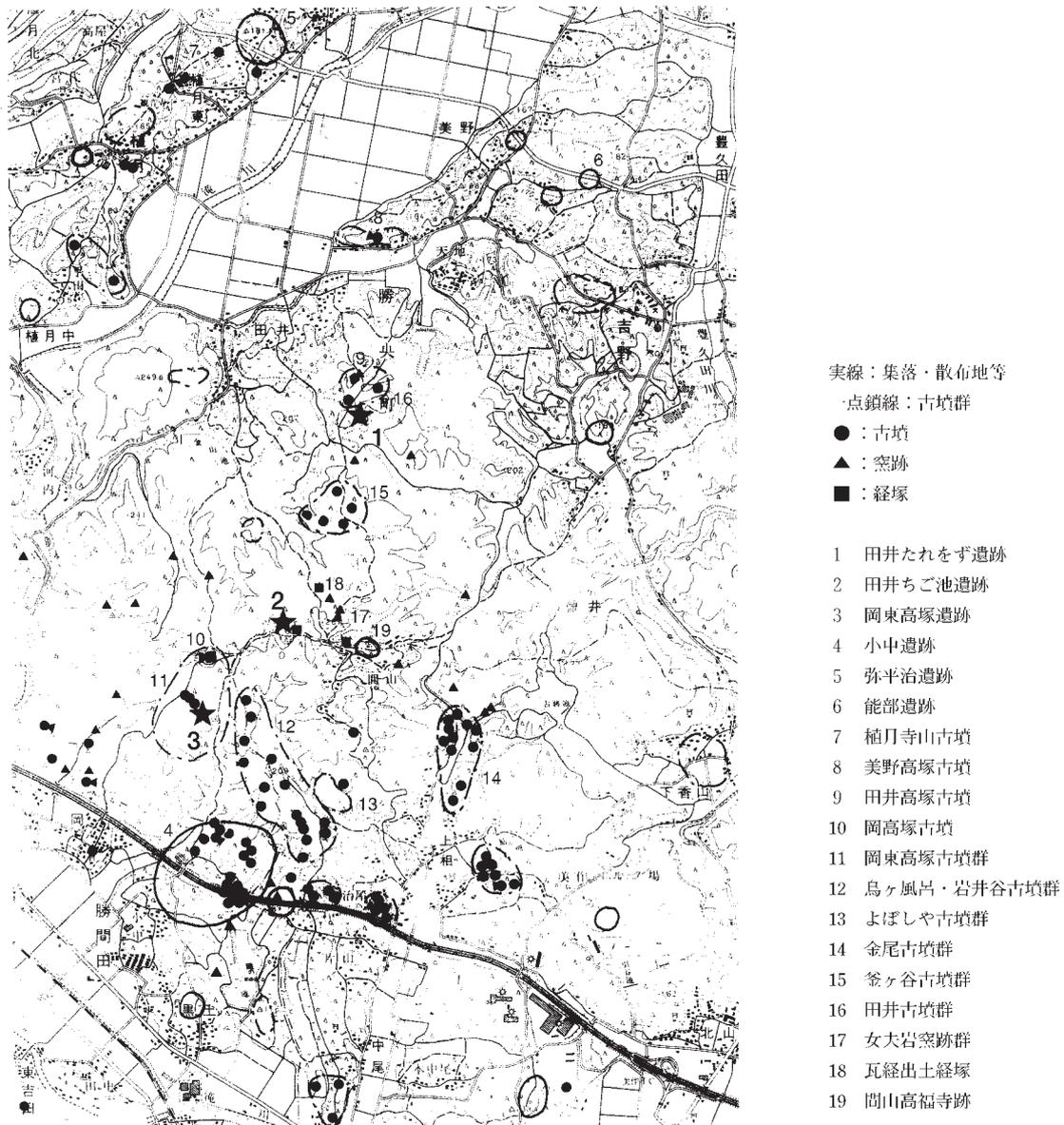
弥生時代になると、いくつかの集落遺跡が調査されている。岡東高塚遺跡から南斜面を高低差80m以上下った台地上に所在する小中遺跡は、中期から後期にかけての大規模集落であったことが明らかにされており、山上に立地する岡東高塚遺跡や田井ちご池遺跡との関係が注目される。一方、石生＝田井低地を取り囲む台地縁辺部でも、低位部から少し上がった緩斜面に立地する弥平治遺跡、あるいは少し谷を入った能部遺跡において後期の集落が検出されている。

古墳時代のこの地域は、首長墳が前方後円墳ではなく前方後方墳であることを特色としている。全長91.5mで美作第2位の規模を誇る植月寺山古墳をはじめとして、石生＝田井低地を囲んで美野高塚古墳・美野中塚古墳・田井高塚古墳が所在し、間山山地でも岡東高塚遺跡の北斜面上方に岡高塚古墳があって、勝間田低地を見下ろしている。間山山地には後期の群集墳も多く築かれており、岡東高塚遺跡周辺の岡東高塚古墳群の他に、鳥ヶ風呂・岩井谷古墳群、よぼしや古墳群、金尾古墳群などがその南部に、釜ヶ谷古墳群、田井古墳群が北部に知られている。

古代には、勝間田低地の西端に勝田郡衙が置かれ、平遺跡・勝間田遺跡がその関連遺跡とみなされていて、掘立柱建物群や鍛冶炉といった遺構と、「郡」の字が押印された土器や、ヘラ書きや墨書の残る土器、陶硯・瓦などの遺物が出土している。これら2遺跡の西側の台地上には横口付炭窯を検出した勝央中核工業団地内遺跡があり、鉄生産が行われたことが知られる他、勝間田低地南側の陶馬を出土した宇津木谷窯跡においては須恵器生産が行われている。須恵器窯跡は他にも散見されるが、その後の窯業は、古代末から中世にかけて勝田焼として発展し、間山山地にも女夫岩窯跡をはじめとして多数の窯跡が知られている。

間山山上では、大正年間に経塚が発見され、大量の瓦経片が出土している。その位置は、田井ちご池遺跡の北に少し谷を下った辺りとされており、鳥取県倉吉市の大日寺瓦経との関連から、11世紀末頃に造られたと考えられている。田井ちご池遺跡東区のすぐ南にも形状の似た遺構がみられる。また、現在間山神社が所在する地点にも経塚があったとされるが、その東側に間山高福寺と呼ばれる寺院跡があり、間山山上の各所にこれに関連する坊の跡などが想定されている。寺の創建年代は明らかではないが、瓦経を出土した経塚との深い関係が考えられる。

一方、この頃の低位部の利用に目を向けると、石生＝田井低地において美野条里遺跡として条里制の地割りが残っているとされるが、その一部について行われた確認調査の結果は、中世段階の可能性が高いとしている。

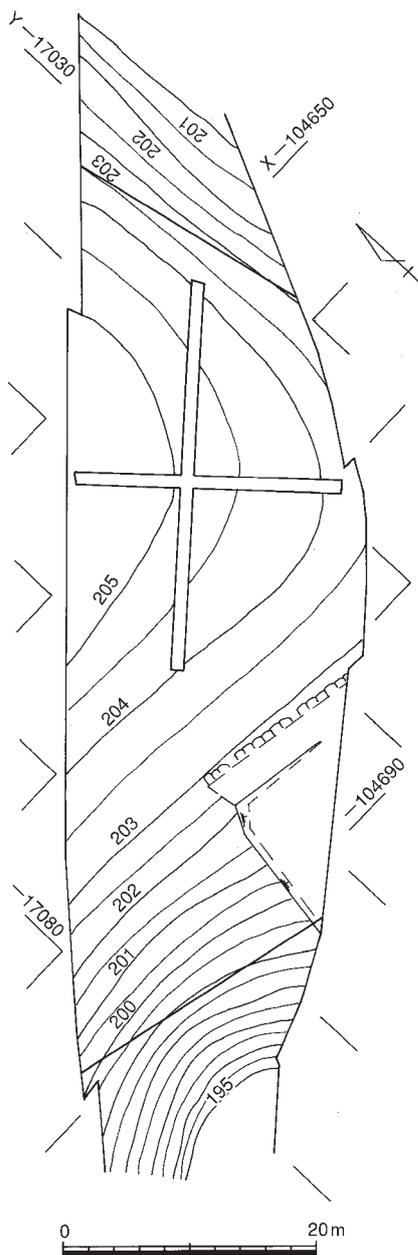


第3図 周辺の遺跡分布図 (1/40,000)

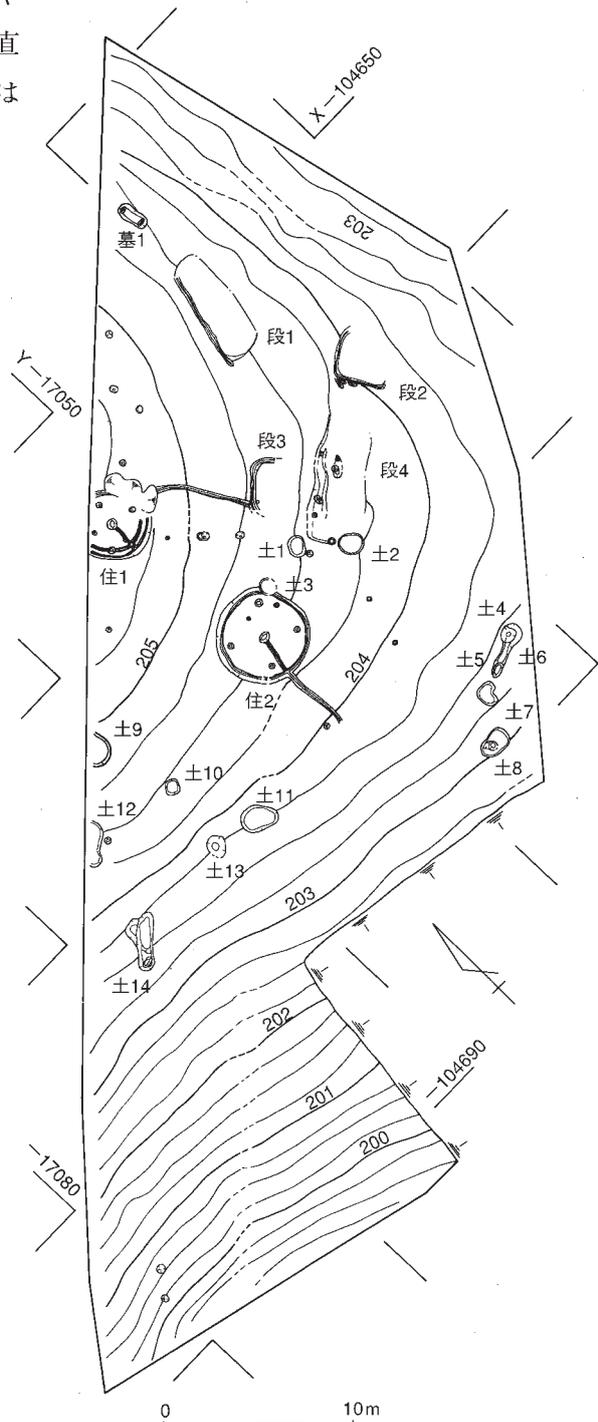
第3章 田井たれをず遺跡

第1節 遺跡の概要

遺跡は、間山山地の北辺に近い丘陵の頂部からやや東に下がる幅の広い尾根に所在する。遺跡から直線距離にして約1km北の石生＝田井低地との比高は約50mで、現在は植生のために直視できない。



第4図 田井たれをず遺跡調査前地形図 (1/600)



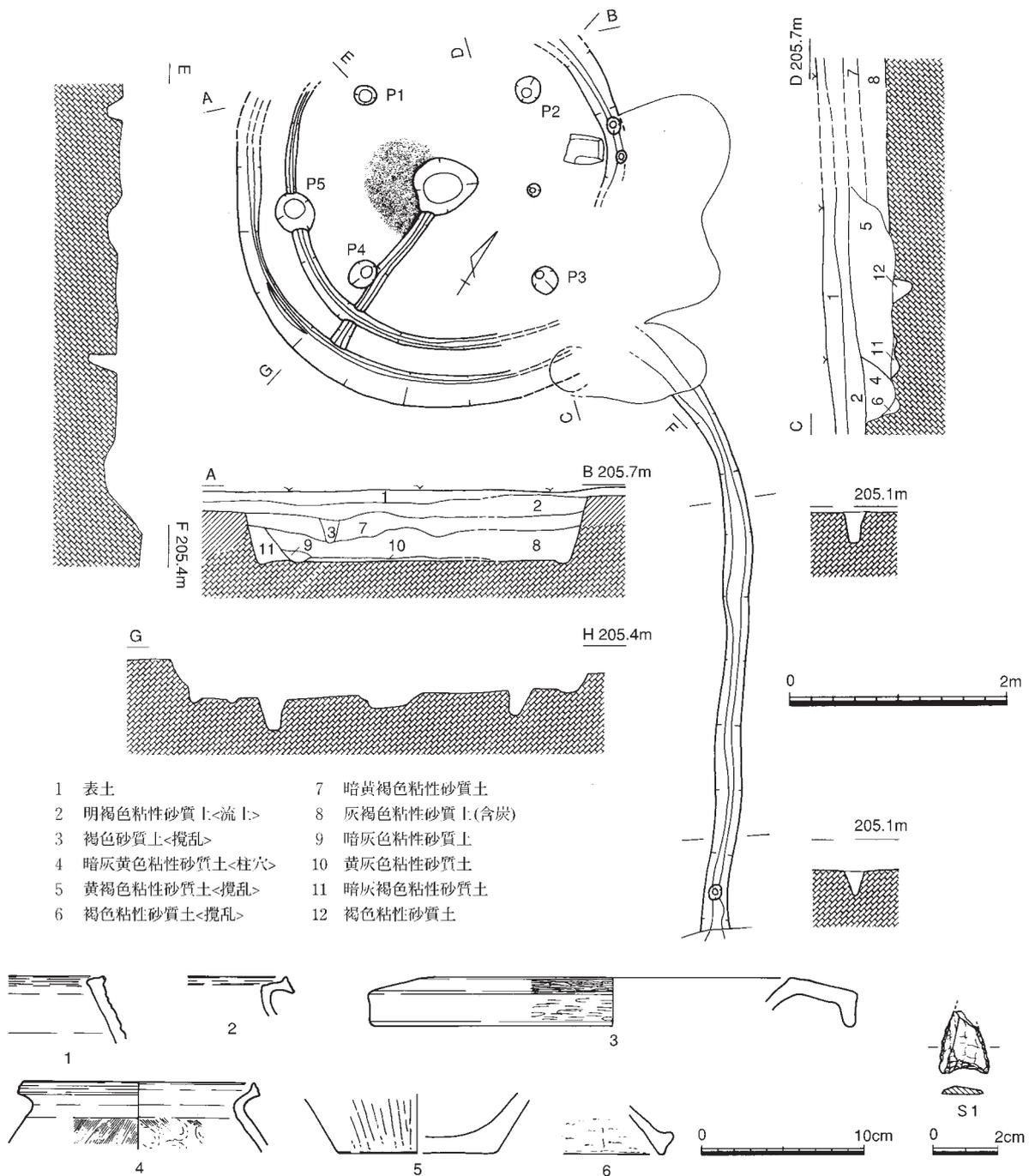
第5図 田井たれをず遺跡全体図 (1/400)

遺構は、竪穴住居2軒・段状遺構4基・土壇墓1基・土壇14基が検出された。これらがその一部を構成する集落は、調査区北西側の丘陵頂部方向へ続くと想定される。遺構からの出土遺物には、弥生土器・石器・石製品・鉄器などがあり、集落の時期は弥生時代中期後半と考えられる。(光永)

第2節 遺構・遺物

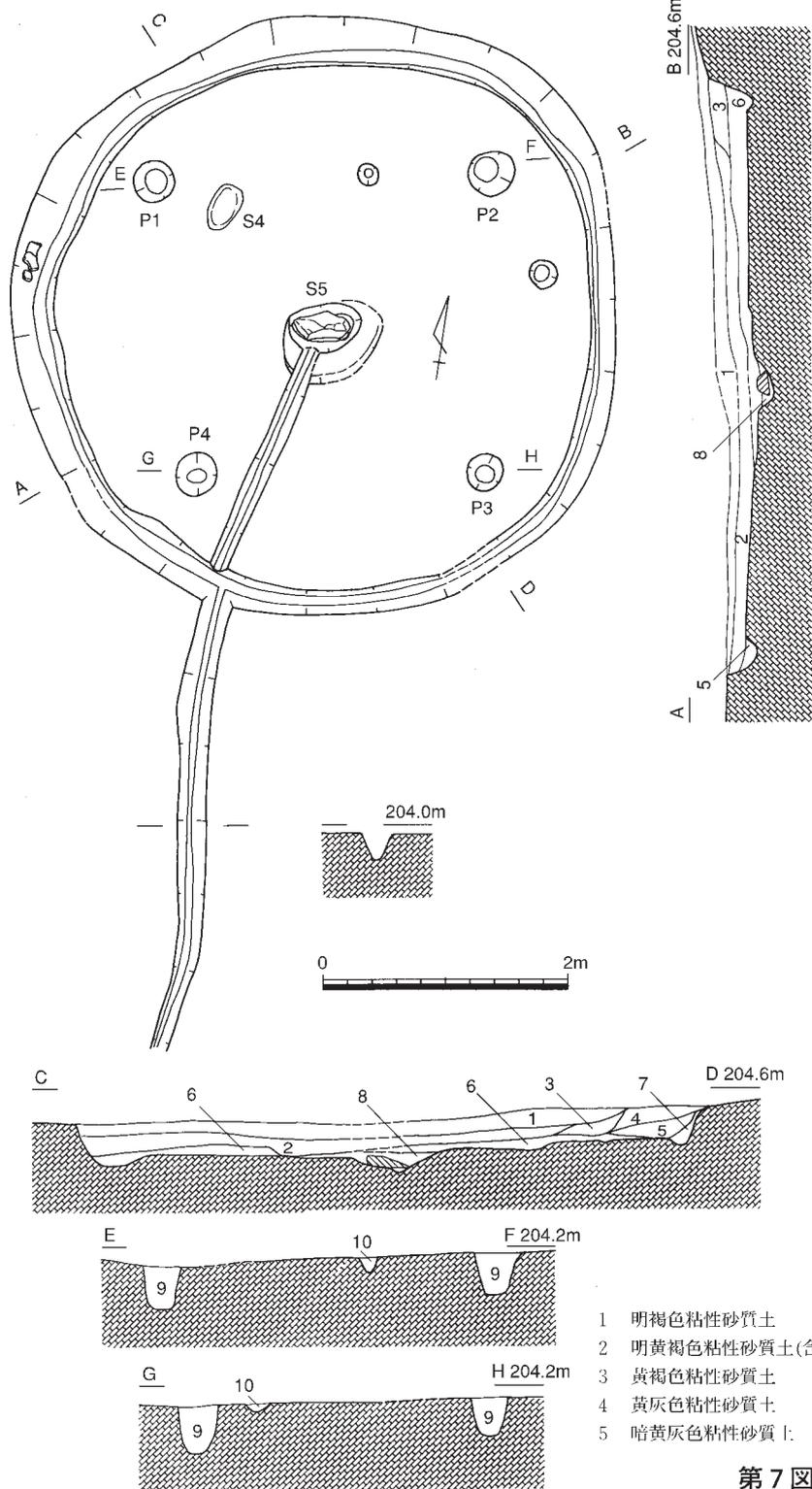
竪穴住居1 (第5・6図、図版1-2・3、11-2)

北西は調査区外に続き、東側の一部は後世の攪乱で切られていることから全容は不明である。平面



第6図 竪穴住居1 (1/60)・出土遺物 (1/2・1/4)

形は推定径3.8~4.0mの円形を呈し、検出面からの深さは35cmを測る。床面は平らで支柱穴は4個持つ。柱穴間の距離は1.5~1.7mである。壁体溝は2条巡っており、最低1度の建て替えが行われていると思われる。建て替える際には若干南側に拡張をしていることが、堆積状況からうかがわれる。また、中央穴から壁体溝に向けて溝状の窪みが掘られているが、これは起点である中央穴から徐々に底のレベルが下がっていくことと、壁体溝を介して残存長5.7mの溝があり、この溝が標高の低い方向に向かうことから、排水溝と判断した。この他に、中央穴の南西側には炭が分布している。北東隅には作業台と思われる石が床面直上に置かれていた。



は作業台と思われる石が床面直上に置かれていた。

出土遺物には、弥生土器1~6、石鏃S1がある。1は台付鉢の、2・4は甕の、3は器台のそれぞれ口縁部で、3には赤色顔料が塗布されている。5は甕の底部、6は高杯の脚部である。遺構の時期は、これらの遺物から弥生時代中期後葉であろうか。(蛇原)

竪穴住居2 (第5・7・8図、図版2-1・2、11)

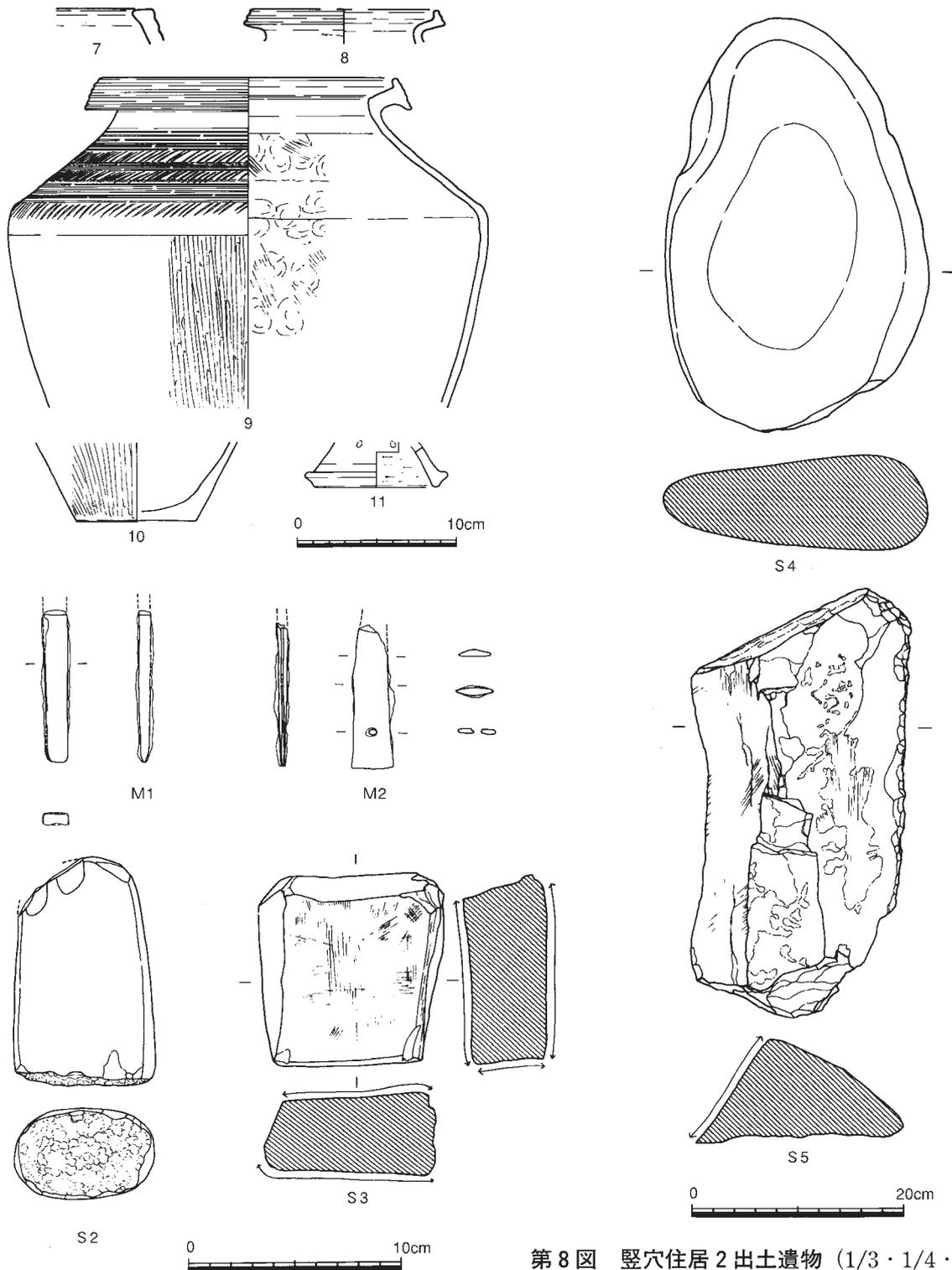
竪穴住居2は、調査区中央付近の南緩斜面上で検出された、径約5mを測る円形の住居である。一部、地山の岩盤を掘り込み、周囲に壁体溝を巡らしている。支柱穴は4個で、中央穴が存在する。支柱穴は径約30~40cm、深さは床面から約30~40cmを測る。中央穴は長径約85cmを測る不整円形を呈し、中から砥石(S5)が出土した。中央穴から南

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 明褐色粘性砂質土 | 6 褐色粘性砂質土 |
| 2 明黄褐色粘性砂質土(含炭) | 7 褐黄色粘性砂質土 |
| 3 黄褐色粘性砂質土 | 8 暗褐色粘性砂質土(含炭) |
| 4 黄灰色粘性砂質土 | 9 褐色粘性砂質土 |
| 5 暗黄灰色粘性砂質土 | 10 褐灰色粘性砂質土 |

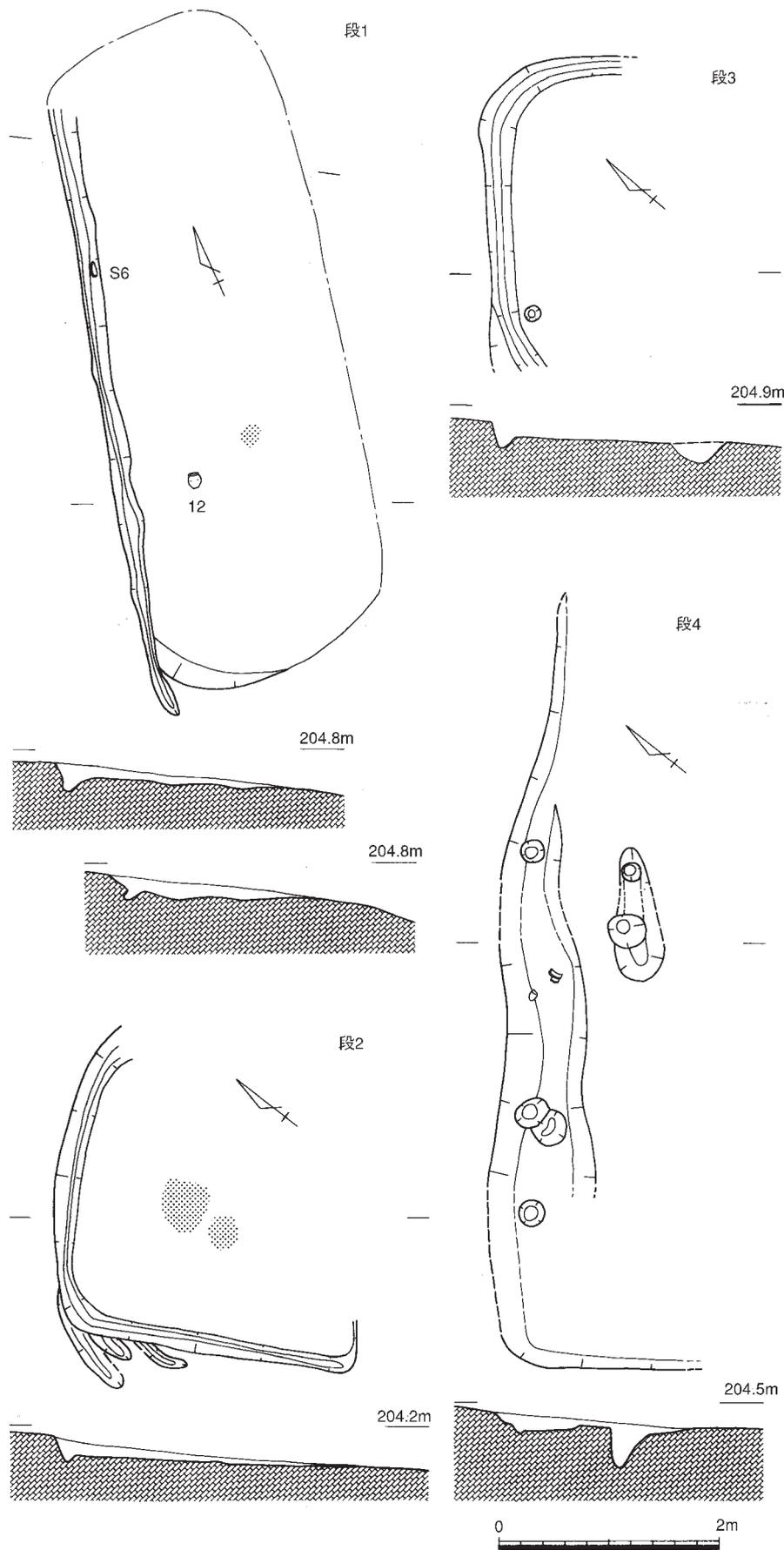
第7図 竪穴住居2 (1/60)

に向けていわゆる排水溝が住居外までのびており、検出長約6m、深さ約20cmを測る。また、住居内の北西部で床面上から作業台と考えられる台石(S4)を検出した。なお、竪穴住居の土層断面観察から住居の建て替えの可能性も考えられたが、これについては明確にすることはできなかった。

竪穴住居2から、弥生土器・石器・鉄器が出土した。7~11は弥生土器である。7は壺、8・9は甕である。9は住居内西側の壁体付近で検出された。10は底部、11は高杯の脚部である。S2~S5は石器である。S2は太型蛤刃石斧である。S3は砥石、S4は台石、S5は中央穴から出土した



第8図 竪穴住居2出土遺物 (1/3・1/4・1/6)



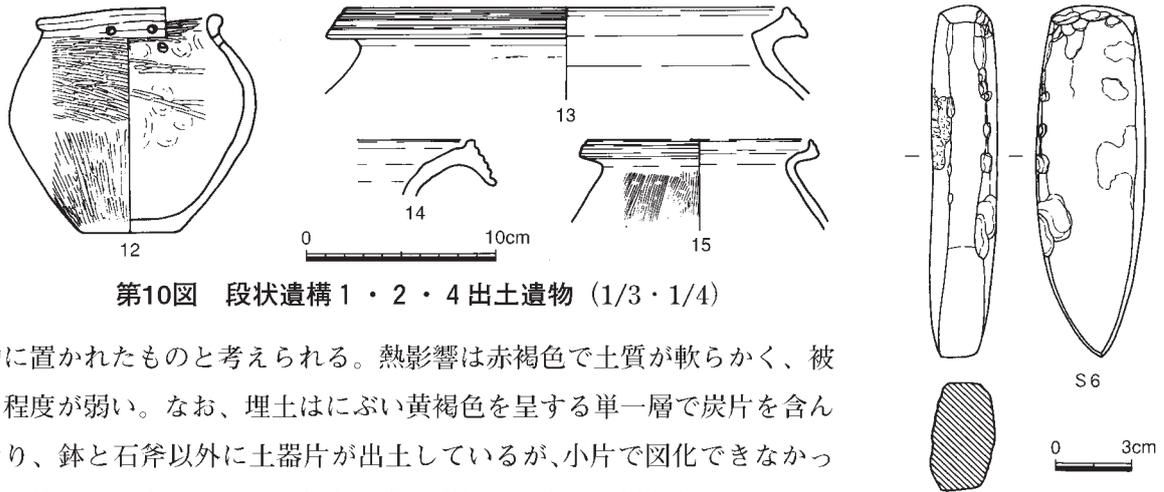
第9図 段状遺構1～4 (1/60)

砥石である。M1・M2は鉄器である。M2は穿孔が施されている。利器のような用途を想定させる。これらの遺物からこの住居は弥生時代中期後葉から後期前葉頃に営まれたものと考えられる。(金田)

段状遺構1～4 (第5・9・10図、図版2-3、3-1・2、11)

いずれも調査区北東側の斜面を利用して構築された遺構である。平坦面とそれを囲む溝が確認された。ただし、竪穴住居や土壇墓に比べて残存状況は悪く、斜面上位でも検出面からの深さが10～15cmであり、さらに斜面下位は流れていると考えられるため、本来の規模は段状遺構2を除いて不明である。

段状遺構1は、南北長6m、東西長2.3mの長方形を呈する。斜面上位の溝は、南側の収束部分は確認できたものの、北側は不鮮明である。平坦面に熱影響1か所と鉢12が、溝内にS6の柱状片刃石斧が確認された。鉢と石斧はいずれも完形品であり、出土状況から意



第10図 段状遺構1・2・4出土遺物(1/3・1/4)

図的に置かれたものと考えられる。熱影響は赤褐色で土質が軟らかく、被熱の程度が弱い。なお、埋土はにぶい黄褐色を呈する単一層で炭片を含んでおり、鉢と石斧以外に土器片が出土しているが、小片で図化できなかった。時期は、出土した鉢から弥生時代中期後半であると思われる。

段状遺構2は段状遺構1の南東に位置する。東西長2.85m、南北長2.80m程度を測り、平面形は方形と思われるが、東側約半分が流れている。北西側の隅でこの遺構に切られる溝3条を検出したが、いずれも残存状況はよくない。平坦面上で2か所の熱影響を確認した。それぞれ明赤褐色の色調で、北側の方が南側に対して土質が硬い。埋土は灰褐色土で土器片を少量含んでいる。この遺構の時期を決定する遺物は確認できなかったが、他の段状遺構とほぼ同時期と考えられる。

段状遺構3は竪穴住居1の南東に位置し、東西3m、南北1.6mが残存している。段状遺構2と同様に方形の平面であると思われるが、斜面下位が流失しているため、規模・形状は不明である。竪穴住居1の住居外にある溝を切っており、竪穴住居1より新しいことが分かった。埋土はにぶい黄褐色土で、壺14などの土器片を含んでいる。この遺構の時期は、土器から弥生時代中期後半と考えられる。

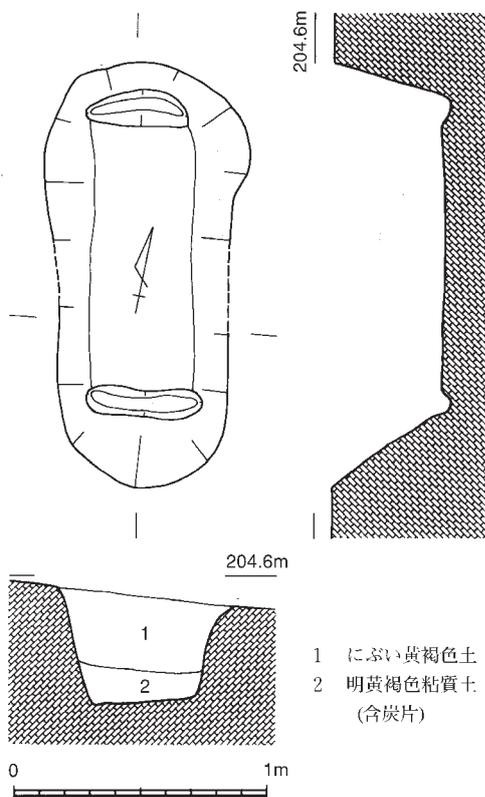
段状遺構4は竪穴住居2の北東に位置し、東西7.1m、南北1.9mが残存しているが、流失のため本来の規模・形状は不明である。斜面上位に他の段より幅広い溝が見られ、その中に柱穴が存在した。平坦面にも溝と柱穴が見られる。埋土は灰褐色土で、土器を少量含んでいる。実測できた土器には甕13・15があり、これらから遺構の時期は弥生時代中期後半に位置づけられる。

土壇墓1(第5・11図、図版3-3)

段状遺構1の北に位置する。形状から土壇墓と認識できる調査区内で唯一の遺構である。

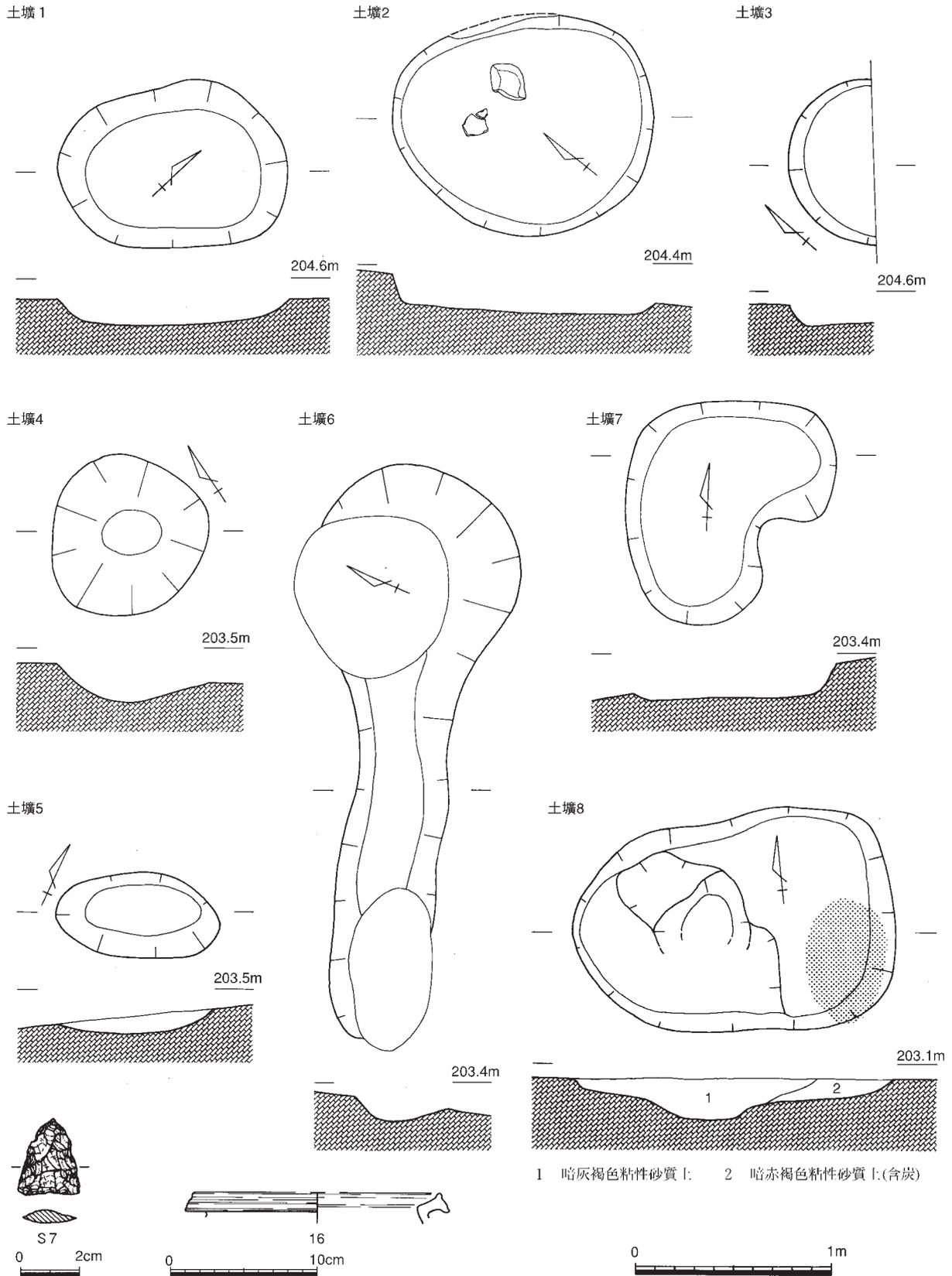
検出面での長軸長1.6m、短軸長80cm、底面での長軸長1.3m、短軸長40cmを測る。深さ5cm程度の小口溝を両端に持ち、その間の距離は1.2mである。側壁は南小口の傾斜が緩いが、他の3辺は直立に近く、底面はほぼ平坦である。土層は大きく2層に分層でき、上層に土器片を含んでいるが、小片が少量である。

時期は不明であるが、おそらく竪穴住居1・2や段状遺構1～4と同時期の可能性が高い。(氏平)



第11図 土壇墓1(1/30)

第3章 田井たれをず遺跡



第12図 土壇1～8 (1/30)、土壇2・4出土遺物 (1/2・1/4)

土壇1～14 (第5・12～14図、図版11)

土壇は14基を検出した。調査区内での分布状況をみると、中央部の尾根上から南西の斜面にかけて

位置しており、土壌1～3は竪穴住居や段状遺構の集中する部分に所在するが、土壌4～8は尾根上の南東寄りに集中し、土壌9～14は南西斜面に散在する。いずれも表土直下で検出され、遺物を伴うものが少ないため、これらの個別の時期、あるいは相互の関係については断定しがたい状況である。

土壌1は、段状遺構4の西隅に近接する。117×87cmの不整楕円形を呈し、深さ15cm程の底面はほぼ平坦である。少量の土器片があり、竪穴住居等とともに集落を構成する遺構と理解される。

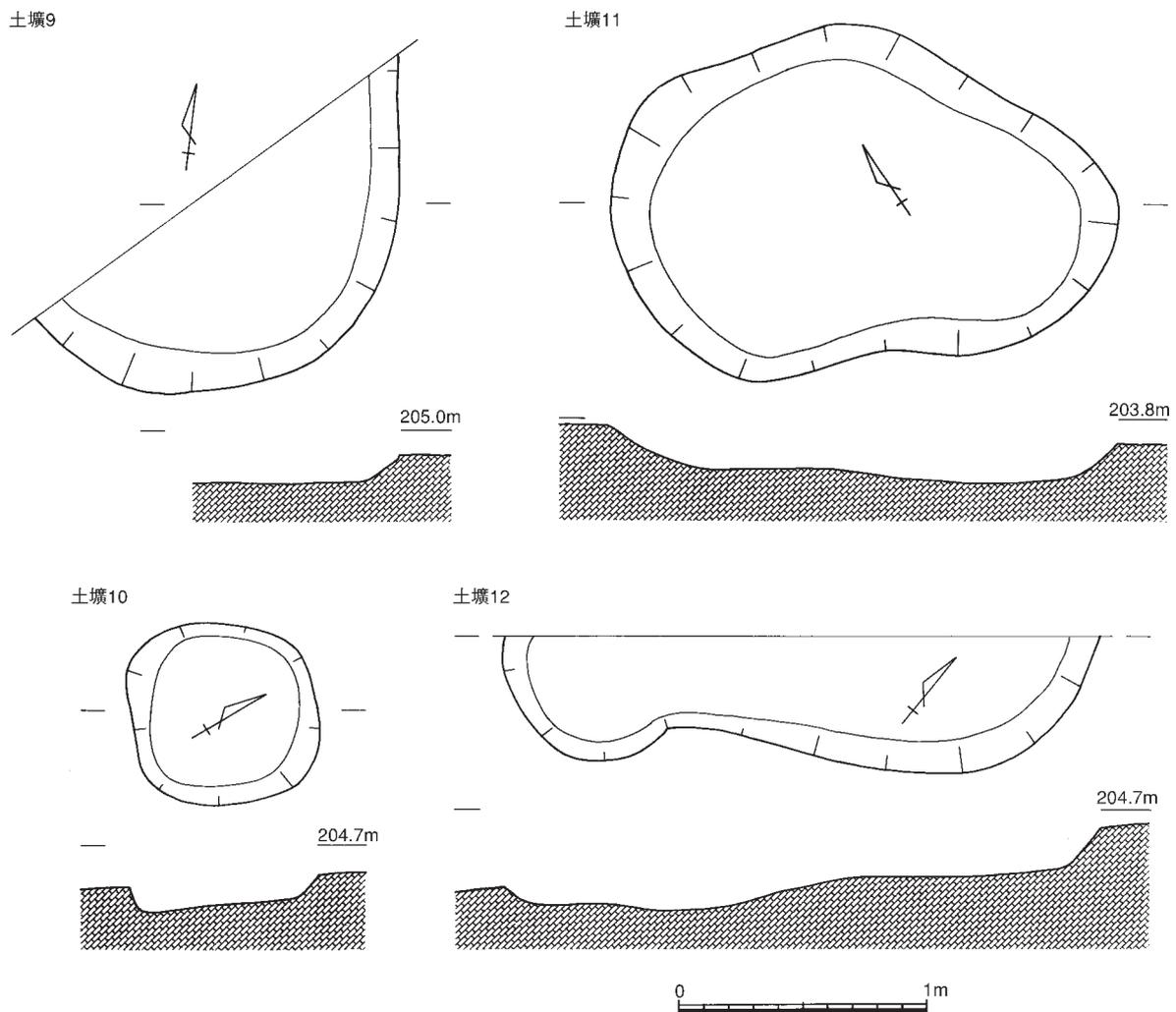
土壌2は、段状遺構4の南隅に近接して位置する。133×118cmの楕円形を呈し、深さ15cm程の埋土は灰黄色粘性砂質土で、底面は平らであるが傾斜している。底面から弥生土器の甕16が出土しており、これも集落を構成する遺構と考えられる。

土壌3は、竪穴住居2の埋没後にその北東部を切って造られている。確認調査時に南東部を損なってしまったが、長軸長87cm程の楕円形に想定される。遺物は出土しておらず、時期不明である。

土壌4～6は、中央部南東寄りで重複して検出された。土壌4は84×80×20cmの不整円形、土壌5は85×45×10cmの楕円形をそれぞれ呈し、距離1.1mを測る。2者を取り囲むように窪む範囲を土壌6としたが、いずれも明確な底面をもたない。遺物も出土せず、性格・時期ともに不明である。

土壌7は、土壌6の西に近接し、115×107×15cmの不整形で、時期不明である。

土壌8は土壌7の南西1mに所在し、165×115×20cmの不整楕円形を呈する。東半に炭を含む土が



第13図 土壌9～12 (1/30)

堆積し、その上面に65×45cmの被熱範囲が認められるが、時期・性格とも断定しがたい。

土壙9～14は、尾根の南西斜面に分布し、竪穴住居2とは6m以上離れている。平面・断面とも不整形のものが多く、遺物の出土も少ないため、時期を限定しがたい。

土壙9は、北西部を調査区外に残すが、平面形は楕円形に想定され、最大長径1.8m、最大短径0.8mを測り、深さ15cmの底面はほぼ平坦である。

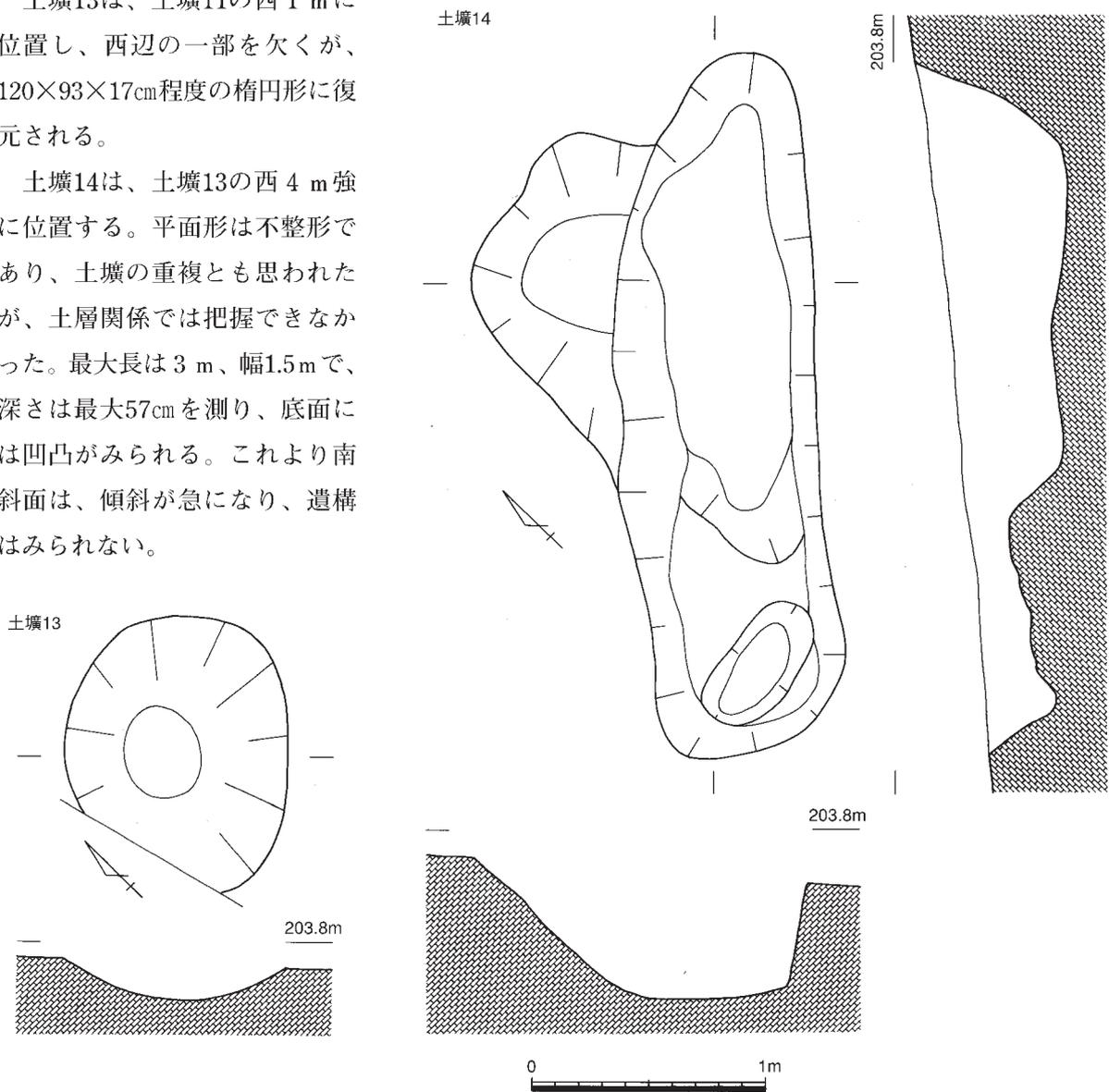
土壙10は、土壙9の南3mに位置する。1辺75cm程度の隅丸方形で、深さ10cm強の底面は南へ下がっている。

土壙11は、土壙10の南東3.3mに位置し、平面形は不整楕円形を呈する。2.05×1.35mの規模で、深さ20cm強の底面は平坦ではない。

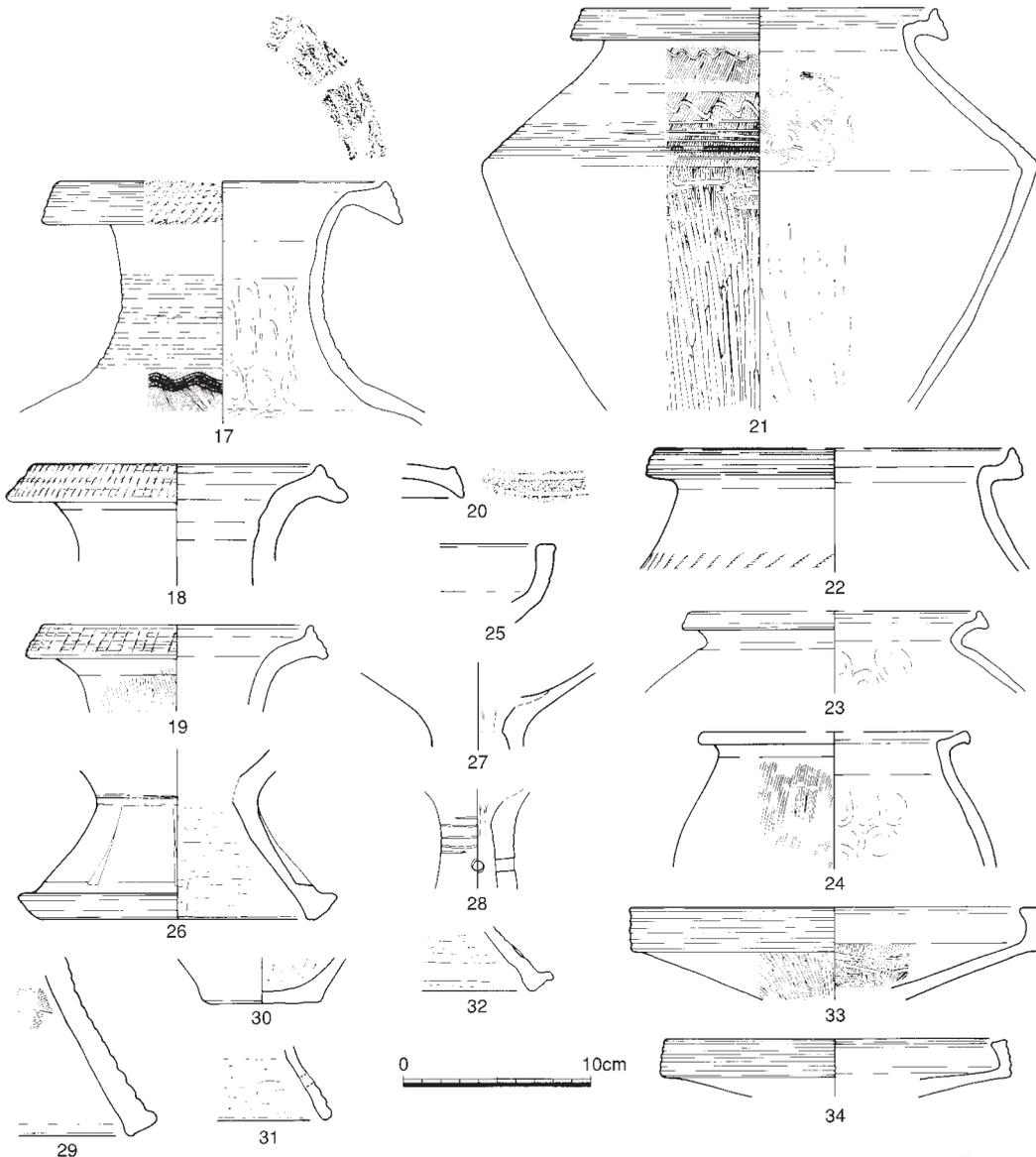
土壙12は、北半が調査区外へ続き、土壙9との距離2.5mを測る。平面形は不整楕円形に想定され、長径2.4m、最大短径55cm、深さ10cm強で、底面には凹凸がみられる。弥生土器小片の出土により、竪穴住居等との共存が考えられる。

土壙13は、土壙11の西1mに位置し、西辺の一部を欠くが、120×93×17cm程度の楕円形に復元される。

土壙14は、土壙13の西4m強に位置する。平面形は不整形であり、土壙の重複とも思われたが、土層関係では把握できなかった。最大長は3m、幅1.5mで、深さは最大57cmを測り、底面には凹凸がみられる。これより南斜面は、傾斜が急になり、遺構はみられない。



第14図 土壙13・14 (1/30)

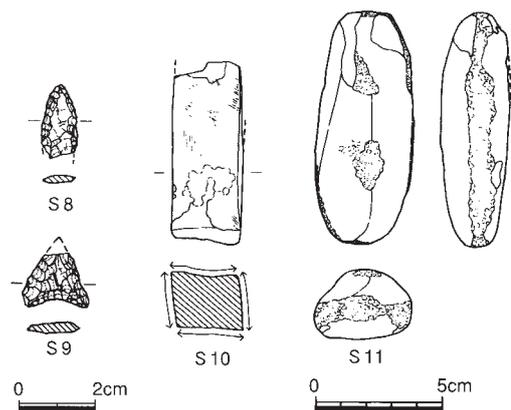


第15図 包含層出土遺物 (1/2・1/3・1/4)

包含層出土遺物 (第15図、図版11)

調査の途上で、所属遺構を特定できない遺物の出土がいくつかみられた。ほとんどが弥生土器であり、时期的にも中期後半に比定されることから、上記の遺構によって構成される集落に、その出自を求められるものと考えられる。

17～19は壺で、口縁部外面の凹線上にヘラ状工具による刻みを施している。21～24・30は甕で、肩部内面にヘラケズリは認められない。25は鉢と考えられる。27・28・31・33・34は高杯で、27・28には円盤充填が認められ、31の脚部外面と33・34の口縁部外面には凹線が施されている。26・32は脚部の破片で、26には円盤充填がみられ、貫通しない三角形の透かし孔は8～10個に復元される。20・29は器台の破片で、20の口縁部外面には鋸歯文が刻まれており、29の外面には上半に螺旋状の沈線、下半に凹線が施されている。



石器は、S8～S11の4点が出土した。S8・S9は、サヌカイト製の石鏃である。S10は4面を使用した砥石であり、S11は叩き石として使用されている。(光永)

第3節 まとめ

調査区は道路計画に基づいて、東西に続く幅の広い丘陵の一部を横断する形で設定されている。この丘陵は、調査区より南東では緩く下がっており、北西方向に緩く上って西方向へ延びる別の丘陵と合流して頂部となっている。調査区より北東の斜面は、遺構のみられなかった調査区の南西部と同様の傾斜で下がっている。このような地形条件にあって、遺構は丘陵上に集中し、なおかつより高位部に集中している状況がみられる。このことから、検出された遺構がその一部を構成する集落の本体は、調査区より北側の丘陵部へ向けて中心をもつと想定され、調査区は、この集落の南東方向の一部に相当するものと思われる。

竪穴住居2軒は、距離が5m程あり、それぞれが1回の建て替えを想定できるなど、同時併存の可能性が高いと思われる。これらと段状遺構4基の関係については、竪穴住居1の屋外溝が段状遺構3に切られたり、竪穴住居2と段状遺構3・4との距離が3m程度と近いことなどから、すべてが同時併存とは考えがたい。

段状遺構4基については、平面形が方形のもの2基(2・3)と長方形のもの2基(1・4)に分けられる。段状遺構4を除いて柱穴を伴わず、段状遺構4についても上屋を支える位置にないことから、柱穴の有無を考慮しなければ、山側に溝をもつこと、床面に被熱箇所がみられることなどに、共通点を見出せる。また、それぞれが2基ずつであることから、これがセット関係になる可能性も考えられる。その際には、床面の高さで1と3、2と4の組み合わせが想定でき、距離の関係からは1と2、3と4の組み合わせが可能になるが、3と4が近すぎることから、前者の可能性が高い。また、二つの組み合わせが同時併存しないとすれば、竪穴住居の建て替えに対応する可能性も考えられる。

このうち、方形のものについては、田井ちご池遺跡・岡東高塚遺跡で方形竪穴住居状遺構と呼ぶ遺構との比較が必要になる。方形竪穴住居状遺構との共通点としては、その平面形の他に、壁体溝状の溝や床面の被熱痕跡があげられる。柱穴の有無に関しては、田井ちご池遺跡に柱穴をもたない例がある。相違点としては、中央穴をもたないことと、長方形の段状遺構とセット関係が想定されることがあるが、岡東高塚遺跡では小さな段状遺構も検出されている。

土壙墓1については、遺物の出土が無く、形状から弥生時代の遺構とみなした。集落との同時期の存在を考えたが、この場合は、段状遺構1との距離が2m強と近く、竪穴住居1からも距離は12m離れるものの高さは50cm程しか下らない平坦面の東端であり、集落の中とみなされる位置に所在することになる。底面の長さが1m強と短く、集落内に埋葬されている状況からは、被葬者を小児用の甕棺に入らない未成人の子供と想定することができようか。また、検出位置が調査区の北端で1基のみの検出であり、調査区外に他に複数の土壙墓が所在すれば、集落が移動した後に造られた後期以降の土壙墓群となる可能性を否定しきれない。

石生＝田井低地縁辺部での、弥生時代後期の集落、弥平治遺跡・能部遺跡の立地をみると、後期以降の集落は、より低地に近い位置に移動したことが考えられる。(光永)

第4章 田井ちご池遺跡

第1節 東区の概要

田井ちご池遺跡は、間山山地の中央部で、最高所に近いところに所在する。東西に続く山塊の脊梁から、北方向へ張り出す二つの尾根上で発見された遺跡について、確認調査時にはB区およびC区として別地点で扱ったが、小字名から田井ちご池遺跡として1遺跡とし、東の尾根上に所在するC区を東区、西の尾根上のB区を西区と呼ぶ。二つの尾根は間に深い谷を挟んで約60mの距離で対峙するが、十分に声の届く距離である。

東区の尾根上は、海拔256～257mで幅20m程度の平坦面となっており、南側の調査区外には経塚が所在し、北側は尾根が緩く下がっている。平坦面のうち、南側の400㎡を全面調査対象として、人力で表土を除去し、遺構検出を行った。

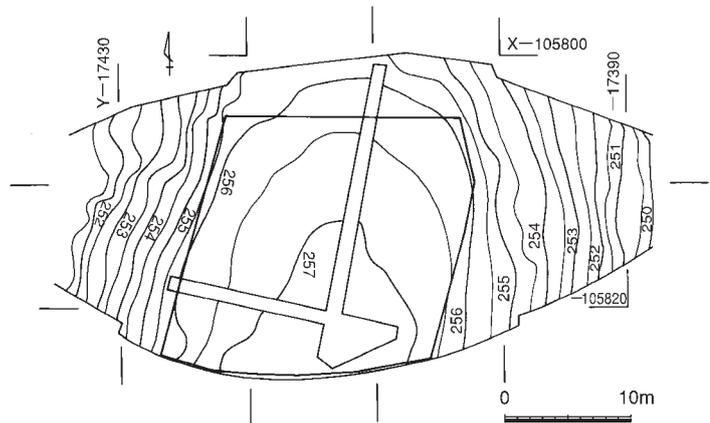
調査の結果、確認調査では検出されていない弥生時代の方形竪穴住居状遺構1軒と土壇2基、古代以降の土壇3基を検出したが、経塚関連の遺構は検出されなかった。

方形竪穴住居状遺構1（第17・18図、図版4-2）

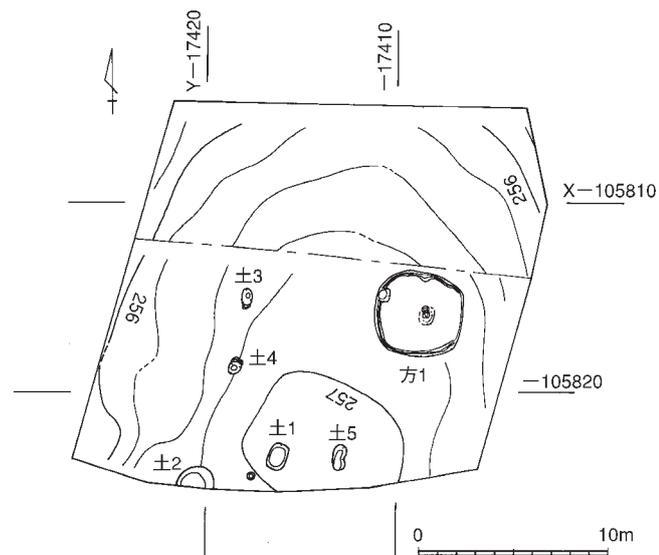
調査区東部の平坦面肩口に所在し、調査区南端から7m離れている。

平面形は隅丸方形を呈し、東西長4.7m、南北長4.5mを測り、西および南の側壁で20cm、北から東の側壁で10cmが残る。東辺を除く3辺には周溝が巡るが、西辺で5cm程の深さに掘られるものの、東に向かうほど浅くなっている。側壁の北西隅近くには方形の掘り込みがなされ、65×60×10cm程度の規模を示す。北辺中央部にも周溝の幅が広がる部分がみられるが、基盤の強弱に起因し、意図的なものとは考えられない。

床面はやや東に下がっており、中央よりやや東に寄って中央穴、その北側に焼土面が検出された。中央穴は、深さ5cm程度の窪みが90×70cm前後の長方形に掘られ、その北半が15cm程さらに掘り窪め



第16図 田井ちご池遺跡東区調査前地形図（1/600）



第17図 田井ちご池遺跡東区全体図（1/400）

られている。埋土には顕著な炭・灰の堆積は認められなかった。焼土面は70×55cm程度の楕円形に赤く熱影響を受けており、さほど強い被熱とはみられない。焼土面上には弥生土器の甕1とともに台石と考えられる石があり、台石は中央穴の南東方向にも所在した。遺構は岩盤を掘り込んで造られているが、床面に柱穴は検出されなかった。

遺物は、焼土面上から出土した1の他に、弥生土器の甕2～4・6、鉢5が出土しており、時期は弥生時代後期に求められるが、細分は難しい。

土壌1 (第17・19図)

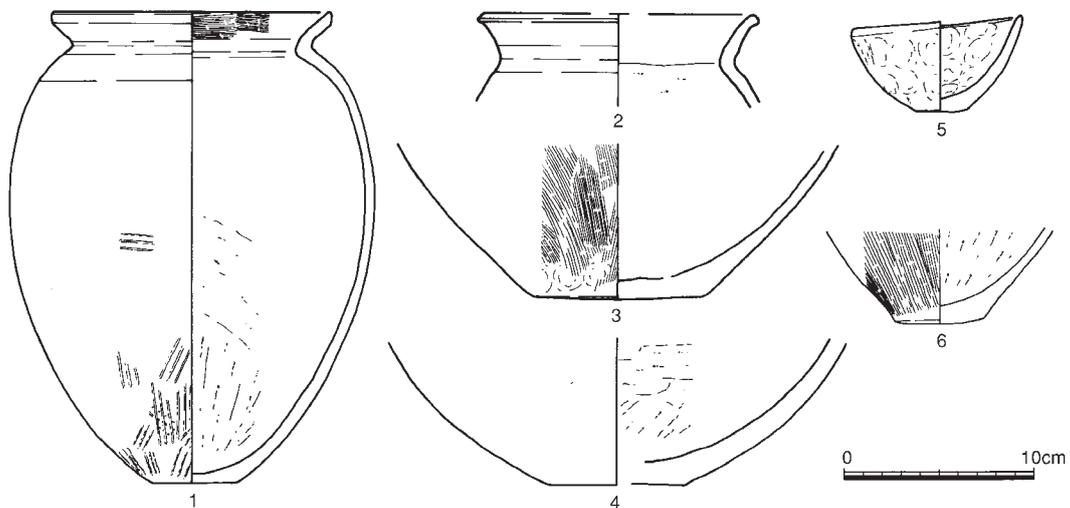
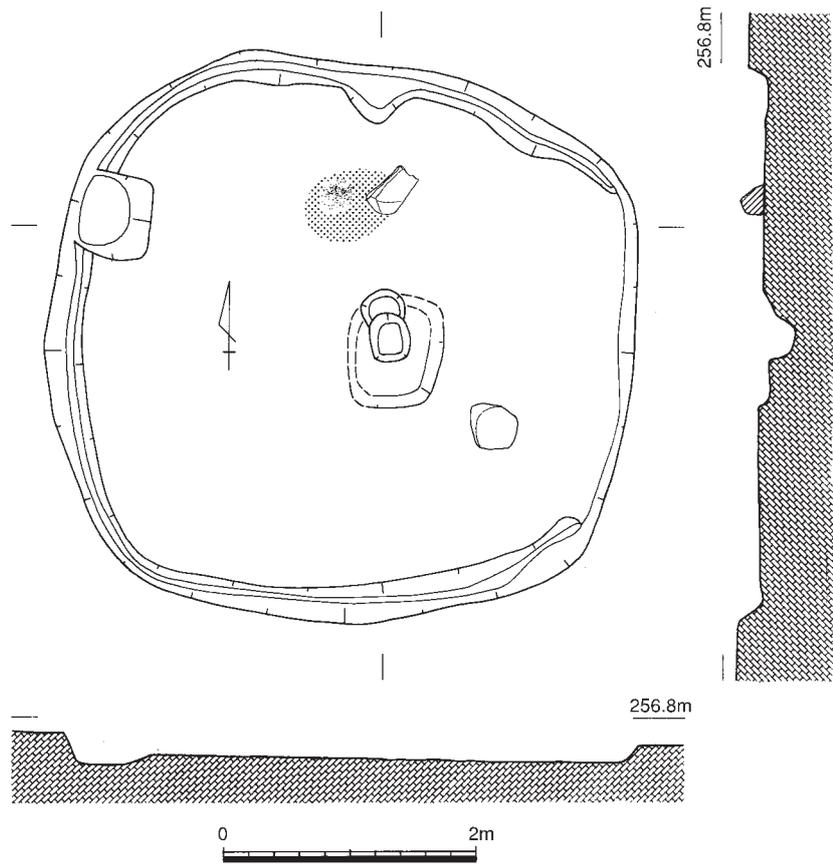
調査区の南端で、ほぼ中央部に位置し、方形竪穴住居状遺構1との距離は約7mである。

平面形は長方形を呈し、長さ140cm、幅98cm、深さ15cmの規模を測って、底面は103×74cmの楕円形で、ほぼ平坦である。

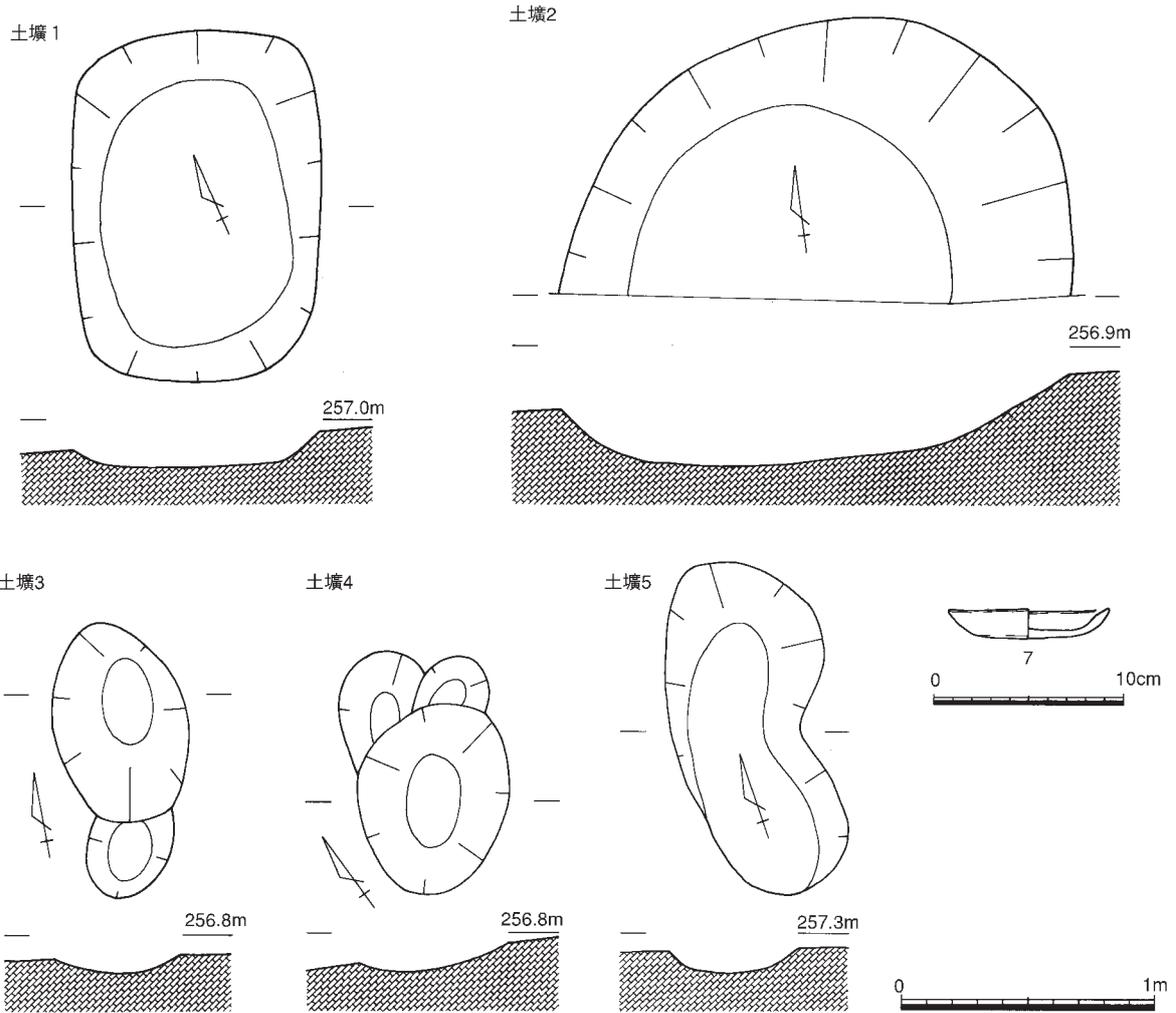
弥生土器小片が出土しており、埋土からも方形竪穴住居状遺構1と同時期の可能性がある。

土壌2 (第17・19図)

調査区南端で、土壌1の西2mに位置して、南半を調査区外に置く。平面形は円形と想定され、



第18図 方形竪穴住居状遺構1 (1/60) ・出土遺物 (1/4)



第19図 土壙1～5 (1/30)・出土遺物 (1/4)

最大径2mを測る。深さ40cm程度の底面は平坦に近い。遺物は出土していないが、埋土から弥生時代の遺構とみなされる。

土壙3～5 (第17・19図)

調査区の南半に点在する不整形で浅い小形の土壙である。

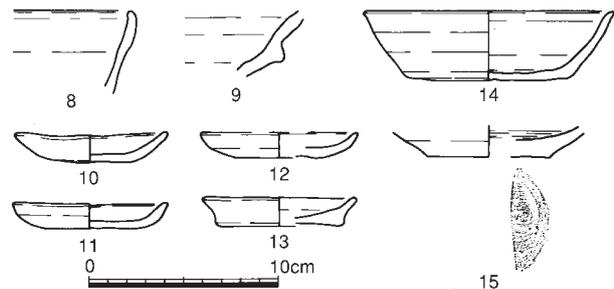
熱影響は認められないが、いずれも埋土に炭を含み、土壙5から土師器の小皿7が出土したことにより、古代以降の遺構とみなされる。

遺構に伴わない遺物 (第20図)

表土および流土から、遺構との関係を決めがたい状況で、いくつかの土器が出土している。

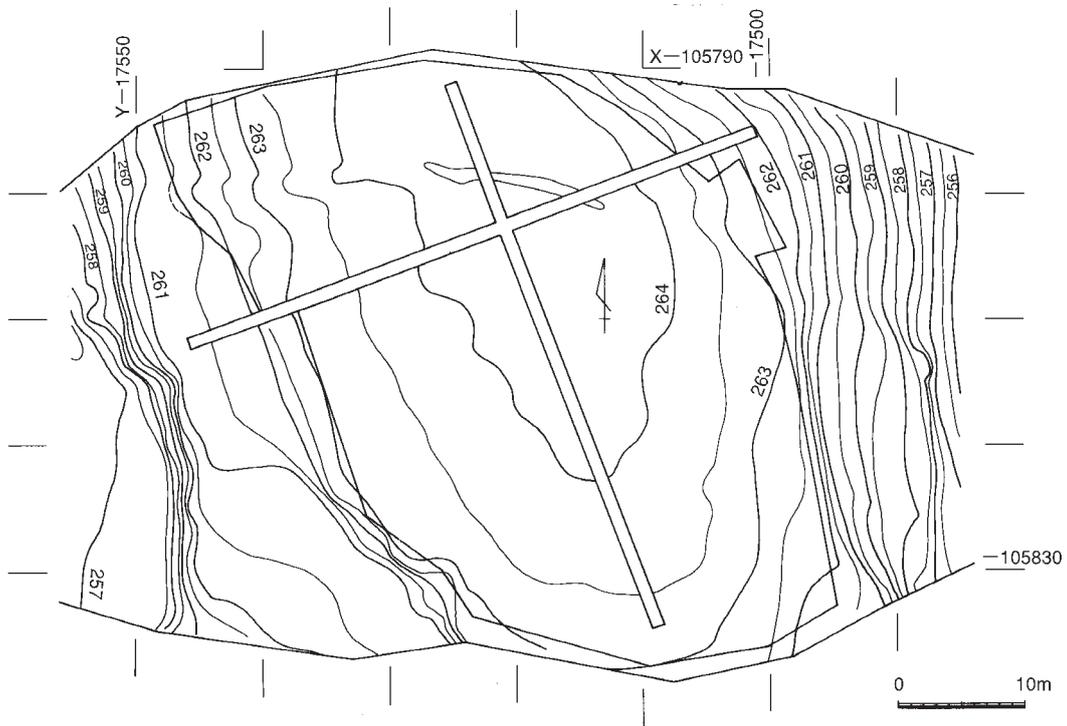
8・9は、弥生土器の鉢と鼓形器台の小片であり、弥生時代後期のものと考えられる。

10～13は土師器の小皿、14は同じく土師器の杯で、15は勝田焼碗の底部である。平安時代後半のものであろうか。

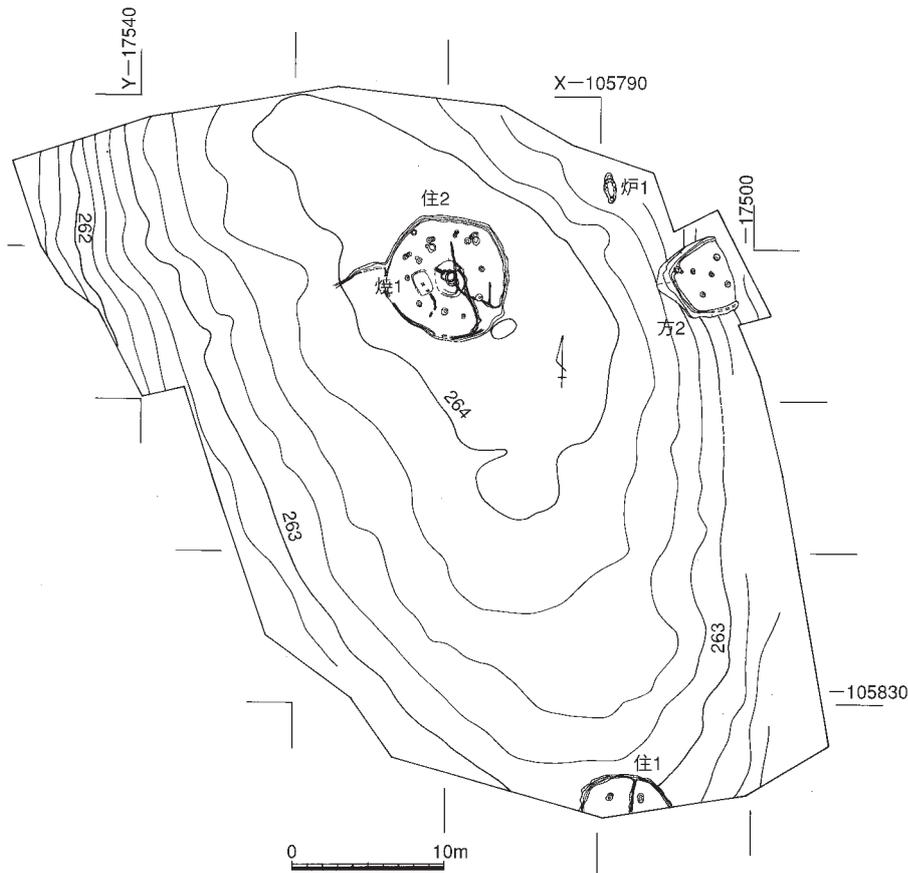


第20図 東区包含層出土遺物 (1/4)

第2節 西区の概要



第21図 田井ちご池遺跡西区調査前地形図 (1/600)



第22図 田井ちご池遺跡西区全体図 (1/500)

西区の尾根は東区よりも幅が広く、約35m程が緩やかな傾斜で平坦面に近い状況を呈している。この尾根頂部は調査区の南へ続き、その先端からは、勝間田低地を見下ろすことができる。

確認調査において北寄りの最高所で弥生時代後期の竪穴住居を検出し、この平坦面に集落が営まれたことが想定されていた。

全面調査は、平坦面の約1,900㎡を対象

として、人力によって表土を除去し、基盤層上面で遺構検出を行った。その結果、弥生時代の竪穴住居2軒・方形竪穴住居状遺構1軒、古代以降の焼土壇1基・炉状遺構1基を検出している。

竪穴住居1（第22・23図、図版4-3）

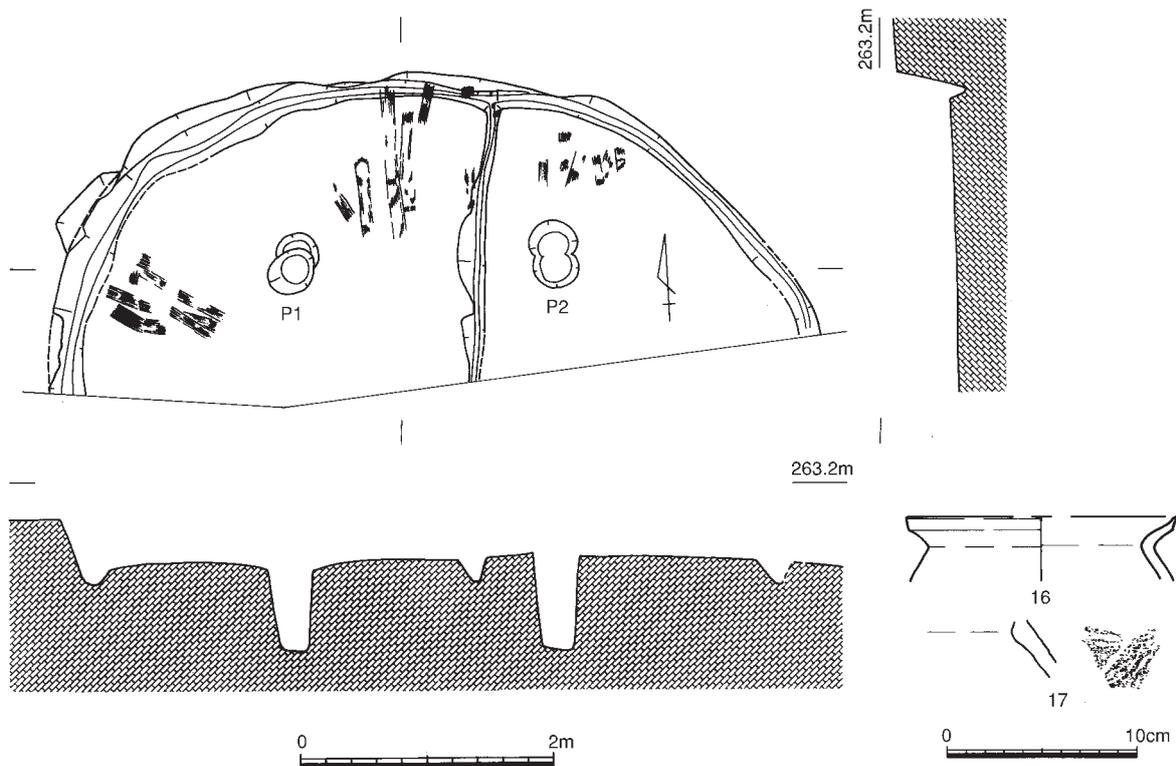
調査区の南端ほぼ中央に位置し、南半を調査区外に置く。竪穴住居2との距離は31mを測る。

平面形は不整な円形と想定され、検出された最大径は6.15mである。側壁は、東辺では残っており、北西部で高さ30cm程度を測った。側壁に沿って壁体溝が巡らされているが、基盤層が岩盤のために、幅10～30cm、深さ3～15cmと、規模は不均一である。この壁体溝の北辺中央部から床面の中央部へ向かって、幅10～20cm、深さ5～15cmの溝が掘られている。中央穴を検出していないので、これとの関係は不明であるが、周辺の地形が南東方向へ緩く傾斜していることを考えると、住居を横切って南東方向の住居外へ通じる排水溝とみなしうる。柱穴は、側壁から90～120cm離れて2個を検出した。いずれも1回の建て替えに伴って掘り直されており、柱穴間の距離は、約2mである。掘り方は、径30cm前後の円形で、深さは60～75cmである。柱の構成については、検出部分の範囲から考えて、4本とも6本とも決めがたいところであるが、検出最大径から4本の可能性が高いものとしておく。

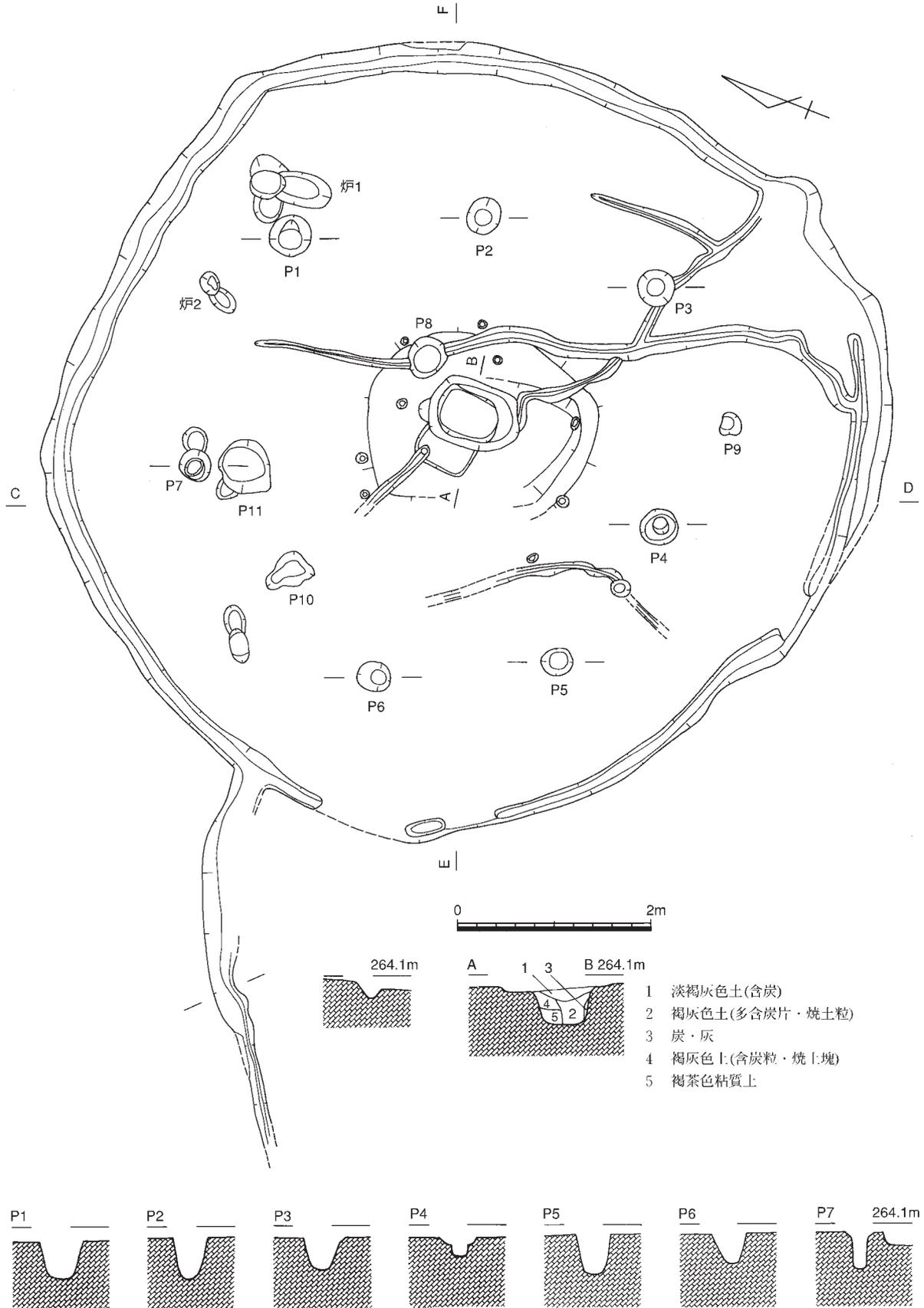
埋土は灰黄色で、焼土・炭化材を多く含み、火災にあって廃棄されたことを示している。炭化材のうち、材としての太さ・向きを示すものを図示しているが、いずれも屋根材、主に垂木材と思われ、幅10cm程度で、中央へ向かって検出された。

埋土からは少量の弥生土器が出土している。図示できたのは、甕16・17の2点のみであるが、16は内外面とも剥落して調整不明であり、17は外面に平行タタキが施されている。

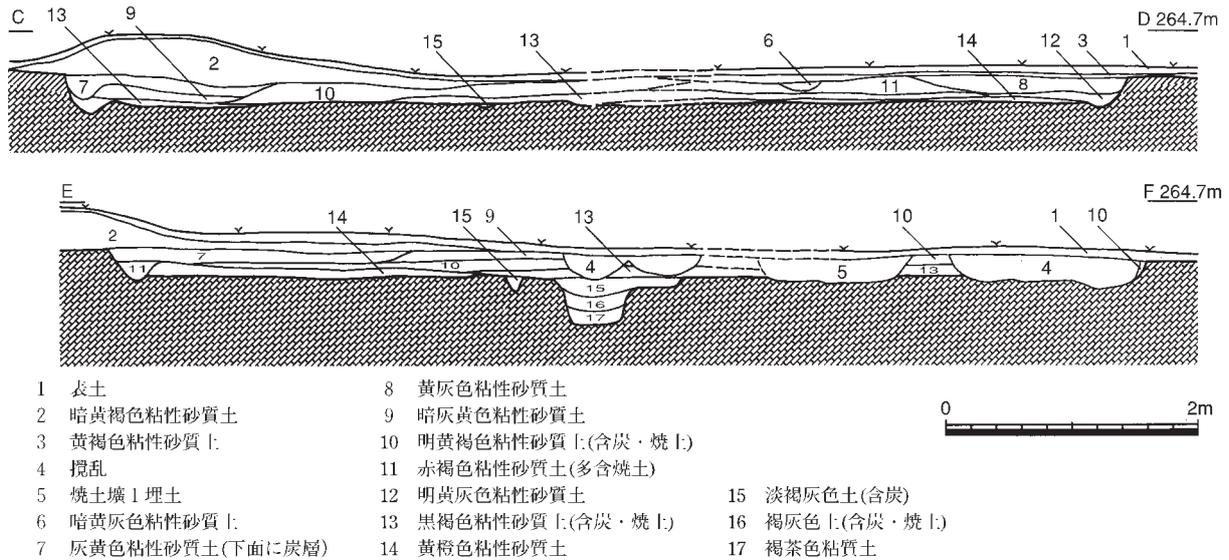
出土遺物と、竪穴住居2と同様の火災状況から、竪穴住居2と同時期に集落を構成した弥生時代後期後半の遺構と考えられる。



第23図 竪穴住居1（1/60）・出土遺物（1/4）



第24図 竪穴住居 2 (1/60)



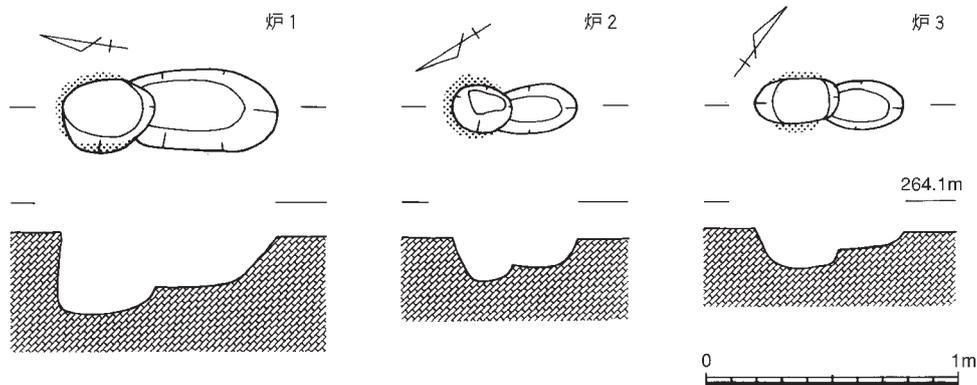
第25図 竪穴住居2土層断面図 (1/60)

竪穴住居2 (第22・24～29図、図版5、6-1、11-2、12)

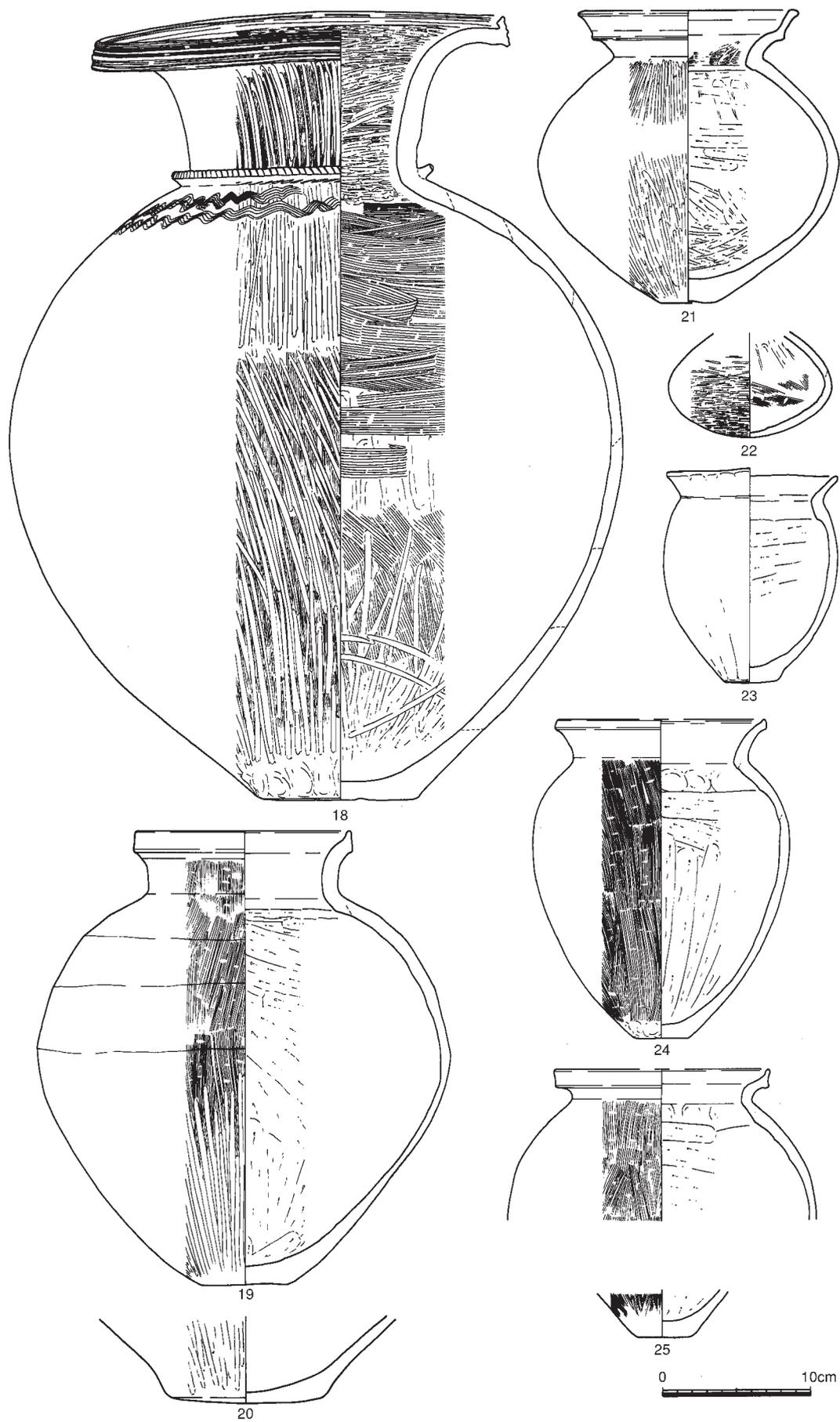
調査区の北寄り中央部で、尾根上面の最高所に位置する。一部を焼土層1に削られ、方形竪穴住居状遺構2との距離10m、竪穴住居1との距離31mである。

北辺に直線的な部分がみられる一方で、南辺は弧状を呈しており、平面形は不整な隅丸方形とでもいえようか。規模は、南北長8.1m、東西長8.2mを測り、側壁は残りの良いところで高さ25cm程度である。埋土中には、第25図に示すように焼土・炭化材が多量に含まれており、火災にあったことが知られる。炭化材を、材として認識できるものについて、第29図に示しているが、いずれも垂木材と考えられ、柱・梁等にみなしうるものは確認できなかった。焼土については、炭化材の上層からも下層からも出土しており、家屋構造を判断できる状況にはなかった。

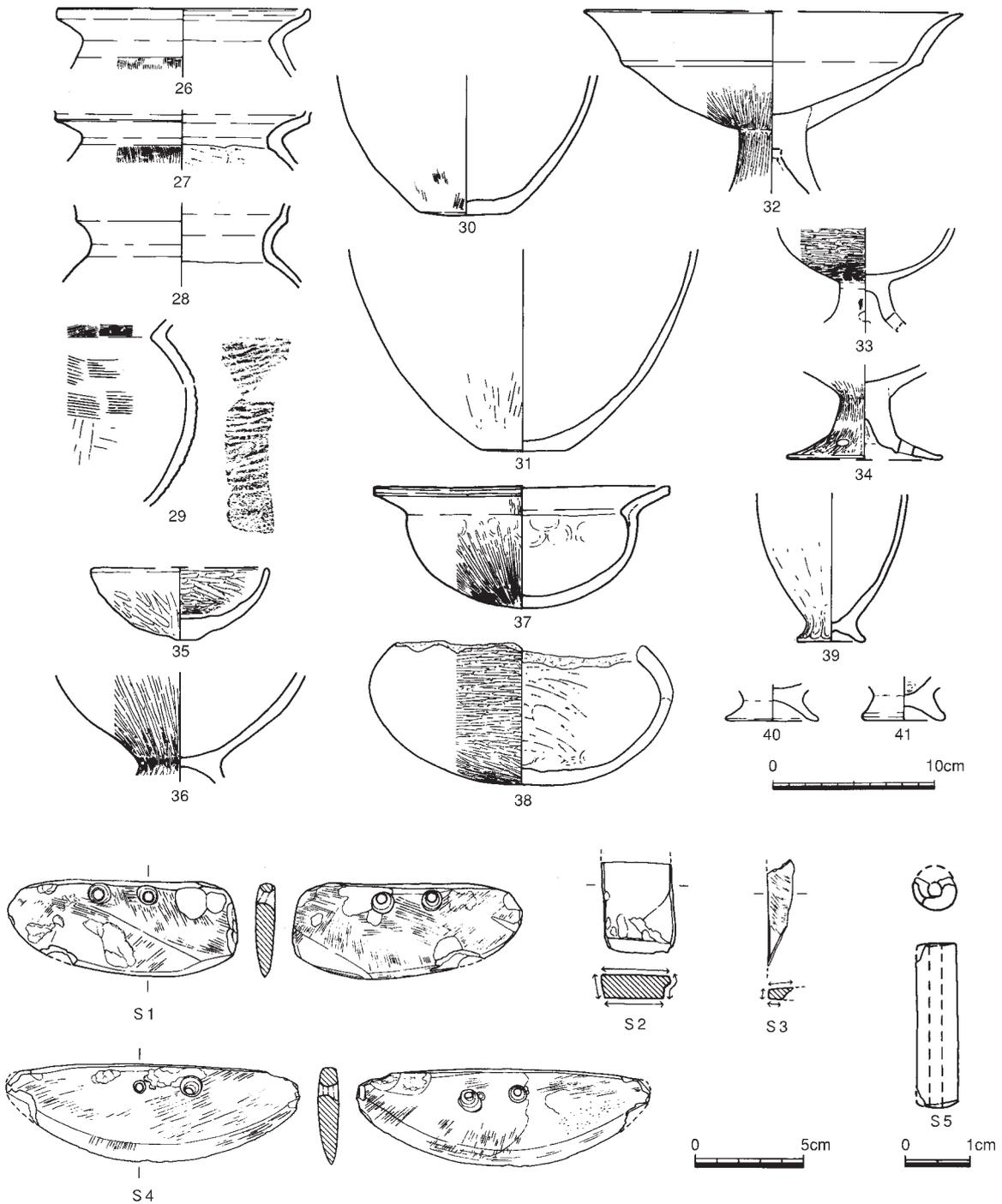
側壁に沿って壁体溝が巡らされている。南東隅でやや不明瞭であったが、幅10～25cm、深さ2～10cm程度の規模を示し、南半で途切れる部分もみられる。壁体溝の南東部から、2条の溝が交差するようにして中央部へ向かっているほか、壁体溝へ直接つながる部分は確認できなかったものの、南西部にも細い溝が1条みられる。また、西辺の中央付近から、住居外の南西方向へ掘られた溝が約4mにわたって確認できた。これらは、いわゆる排水溝とみなされる関係にあるが、壁体溝も含めた各溝の底面高には一定の規則性は認められず、その機能をどの程度果たしていたかは不明である。



第26図 竪穴住居2 炉1～3 (1/30)



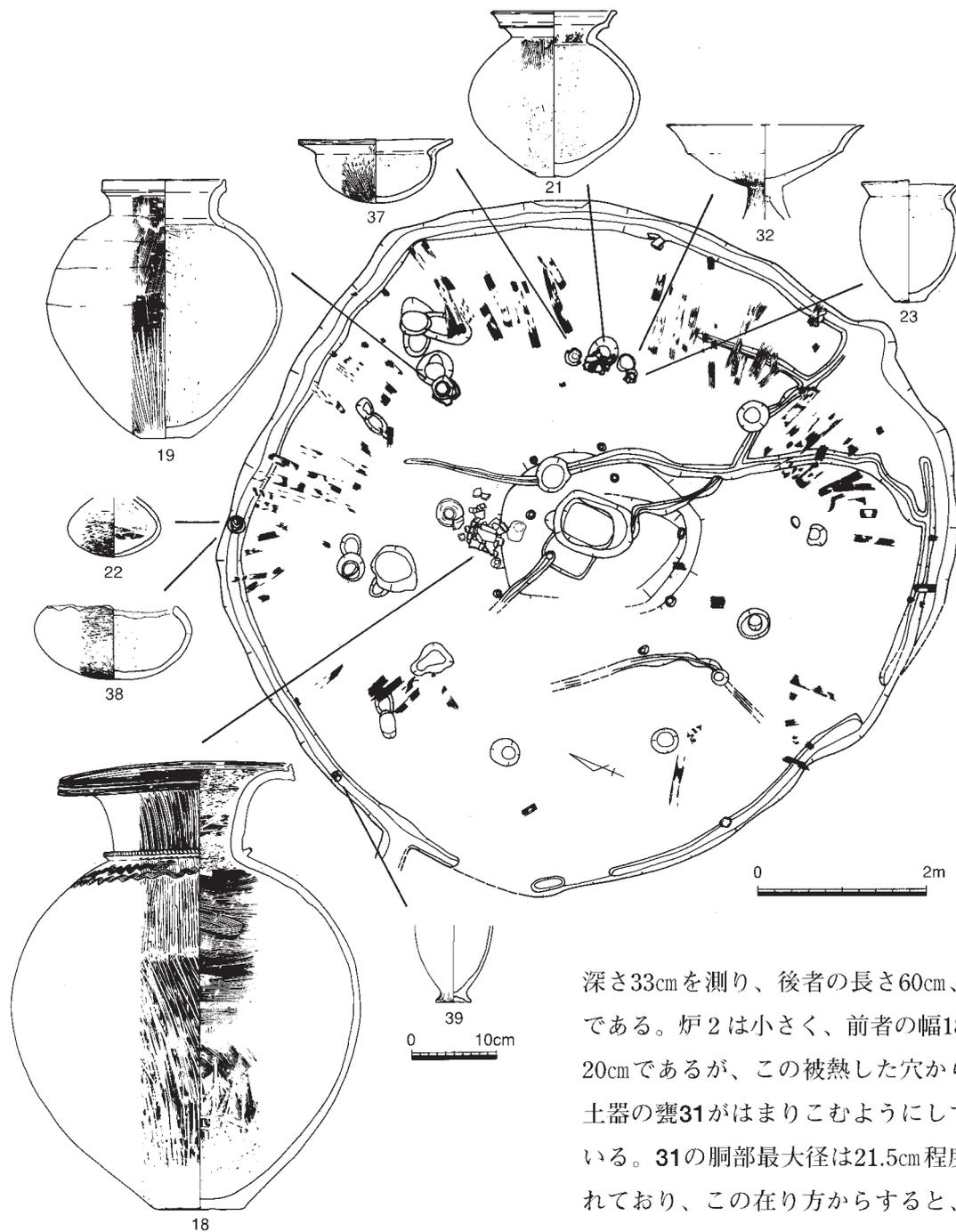
第27図 竪穴住居2 出土遺物(1)(1/4)



第28図 竪穴住居2出土遺物(2) (1/1・1/3・1/4)

主柱穴は、P1～7の7個を考えている。径は30～45cmの楕円形であるが、深さが20～40cmと不揃いであり、相互の距離も135～250cmとばらつきが大きいものの、他の組み合わせは難しいようである。これ以外の床面にみられる小柱穴については、用途不明である。中央穴はほぼ中央に位置し、190×170cmの範囲で土手状に高くなった部分の中央が、60×50×40cmの大きさに掘り窪められ、炭・焼土を多く含む土で埋められている。その北西部には、60×30cmの浅い段がとりついている。

床面の北半では、3基の炉状遺構が検出された。構造は共通しており、側壁に弱い熱影響を受けた楕円形の穴に、底面がこれより数cm高い穴がとりついている。規模は、炉1で、前者の穴が幅28cm、



第29図 竪穴住居2 炭化材検出状況 (1/80)
・床面出土土器 (1/8)

深さ33cmを測り、後者の長さ60cm、深さ24cmである。炉2は小さく、前者の幅18cm、深さ20cmであるが、この被熱した穴からは、弥生土器の甕31がはまりこむようにして出土している。31の胴部最大径は21.5cm程度に復元されており、この在り方からすると、これらの遺構は甕を載せるカマドとしての機能を持っていたものかもしれない。

出土遺物には、弥生土器の壺18~22・38、甕23~31、高杯32~34、鉢35~37、製塩土器39~41の他に、磨製石包丁S1・S4、砥石S2・S3や、碧玉製の管玉S5がある。これらのうち、床面および柱穴からの出土遺物については、第29図に位置を示しているが、いくつかを紹介すると、中央穴の北で壺18が一括出土し、その下から管玉S5が出土している。壺22は、鉢に転用された壺38の中に入れ子の状態で側壁近くから出土し、製塩土器39も側壁近くから出土している。石包丁S1は高杯32近くの床面から、砥石S3はP1から出土している。

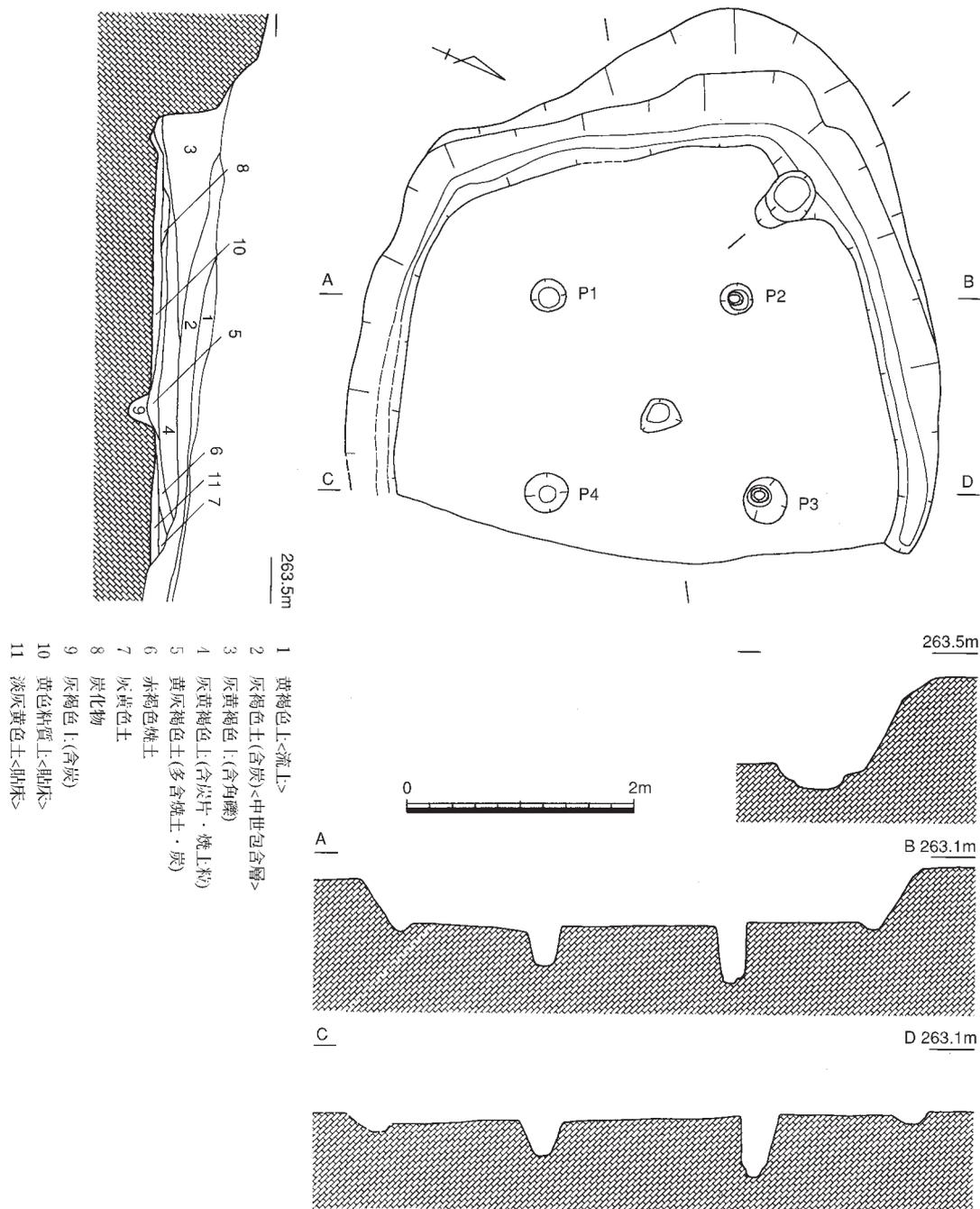
これらの時期については、壺18に古い要素がみられるものの、壺21の口縁部の形状や、壺22・38の丸底の形状、あるいは高杯32からは、後期後半に比定される。

方形竪穴住居状遺構 2 (第22・30~32図、図版6-2・3、7-1、11-2、12)

調査区の北西で、平坦面から約1.5m程下がった、谷への傾斜変換点に位置する。

検出された平面形は、谷側に開いた台形状で、山側の側壁がやや傾斜の緩くなる範囲まで含めると1mに達するのに対して、谷側ではほとんど側壁が認められない。谷側での幅5.2m、奥行き約4mの規模であるが、P1と側壁との距離が1.2mあるのに対して、P4の20cm東で床面が不明瞭になっており、本来は谷側に盛り土がされて、最大1m近く貼り床された床面が続いていたと想定される。

主柱穴は4個で、柱間は1.65~1.80mを測り、柱穴は径30~40cm、深さ30~55cmの規模である。35×25×20cm程度の小さな中央穴があり、弱い熱影響が認められる。東辺を除く3辺にやや幅広の壁体溝が掘られているが、その北西隅には60×40×20cm程のポケット状の掘り込みがとりつき、ここか

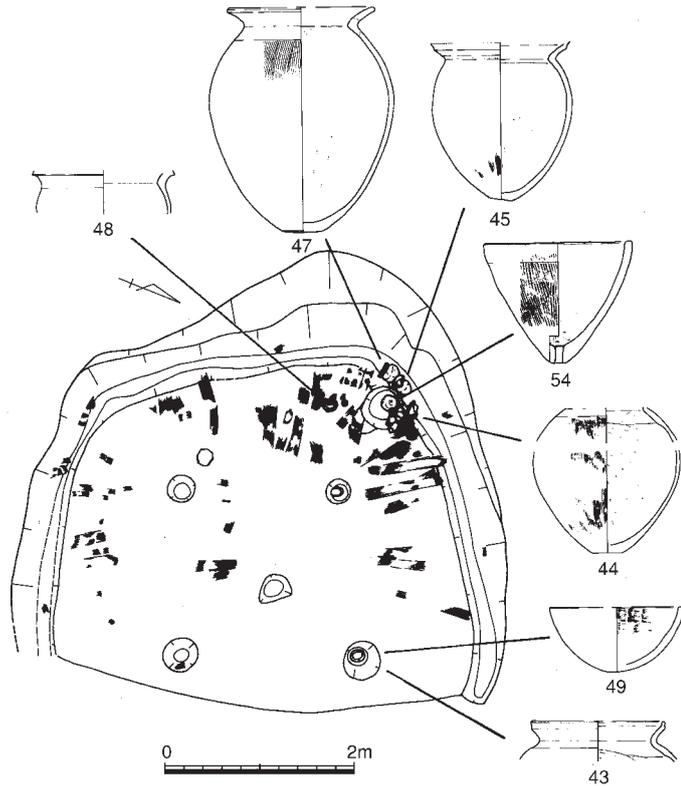


第30図 方形竪穴住居状遺構 2 (1/60)

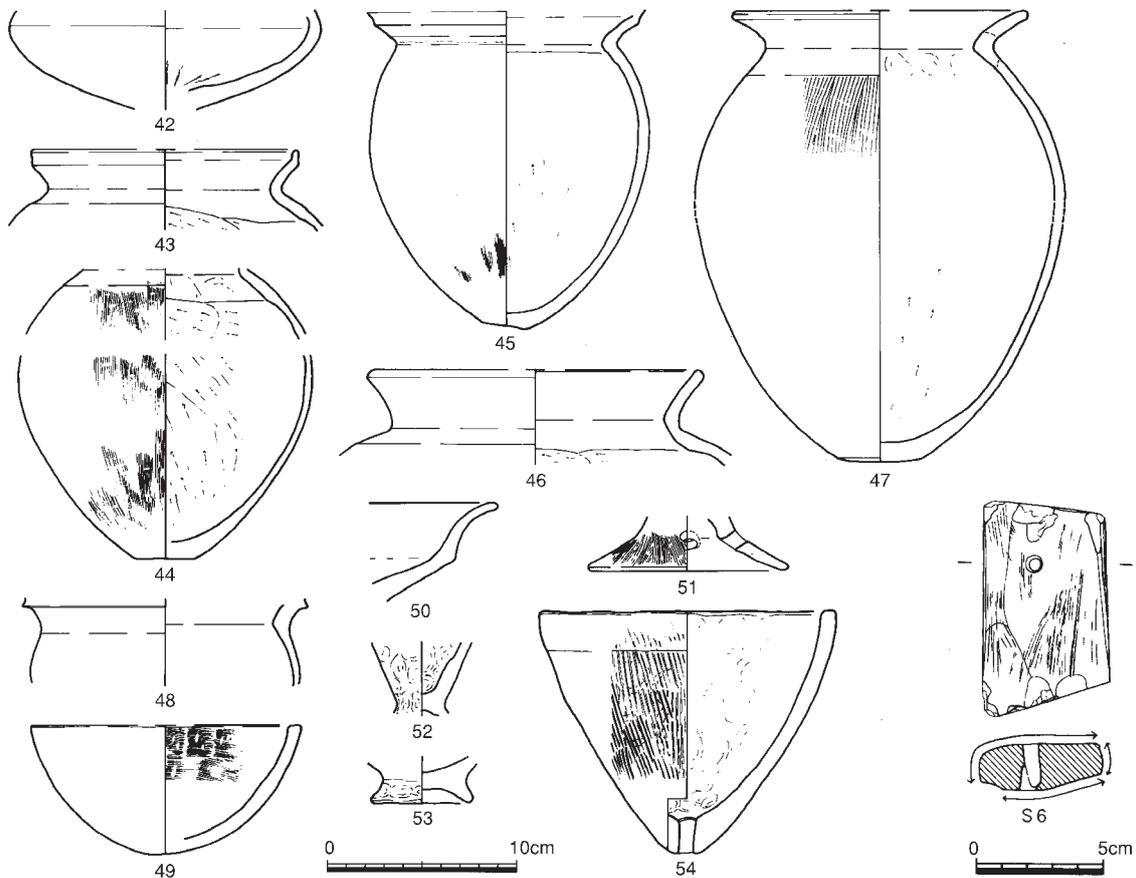
ら弥生土器の甕44・45・47と鉢54が
まとまって出土している。この掘り込
みには被熱痕跡は認められない。

埋土中には焼土・炭化材が多量に含
まれており、竪穴住居1・2と同時期
に集落を構成していて、同じく火災に
あったものと思われる。炭化材の検出
状況を第31図に示したが、垂木材と考
えられる炭化材が、ポケット状掘り込
み付近で、その方向を直交させる点に、
竪穴住居1・2との違いを見せる。

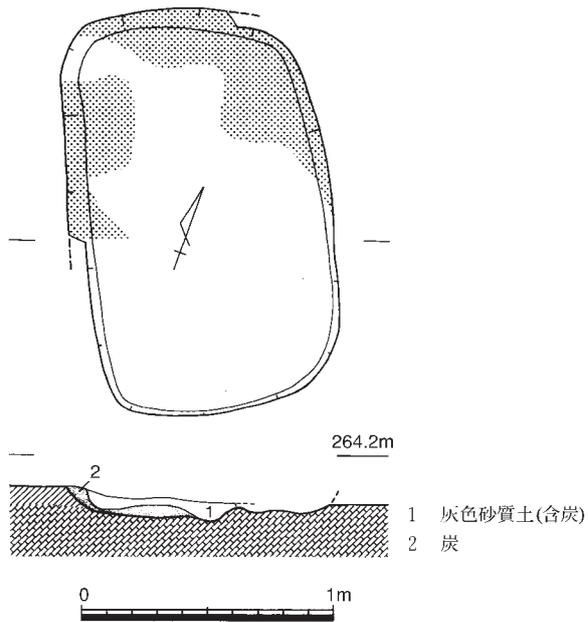
出土した遺物には、弥生土器の壺が
無く、台付直口壺42、甕43～47、高
杯50・51、鉢48・49・53・54、ミニ
チュア52と、携帯用砥石S6がある。
このうち、鉢54は、外面ハケメ、内面
押さえによって砲弾形に造られ、焼成
前に底部に穿孔されていて、内面に煤



第31図 方形竪穴住居状遺構2 炭化材出土状況 (1/80)
・床面出土土器 (1/8)



第32図 方形竪穴住居状遺構2 出土遺物 (1/3・1/4)



第33図 焼土坑 1 (1/30)

が付着している。形状・用途ともに類例を求めたい土器である。

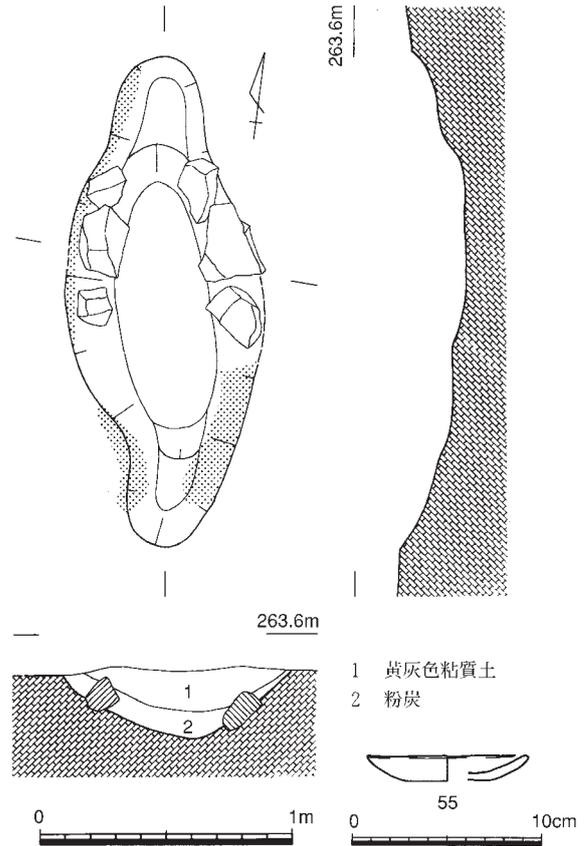
時期は、前述のとおり、出土遺物と火災状況から、竪穴住居 1・2 と同時期と考えられる。

焼土坑 1 (第22・33図、図版 7-2)

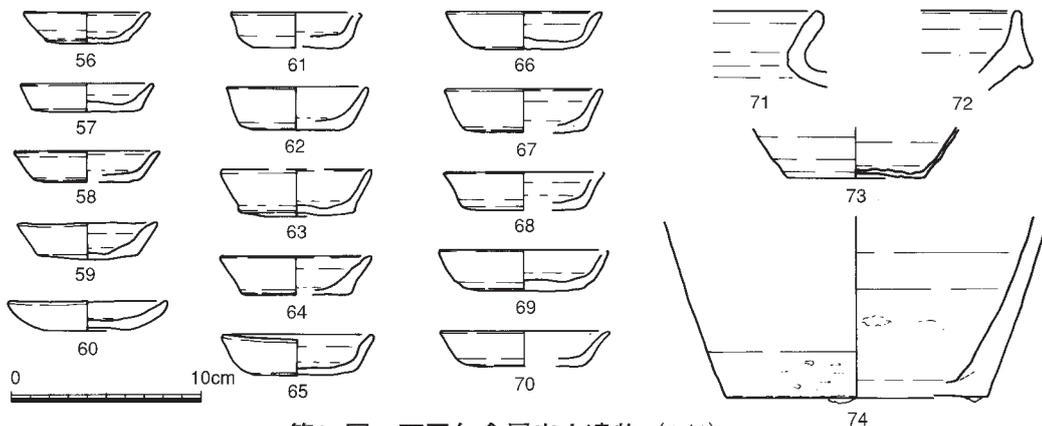
竪穴住居 2 の埋没後、その上に造られている。平面形は長方形で、長さ162cm、幅107cm、深さ10cm程の規模である。北半を確認調査の際に竪穴住居 2 の埋土と誤認して掘り下げたため、この部分の被熱状況が不明であるが、図に点描で示した範囲の底面・側壁に熱影響が残り、埋土の下層には炭層が認められた。遺物は出土していないが、この検出状況は、古墳時代後半から古代にかけての炭窯と想定されている焼土坑の在り方と同様である。

炉状遺構 1 (第22・34図、図版 7-3)

調査区の北西隅に位置し、方形竪穴住居状遺構 2 との距離は約 3 m である。平面形は、中央部の膨らんだ長楕円形とでもいえようか。長さ 2 m 弱、中央部の幅80cmで、両端より深く掘られた中央部の



第34図 炉状遺構 1 (1/30) ・出土遺物 (1/4)



第35図 西区包含層出土遺物 (1/4)

深さは約25cmである。中央部の北寄りには、両側壁に3個ずつの角礫が置かれ、これを埋めるように厚さ10cmの粉炭が敷かれている。南側端部の東西の側壁と、北側端部の西側壁には被熱痕跡が認められた。用途は不明であるが、角礫の間に載せた容器を、両端部から熱したものと想定される。

埋土から、土師器の小皿**55**が出土しており、古代から中世の遺構と考えられる。

包含層出土の遺物（第35図）

調査区北東部の竪穴住居2北側の斜面において、炉状遺構1より上層の堆積土中から、古代以降と考えられる遺物が集中して出土している。**56**～**70**は土師器の小皿で、この器種は図示したほかにも多数ある。他に、須恵器の甕**71**、備前焼の壺**74**・播鉢**72**、勝田焼の杯**73**が出土し、尾根上面にこの時期の遺構が存在したことを匂わせるが、前述のとおり遺構は残っていない。

第3節 まとめ

田井ちご池遺跡は、間に深い谷を挟む二つの別個の尾根からなっており、これを東区と西区に区分した。もっとも、二つの尾根は十分に声の届く距離にあって、東西方向に連なる一つの尾根から派生しており、往来にさほどの不便はない。

弥生時代にそれぞれの尾根上に営まれた集落については、西区が竪穴住居2軒と方形竪穴住居状遺構1軒、東区が方形竪穴住居状遺構1軒と土壇2基が検出されている。いずれも単一時期だけの集落のようで、西区で後期後半に比定されるのに対して、東区については後期の前半とは思われないが、同時期に両者が存在した可能性については、明言しがたい。火災状況の有無については、判断材料とはなるまい。後期前半は、間山南麓の小中遺跡に営まれた集落が途切れる時期であり、後述する岡東高塚遺跡において集落が検出されている。小中遺跡から一部が岡東高塚遺跡に上がり、後期中葉以降も再び台地に降りることなく、山上に暮らしたのが田井ちご池遺跡であろうか。いわゆる高地性集落の盛行する時期からは遅れ、山裾に大規模集落が営まれる時期に、山上に暮らす目的は何であったのか。石包丁2点の出土もあり、水田の耕作できる低地まで降り下る生活であったと想定される一方、西区における3軒の火災も気にかかるところである。

田井ちご池遺跡および岡東高塚遺跡において方形竪穴住居状遺構とした遺構は、居住を目的にした円形の竪穴住居と区別して、いわゆる共同炊事場説を意識して呼称したが、西区竪穴住居2の床面にみられる3基の炉状遺構は興味深い構造・在り方を示している。前述のように、甕を載せるカマドのような構造であって、中央穴を伴う円形住居の床面に3基も造られており、なおかつ集落内には方形竪穴住居状遺構も存在するのである。何らかの工房的目的を考えようにも、被熱痕跡を見る限り、さほどの高温には至っていないようである。共同炊事場で調理したものを保温する仕組みで、この竪穴住居が食堂であったのだろうか。

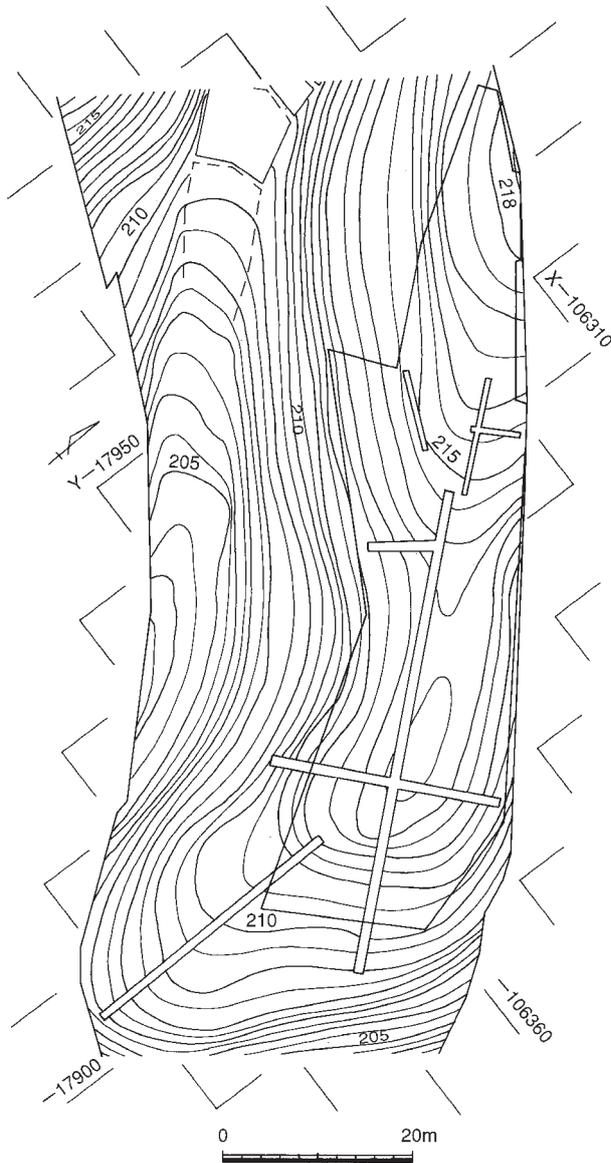
焼土壇の存在により、古墳時代にもこの尾根が利用されたことが知られ、古代以降にも炉状遺構や土壇が造られている。その中で、土師器小皿が集中して出土した西区北東斜面上方の調査区際には、割石による方形の石囲いがみられ、これを基壇とする祠等の宗教施設が存在したことが想定される。間山高福寺跡とも尾根続きでさほど離れておらず、11世紀以降と考えられる経塚等とも一連の宗教遺跡とみなしうるかもしれない。

第5章 岡東高塚遺跡

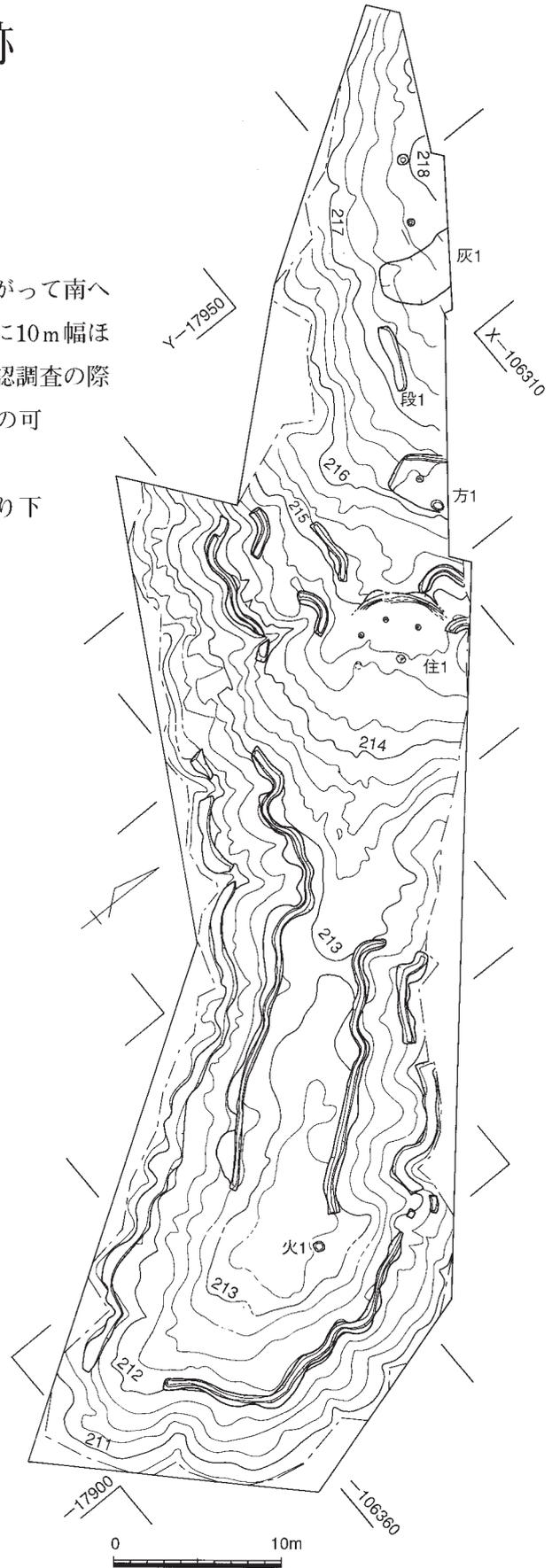
第1節 遺跡の概要

遺跡は、間山山地の東西に続く脊梁から、一段下って南へ派生する尾根の先端近くに所在する。尾根は、頂部に10m幅ほどの比較的平坦な部分がある程度の痩せ尾根で、確認調査の際に、先端部で火葬墓1基、付け根に近い部分で古墳の可能性のある高まり2か所を検出した。

全面調査では、約1,100㎡を対象として人力で掘り下



第36図 岡東高塚遺跡調査前地形図 (1/800)



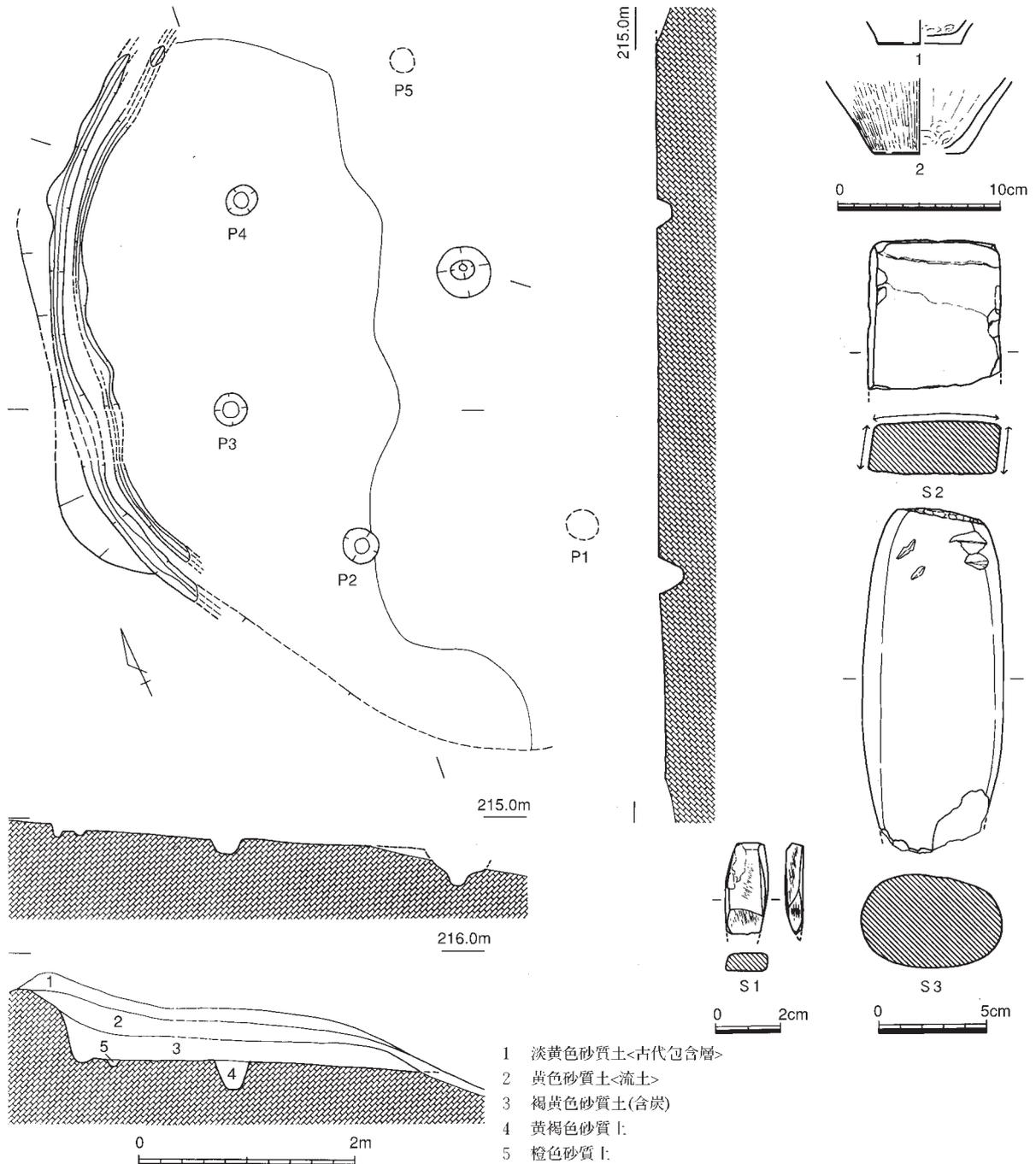
第37図 岡東高塚遺跡全体図 (1/400)

げたところ、尾根には戦後の砂防作業によってかなりの改変が加えられていることが判明し、古墳と思われた高まりも、その際に周辺を土取りした残骸と分かった。ところが、そこに弥生時代の竪穴住居が検出されたため、集落が存在した可能性のある尾根の付け根方向へ範囲を拡張した結果、いくつかの弥生時代の遺構とともに、勝田焼の灰原状の遺物出土をみることとなった。(光永)

第2節 遺構・遺物

竪穴住居1 (第37・38図、図版8-2・3)

調査区の中央やや北寄りに位置し、北から延びてくる尾根が一段と幅を狭くする肩口にあたる。



第38図 竪穴住居1 (1/60)・出土遺物 (1/2・1/3・1/4)

前述の土取りによって大きく損壊しており、床面は3分の1程度が残るのみで、貼り床は認められなかった。かろうじて残った北西辺では、側壁の高さ35cmを測り、2条の壁体溝が巡らされている。平面形は特定しがたいが、不整な円形といったところであろうか。径50cm、深さ40cm程度の中央穴が検出されており、これと側壁との距離から住居の規模を復元すると、径約8mとなる。柱穴は、径30cm前後、深さ15~25cm程度のもの3個と、痕跡2個を検出しており、7ないし8本柱と想定される。

出土遺物のうち、弥生土器はいずれも小片で、甕の底部1・2を図示できたのみである。石器は、鑿として使われたと思われる小形の扁平片刃石斧S1、砥石S2、太型蛤刃石斧S3がある。

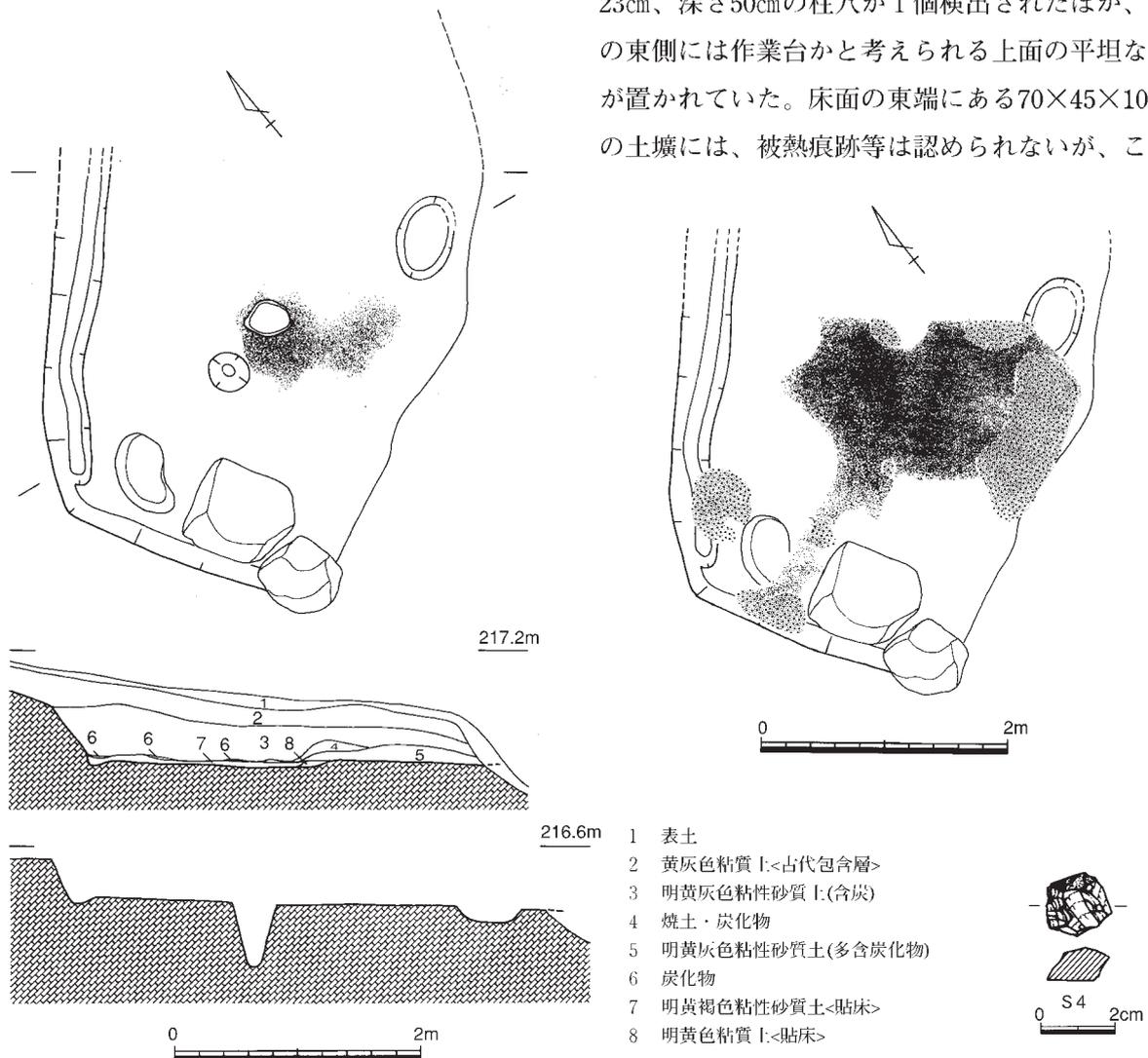
1・2に、包含層出土として扱う器台5を参考にすれば、弥生時代後期前半に比定される。

方形竪穴住居状遺構1（第37・39図、図版8-2、9-1）

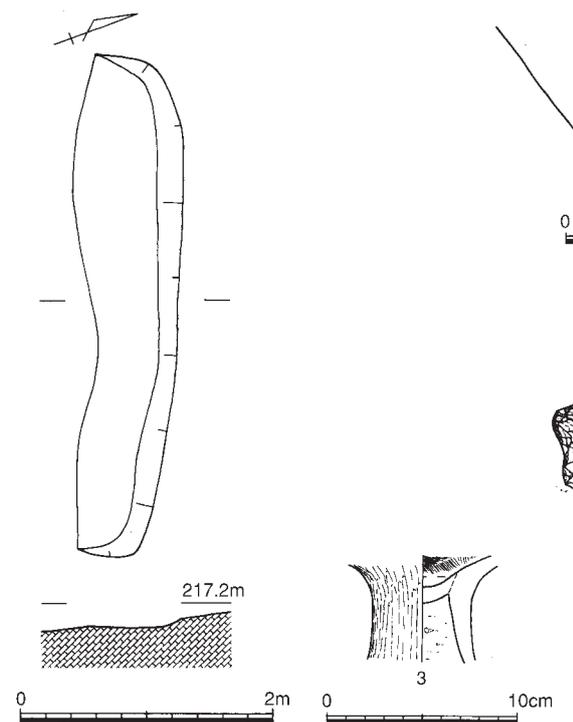
調査区拡張部分の南部に位置し、竪穴住居1との距離6mを測る。東端を調査区外に置き、南半を土取りによって失っている。

検出できた幅は、北西辺で3mであるが、調査区外の断面観察により、南東辺が5mまで確認できている。残存する奥行きは3.4mである。高さ45cmが残る北西辺には壁体溝が掘られているが、南西辺には基盤となる露岩が床面に突出したままとっている。床面は平坦で、西隅から1.4m内側に径

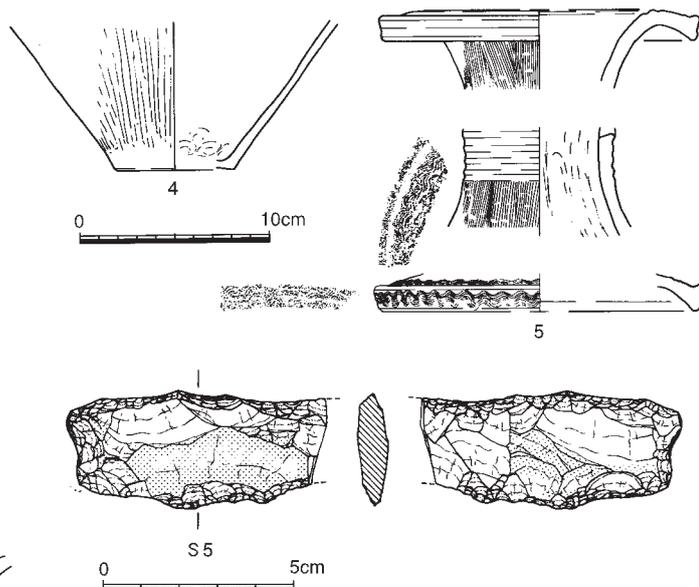
23cm、深さ50cmの柱穴が1個検出されたほか、その東側には作業台かと考えられる上面の平坦な石が置かれていた。床面の東端にある70×45×10cmの土壌には、被熱痕跡等は認められないが、この



第39図 方形竪穴住居状遺構1（1/60）・炭化物検出状況（1/60）・出土遺物（1/2）



第40図 段状遺構 1 (1/60)・出土遺物 (1/4)



第41図 包含層出土遺物 (1) (1/2・1/4)

土壌を中央穴と仮定し、柱穴・側壁との距離から遺構の規模を復元すると、約6m四方の大きさになる。

床面上には、多量の炭・焼土が堆積していたが、建築材を想定できるような炭化材は無かった。埋土からは、水晶の剥片 S 4 が出土したのみであるが、竪穴住居 1 と同時期と考えられる。

段状遺構 1 (第37・40図、図版9-2・3)

調査区拡張部分の中央に位置し、方形竪穴住居状遺構 1 との距離 6 m である。

長さ 4 m、幅 60 cm 程の段が、斜面を 5 cm ほど掘り下げた状態で検出され、ここから弥生土器の高杯 3 が出土したもので、柱穴等は伴わない。時期は、弥生時代後期前半に比定される。

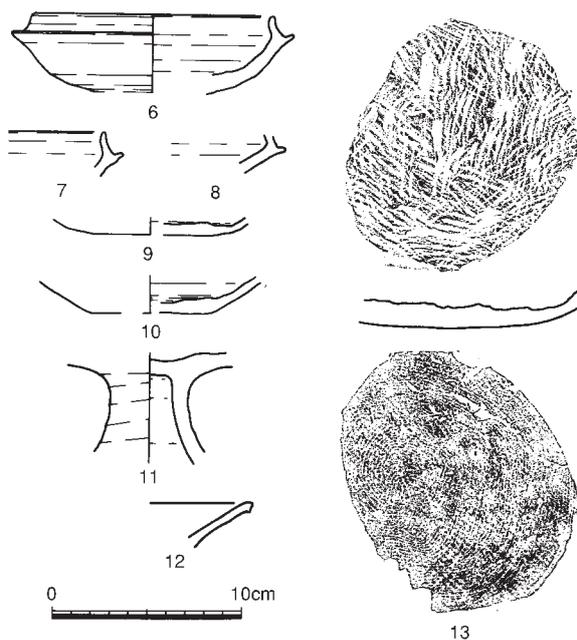
包含層出土遺物 (第41・42図、図版11-2)

弥生時代に属するものとしては、弥生土器の甕 4、器台 5、打製石包丁 S 5 がある。4 は拡張区から、5 は竪穴住居 1 の南、S 5 は尾根の先端近くからの出土である。

古墳時代に属するものには、須恵器の杯 6 ~ 8、高杯 11、壺 12、甕 13 がある。いずれも拡張区から竪穴住居 1 までの表土および流土からの出土であり、調査区北側の平坦部にこの時期の集落が存在したか、そのさらに北の斜面に所在する横穴石室をもつ古墳群に由来するものと考えられる。

須恵器の杯 9・10 は、底部外面に糸切りがみられ、古代に属すると考えられる。拡張区表土中からの出土である。

(光永)



第42図 包含層出土遺物 (2) (1/4)

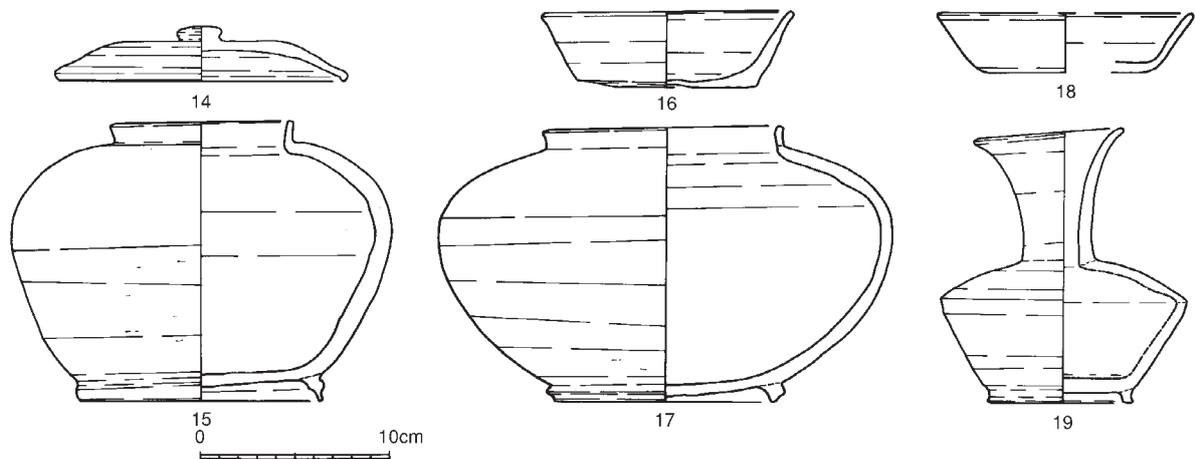
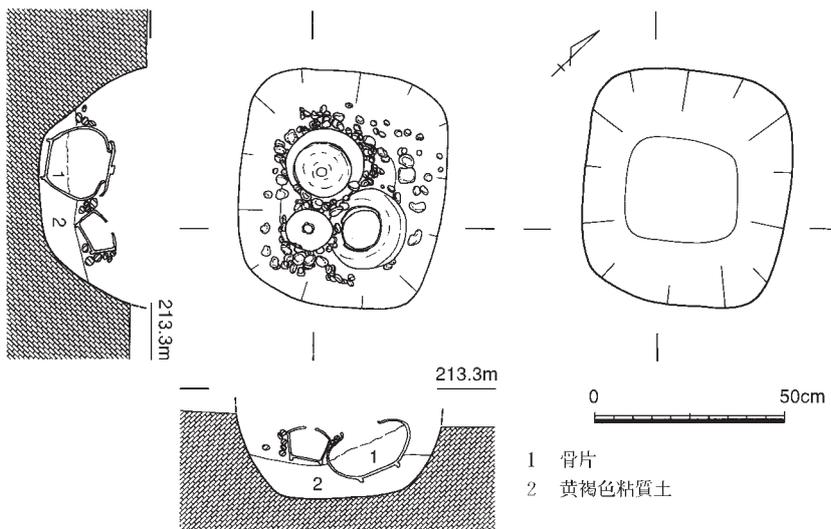
火葬墓1 (第37・43図、図版10、13-1)

調査区東部の尾根先端に近い平坦面に位置する。確認調査の段階で検出された遺構で、出土遺物のうちの16・18および19の頸部については、この段階で取り上げていたため、第43図の出土状況図に表現されていない。

掘り方の平面形は62×56cmの隅丸方形を呈し、断面形は台形で、深さ22cmを測る。底部は平坦で、直上には厚さ10cm程度の黄褐色粘質土を敷き、その上に骨蔵器15・17と、副葬品として直口壺19を配置していた。15と17が黄褐色粘質土に埋まるように据えられているのに対して、19は上面に載っている。また、それらの周囲には1～2cm前後の小石が密に置かれていたが、15と19の間に挟まるものもみられるなど、19の設置と平行して小石が詰められた状況が想定できる。蓋より上位からは小石の出土はない。骨蔵器15・17中には、人骨が比較的良好に残存していた。

出土遺物には、須恵器の蓋14、短頸壺15・17、杯16、直口壺19と土師器の杯18がある。14・15および16・17は蓋と身のセットとなる。14は天井部にヘラケズリを施し、つまみをもつ。15は胴部上半を回転ナデ、下半をヘラケズリで仕上げている。胴部を成形し終えた後に高台を貼り付け、比較的強く接着部分をナデている。底部には工具による仕上げナデが施されている。内面は上半を回転ナデ、下半を押圧ナデにより整えている。16は、底部をヘラによる切り離しの後に、ナデて仕上げている。17

は15とほぼ同様で、胴部の上半には回転ナデ、下半にはヘラケズリをそれぞれ施している。ただ貼り付け高台の端部の形状が15と若干違い、やや弱くつまみ出している。18はこの遺構唯一の土師器で、精良な胎土を用いている。底部は、ヘラ切り後ナデによる整形であろうか。19は胴部と頸部を



第43図 火葬墓1 (1/20) ・出土遺物 (1/4)

接着し、本体が仕上がった後に高台を貼り付けている。胴部の下半は、ヘラケズリ成形がなされている。高台の端部は平らで面をなしており、焼成時に付着したと思われる土器片もある。

この遺構の時期は、19の胴部が幾分角張って古相を示すが、高台の形状や、15・17から、8世紀第2四半期ではないだろうか。

なお、この地点は標高およそ213mで、現在の勝間田集落との比高差は113mである。また、眼下には勝間田の東部から黒土地区一帯が望める位置にある。 (虻原)

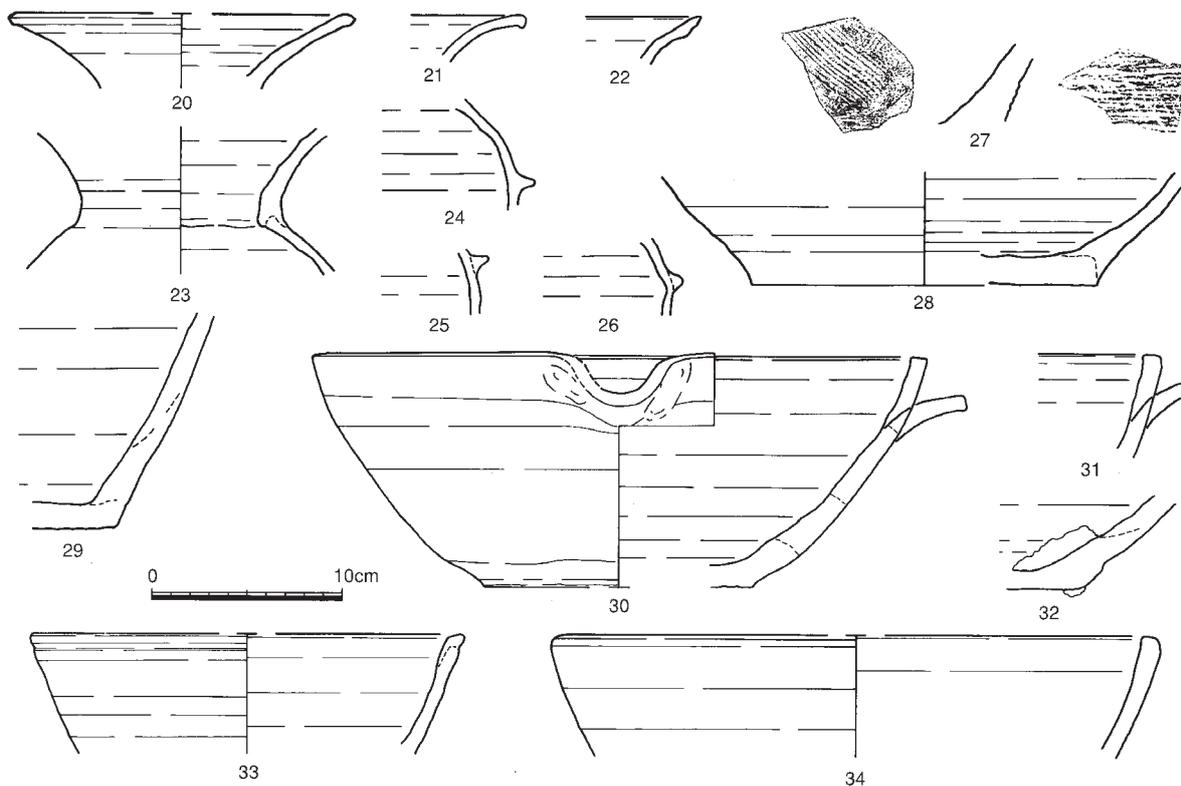
灰原1 (第37・44～49図、図版9-3、13-2・3、14)

調査区拡張部分の北辺中央付近に所在する。遺構として第37図に示したのは、幅約3m、長さ4m程の浅いたわみの形状で、調査区外に続く状況であるが、遺物はこの周辺から南側の斜面にかけて、表土中からも多量に出土し、整理箱13箱を数える。

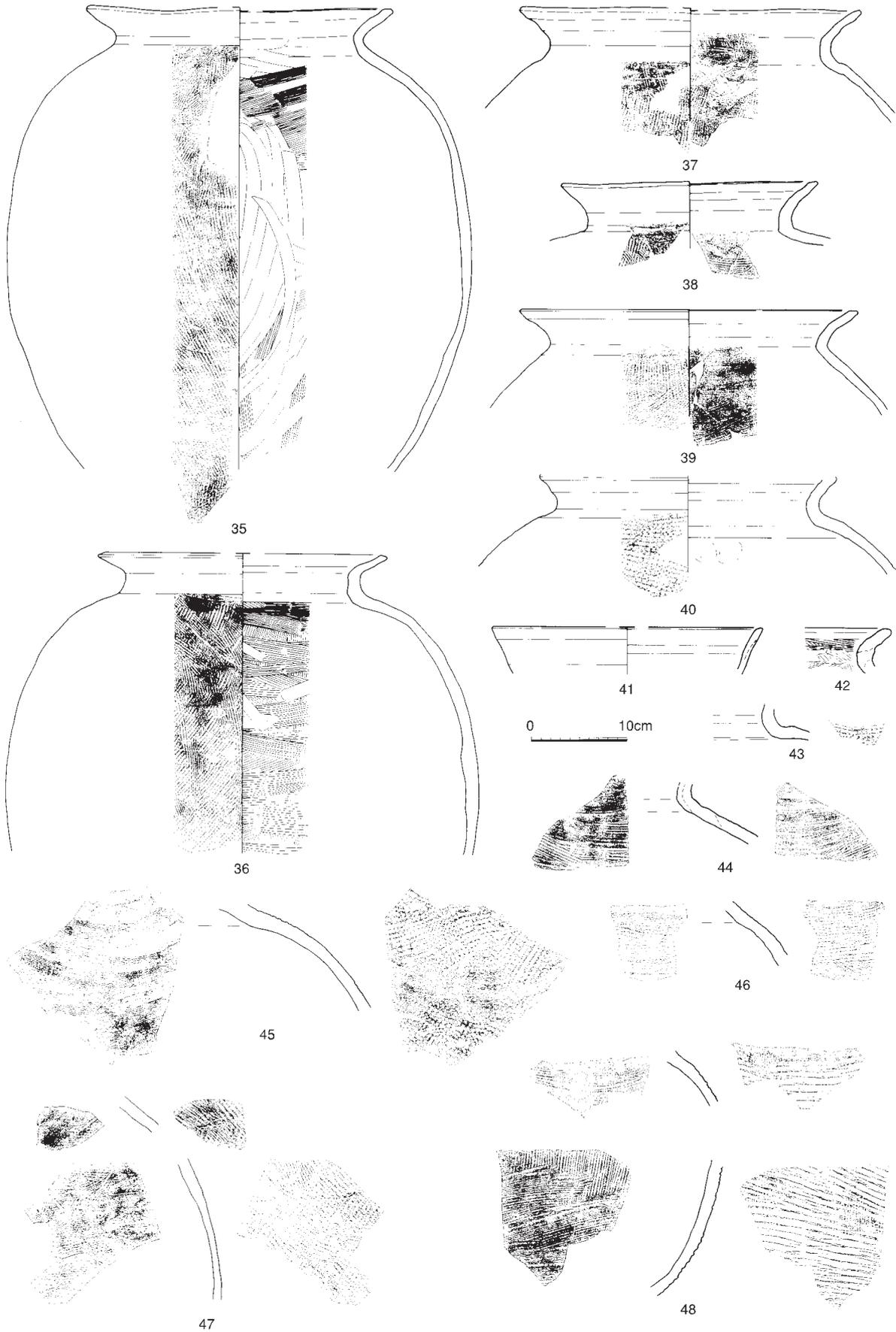
ほとんどが勝田焼の破片で、焼け歪んだものがみられたほか、140・173・184・244・247～250などのように溶着した破片が多数みられたことから、勝田焼の窯跡から廃棄された灰原遺物と判断した。

遺物出土地は、尾根上の平坦面から南側の斜面へ移行する肩口にあたり、灰原とするには、窯跡を想定する地点が見あたらない状況であった。このため、事業予定地内で全面調査範囲より北側の斜面を試掘したり、調査区外の平坦面から斜面への地形変換点を踏査したが、窯跡を示す状況は何ら見られなかった。したがって、出土地点を遺構として灰原と呼ぶには疑問が残るが、以下に遺物の概要を記載する。

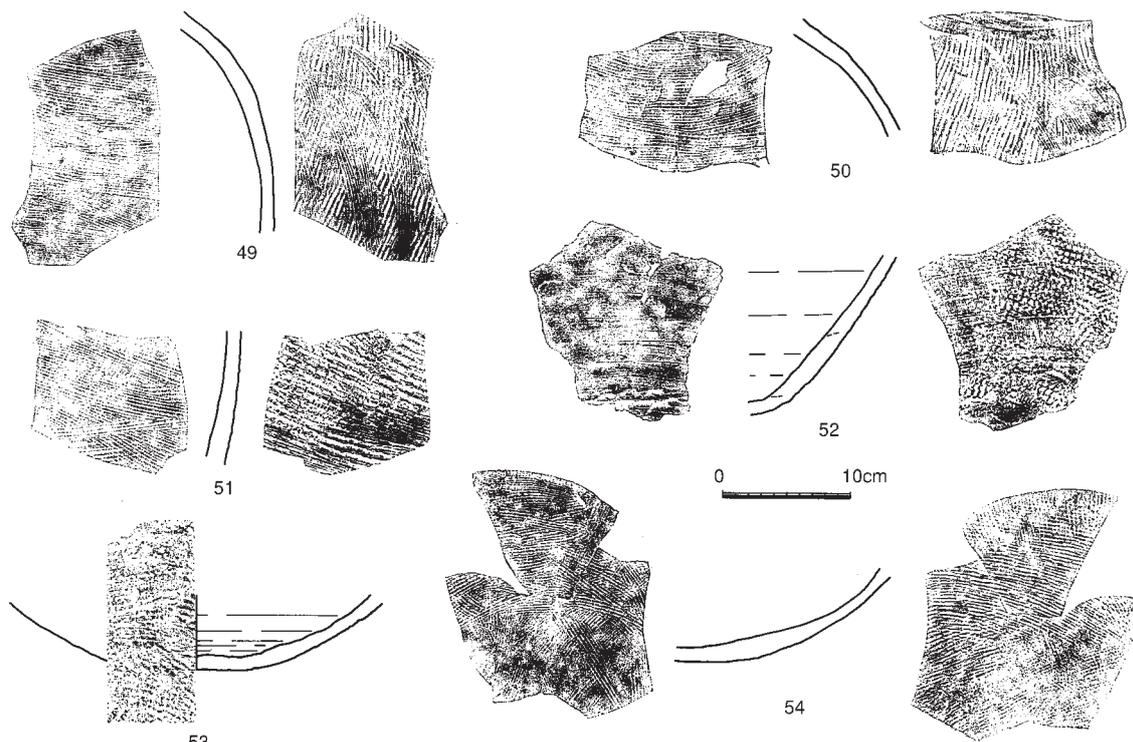
20～26・29は壺である。口縁部は20～22に残るが、いずれも小片であり、20の径が17.4cmに復元できるのみである。これに対して、23の頸部は完存しており、これを援用すると径は18～19cmと推定される。口縁端部は、20・21がやや外反して端面をもつものに対して、22は内面を押さえている。頸部か



第44図 灰原1 出土遺物 (1) (1/4)



第45図 灰原1出土遺物(2)(1/6)



第46図 灰原1出土遺物(3)(1/6)

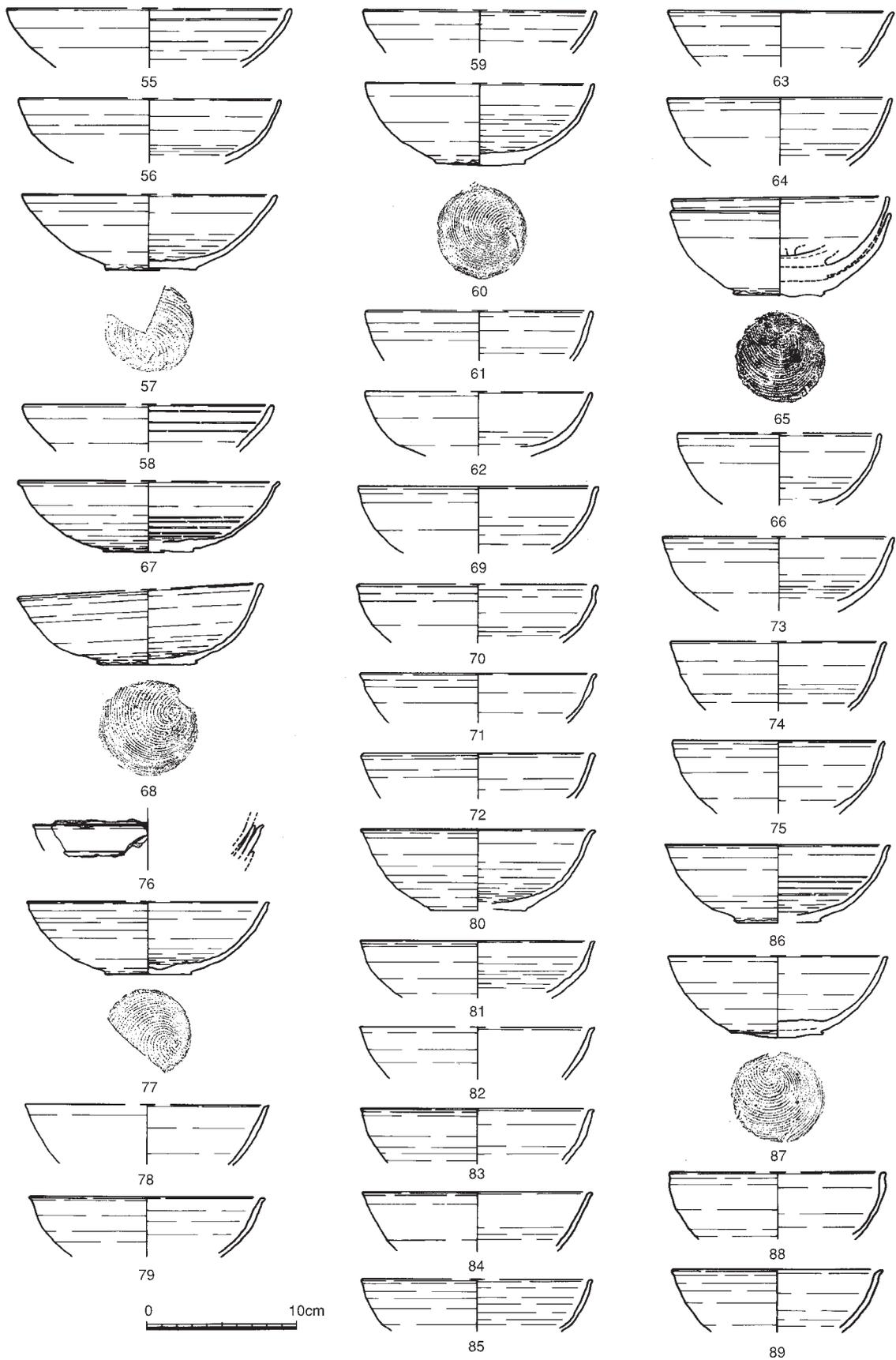
ら丸く肩へ移行し、24～26には肩口に1条の突帯が貼り付けられている。29の底部は平底である。調整は、いずれも内外面ともヨコナデされており、29の体部下端に若干のヘラケズリがみられる。

甕は壺より多量に出土しているが、完形に復元できる例はなく、27・35～54を図示した。口縁部は頸部から短く斜めに開き、端部に水平に近い面をもつ例(35・36・38・39)ともたない例(37・42)がある。径は38が26.4cmと小さく、37・40は35cm程度と大きい。41は薄手で外傾が少なく、他と異なる。頸部については、屈曲するだけの例(35・39・40)と、若干の高さをもつ例(36～38・42～44)がある。口縁部から頸部にかけては、37・42の頸部内面にハケメが残る他は、いずれも内外面ともヨコナデされている。肩部は、36・38・43がやや張っているが、他はなで肩である。体部の形状については、35・36を見る限り、大きく膨らまず、縦長になるようである。器高は、35で残存最大48cmを測る。底部は、27に平底を思わせる形状がみられる他は、丸底である。肩部から底部にかけての調整は、外面ではタタキの後に縦方向のハケメ、内面ではハケメの後に一部工具ナデが基本である。外面に施されるタタキの原体には、格子と平行の2種類があり、それぞれが方形と長方形、あるいは深浅・粗密の違いによっていくつかに分けられるようである(図版14-2)。内面のハケメは、体部には縦方向もみられるが、横方向に仕上げられており、工具ナデの方向も同様である。

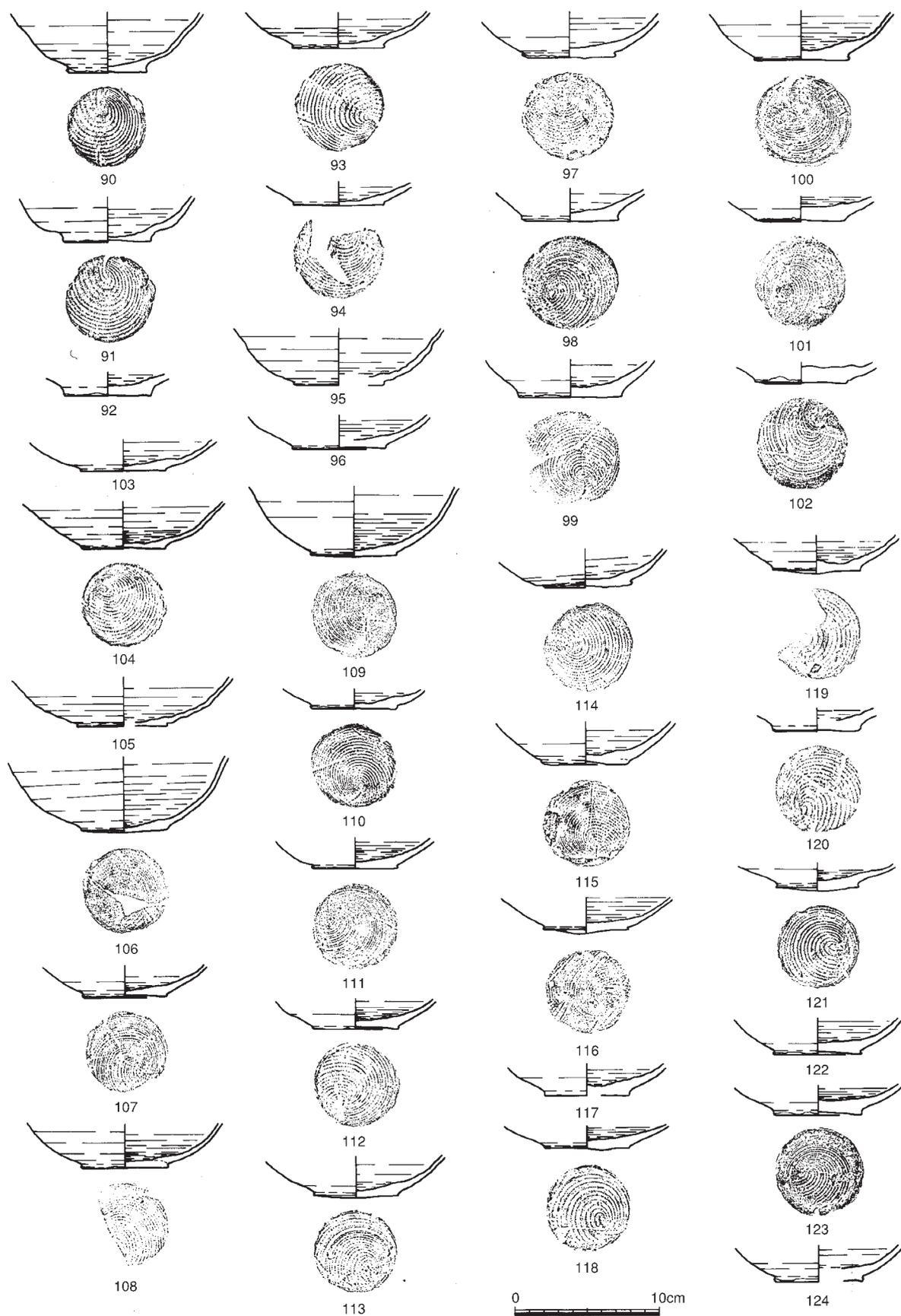
鉢も出土量は少なく、28・30～34を図示している。径14～18cmの平底から、内湾気味に立ち上がって、30では器高12.4cm、口径32.3cmに復元されている。口縁端部には面をもち、33を除いて内側に摘まれていて、30・31には幅4cm程の片口がつけられている。調整は内外面ともヨコナデである。

量的にも、推定個体数からも、出土遺物の大多数を占めるのが椀であり、底部片を見る限り、高台の付かない例の方が多ようである。

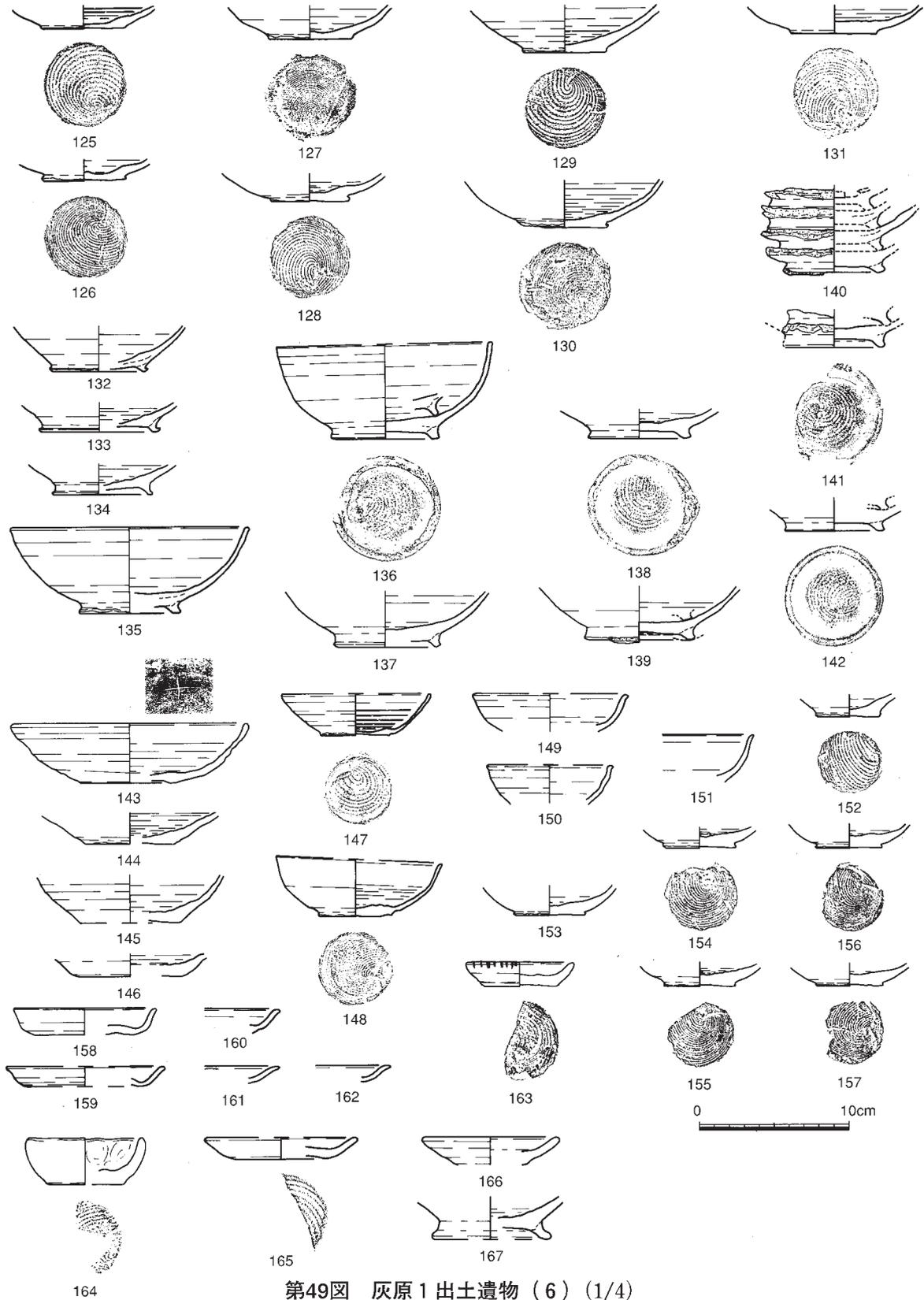
第47図には口径を復元できた例を示しているが、底部を欠くものには高台の付くものが含まれる可能性がある。焼け歪みが多く、口径には66の13.4cmから55の18.8cmまでの幅があるが、15.6cm辺りが



第47図 灰原1出土遺物(4)(1/4)



第48図 灰原1出土遺物(5)(1/4)



第49図 灰原1出土遺物(6)(1/4)

基準値と思われる。器高が復元できる例は少なく、67・77はやや低いが、5.5cm程度であろうか。乾燥時の置き方にもよるとは思われるが、口縁端部にいくつかの形状がみられるので概観する。55～66は丸く収まるもので、67～75ではやや玉縁状になって一部に外反傾向がみられる。77～89では上

第3節 まとめ

端に面をもち、やや外側へ摘み出したようになっているが、上端面は乾燥時に潰れたのかもしれない。76ではこれらが同時に重ね焼きされた状況を確認することができる。体部の成形は、ロクロによりナデ仕上げされており、その際に内面に沈線状の溝が刻まれる例（58・67・86）もみられる。厚さは不均一な部分もあるが、2～3mmに仕上げられている。

90～131は底部片であり、いずれも糸切りされている。90～92は底部が厚く切られており、古相を示す。以下は、底径の大きいものから小さいものに並べており、数値は99の7.0cmから128の5.1cmまでであるが、第48図に示すものはほぼ6.0cm前後であり、第49図は一回り小さいものである。

132～142は高台付の椀である。高台を除くと、前述の椀と区別がつかない。132～134は、細い高台の端部が外反する例で、数も少ない。高台径は6.4～7.8cmで、6cm台の方が多い。

143～146は、皿というべき器高4cm以下の椀である。147～157は小形の椀で、口径11cm未満、底径5cm未満、器高4cm未満の大きさで、成形は椀と同じである。158～163は小形の皿である。

以上の灰原遺物には、土師器164～167の他に、古墳時代の須恵器若干が混入していた。

これらの時期については、勝田焼の最古段階より1段階新しい時期に想定され、11世紀後半の所産とみなされる。 (光永)

第3節 まとめ

岡東高塚遺跡においては、弥生時代の遺構として、竪穴住居1軒、方形竪穴住居状遺構1軒と、段状遺構1基を検出した。これらが構成する集落は、調査区の北側の平坦面に続くと考えられ、伴出遺物は少量であるが、後期前半に比定される。この時期は、眼下に見下ろせる小中遺跡において一時期集落の途切れる時期に当たり、その移住先の一つと考えられる。その後、後期中葉以降には再び小中遺跡での定住が続けられると同時に、前章で報告した田井ちご池遺跡にも集落が営まれており、山を降りる者と山上に残る者に分かれたのであろうか。もしくは、後者が一定の目的を持って山上に残されたのであろうか。

古墳時代になると、調査区北の斜面には後期の群集墳が築かれているが、調査区内の尾根上には古墳はみられない。

火葬墓は1基のみが検出されたが、尾根先端に埋められた被葬者については、眼下の勝間田低地、あるいはその北縁の台地上に居住した人物が想定される。人骨の性別鑑定は行えなかったが、二つの蔵骨器は同時に埋納されており、両者の深い関係を物語っている。

勝田焼の灰原遺物については、前節でも記述したように、付近に窯跡を想定できず、二次的に移動された可能性が残る。しかし、遺物相互には大きくかけ離れた時期のものが混在することはなく、一括遺物として取り扱うことができ、間山山地に点在する窯跡の一つが、遠からぬ位置に所在すると思われる。 (光永)

土器観察表

| 出土遺跡 | 掲載番号 | 遺構・土層名 | 種別 | 器種 | 計測値(cm) | | | 色調 | 状態 | 形態・手法の特徴など |
|--------|------|-------------|------|------|---------|------|------|----------|-----------|----------------------------|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 田井たれをず | 1 | 竪穴住居 1 | 弥生土器 | 台付鉢 | - | - | - | 2.5YR5/6 | 小片 | 口縁部上面・体部外面凹線。口唇部刻み目。 |
| 田井たれをず | 2 | 竪穴住居 1 | 弥生土器 | 甕 | - | - | - | 2.5YR5/6 | 小片 | 口縁部外面凹線 3 条。 |
| 川井たれをず | 3 | 竪穴住居 1 | 弥生土器 | 器台 | 21.8 | - | - | 5YR6/6 | 口縁部ほぼ完 | 内面剥落。 |
| 田井たれをず | 4 | 竪穴住居 1 | 弥生土器 | 甕 | 14.0 | - | - | 5YR6/6 | 口縁部1/8以下 | 口縁部外面凹線 2 条。 |
| 田井たれをず | 5 | 竪穴住居 1 | 弥生土器 | 壺 | - | 9.5 | - | 7.5YR5/3 | 底部1/4 | 底部外面・内面ナデ。 |
| 田井たれをず | 6 | 竪穴住居 1 | 弥生土器 | 高杯 | - | - | - | 2.5YR5/6 | 小片 | 外面剥落。 |
| 川井たれをず | 7 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 壺 | - | - | - | 7.5YR7/4 | 小片 | 外面凹線。 |
| 田井たれをず | 8 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 甕 | (11.6) | - | - | 5YR6/6 | 口縁部1/3 | 口縁部外面凹線 2 条。 |
| 田井たれをず | 9 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 甕 | 18.4 | - | - | 2.5YR5/6 | 口縁～体部1/3 | 口縁部外面凹線 4 条。肩部凹線・刺突文各 3 段。 |
| 田井たれをず | 10 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 甕 | - | 7.4 | - | 10YR7/2 | 底部1/4 | 底部外面工具ナデ。 |
| 川井たれをず | 11 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 高杯 | - | 7.6 | - | 5YR6/6 | 脚裾部1/3 | 凹孔 2 孔 1 対。 |
| 田井たれをず | 12 | 段状遺構 1 | 弥生土器 | 鉢 | 9.4 | 5.0 | 11.9 | 2.5YR6/6 | 完形 | 頸部凹孔 2 孔 1 対 2 組。底部外面工具ナデ。 |
| 田井たれをず | 13 | 段状遺構 4 | 弥生土器 | 甕 | 23.2 | - | - | 10YR7/4 | 口縁部1/6 | 口縁部外面凹線 3 条。 |
| 田井たれをず | 14 | 段状遺構 3 | 弥生土器 | 壺 | - | - | - | 10YR7/3 | 小片 | 口縁部外面凹線 5 条。 |
| 川井たれをず | 15 | 段状遺構 4 | 弥生土器 | 甕 | (11.8) | - | - | 2.5YR4/6 | 口縁部1/6 | 内面剥落。 |
| 田井たれをず | 16 | 土壇 4 | 弥生土器 | 甕 | (16.6) | - | - | 10YR6/4 | 口縁部1/4 | 体部外面煤付着。 |
| 田井たれをず | 17 | 包含層 | 弥生土器 | 壺 | 17.4 | - | - | 5YR6/6 | 口縁～頸部1/5 | 口縁部内面・肩部輪描波状文。 |
| 田井たれをず | 18 | 包含層 | 弥生土器 | 壺 | 15.2 | - | - | 10YR7/3 | 口縁部完 | 頸部外面剥落。口縁部外面凹線 2 条に篋連続斜線。 |
| 川井たれをず | 19 | 包含層 | 弥生土器 | 壺 | 14.4 | - | - | 2.5YR6/6 | 口縁部1/4 | 口縁部外面凹線 4 条に篋連続斜線。 |
| 田井たれをず | 20 | 包含層 | 弥生土器 | 器台? | - | - | - | 10YR7/4 | 小片 | 口縁部外面凹線 2 条間に鋸歯文。 |
| 田井たれをず | 21 | 包含層 | 弥生土器 | 甕 | (18.8) | - | - | 2.5YR5/6 | 肩部1/2 | 肩部外面波状文 2 段。 |
| 田井たれをず | 22 | 包含層 | 弥生土器 | 甕 | (19.0) | - | - | 7.5YR7/4 | 口縁部1/4 | 内面剥落。肩部外面刺突文。 |
| 田井たれをず | 23 | 包含層 | 弥生土器 | 甕 | (15.4) | - | - | 5YR6/6 | 口縁部1/6 | 外面剥落。 |
| 田井たれをず | 24 | 包含層 | 弥生土器 | 甕 | (14.0) | - | - | 10YR7/3 | 口縁～肩部1/8 | 外面煤付着。 |
| 川井たれをず | 25 | 包含層 | 弥生土器 | 鉢 | - | - | - | 5YR6/4 | 小片 | 内外面横ナデ。外面凹線 2 条。 |
| 田井たれをず | 26 | 包含層 | 弥生土器 | (脚) | - | 14.8 | - | 7.5YR7/4 | 脚部1/6 | 凹盤充填。脚部外面三角形刻み 8～10個。 |
| 田井たれをず | 27 | 包含層 | 弥生土器 | 高杯 | - | - | - | 2.5YR5/6 | 杯部1/2 | 凹盤充填。内外面剥落。 |
| 田井たれをず | 28 | 包含層 | 弥生土器 | 高杯 | - | - | - | 2.5YR4/4 | 脚柱一部 | 凹盤充填。篋描螺旋洗線。凹形透かし孔 4 孔。 |
| 川井たれをず | 29 | 包含層 | 弥生土器 | 器台 | - | - | - | 2.5YR4/1 | 小片 | 脚部外面凹線 5 条と篋描螺旋洗線。 |
| 田井たれをず | 30 | 包含層 | 弥生土器 | 甕 | - | 5.9 | - | 5YR5/4 | 底部1/2 | 外面ナデ。 |
| 田井たれをず | 31 | 包含層 | 弥生土器 | 高杯 | - | - | - | 2.5YR5/6 | 小片 | 外面凹線 3 条と篋描連続斜線。 |
| 田井たれをず | 32 | 包含層 | 弥生土器 | (脚) | - | - | - | 2.5YR5/6 | 小片 | 外面凹線 3 条と輪描洗線。凹形透かし孔。 |
| 川井たれをず | 33 | 包含層 | 弥生土器 | 高杯 | 21.6 | - | - | 2.5YR6/6 | 杯部1/6 | 口縁部ハケメ。 |
| 田井たれをず | 34 | 包含層 | 弥生土器 | 高杯 | 18.0 | - | - | 7.5YR7/4 | 杯部1/4 | 杯部内外面ナデ。 |
| 田井ちご池 | 1 | 方形竪穴住居状遺構 1 | 弥生土器 | 甕 | 14.6 | 4.5 | 25.0 | 5YR7/6 | 各部1/5～1/2 | 体部下半～底部外面平行タタキ。外面煤付着。 |
| 田井ちご池 | 2 | 方形竪穴住居状遺構 1 | 弥生土器 | 甕 | (14.0) | - | - | 7.5YR7/4 | 口縁部1/6 | 内外面剥落。 |
| 川井ちご池 | 3 | 方形竪穴住居状遺構 1 | 弥生土器 | 壺? | - | 8.6 | - | 7.5YR6/8 | 底部完 | 内面剥落。 |
| 田井ちご池 | 4 | 方形竪穴住居状遺構 1 | 弥生土器 | 壺? | - | 7.2 | - | 10YR7/4 | 体～底部一部 | 外面ナデ。 |
| 田井ちご池 | 5 | 方形竪穴住居状遺構 1 | 弥生土器 | 鉢 | 8.8 | 2.6 | 5.1 | 10YR7/4 | 口縁部1/2 | 内外面押さえ・ナデ。 |
| 田井ちご池 | 6 | 方形竪穴住居状遺構 1 | 弥生土器 | 甕 | - | 4.6 | - | 10YR7/4 | 底部完 | 底部外面ヘラケズリ。 |
| 川井ちご池 | 7 | 土壇 5 | 土師器 | 小皿 | 8.2 | 5.2 | 1.7 | 10YR6/4 | 完形 | 内外面押さえ・ナデ・横ナデ。口縁部外面煤付着。 |
| 田井ちご池 | 8 | 包含層 | 弥生土器 | 鉢 | - | - | - | 5YR7/4 | 小片 | 内外面ナデ・横ナデ。 |
| 田井ちご池 | 9 | 包含層 | 弥生土器 | 鼓形器台 | - | - | - | 5YR7/6 | 小片 | 内外面ナデ。内面赤色顔料塗布。 |
| 田井ちご池 | 10 | 包含層 | 土師器 | 小皿 | 8.0 | 3.9 | 1.6 | 7.5YR7/4 | 口縁部1/6欠 | 内外面押さえ・ナデ。 |
| 川井ちご池 | 11 | 包含層 | 土師器 | 小皿 | 8.2 | 5.0 | 1.4 | 10YR7/4 | 完形 | 内外面押さえ・ナデ・横ナデ。 |
| 田井ちご池 | 12 | 包含層 | 土師器 | 小皿 | (8.2) | 5.0 | 1.4 | 7.5YR6/6 | 1/3 | 内外面押さえ・ナデ・横ナデ。 |
| 田井ちご池 | 13 | 包含層 | 土師器 | 小皿 | 7.8 | 6.4 | 1.5 | 7.5YR7/4 | 口縁部過半欠 | 底部外面篋切り痕。 |
| 田井ちご池 | 14 | 包含層 | 土師器 | 杯 | 13.8 | 8.3 | 3.7 | 10YR7/4 | 一部欠 | 内外面剥落。口縁部内面煤付着。 |
| 川井ちご池 | 15 | 包含層 | 藤田焼 | 椀 | - | 6.4 | - | N7/0 | 底部1/3以下 | 底部外面糸切り痕。 |
| 田井ちご池 | 16 | 竪穴住居 1 | 弥生土器 | 甕 | (14.0) | - | - | 10YR7/4 | 口縁部1/10 | 内外面剥落。 |

| 出土遺跡 | 掲載番号 | 遺構・土層名 | 種別 | 器種 | 計測値(cm) | | | 色調 | 状態 | 形態・手法の特徴など |
|-------|------|-------------|------|-------|---------|-------|------|----------|----------|---------------------------|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 田井ちご池 | 17 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 壺 | 14.3 | 5.7 | 30.7 | 10YR7/4 | 一部欠 | 底部外面ヘラミガキ。 |
| 田井ちご池 | 18 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 壺 | - | 10.0 | - | 10YR7/4 | 底部完 | 内面剥落。底部外面ナデ。 |
| 田井ちご池 | 19 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 壺 | 13.6 | 3.5 | 19.7 | 10YR7/4 | 一部欠 | 体部内面下半ヘラミガキ後にミガキ状の細いヘラズリ。 |
| 田井ちご池 | 20 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 壺 | - | - | - | 10R5/8 | 頸部以上欠 | 底部内面剥落。外面一部に赤色顔料。 |
| 田井ちご池 | 21 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 甕 | 11.5 | 3.4 | 14.6 | 19R5/6 | 一部欠 | 体部外面剥落。 |
| 田井ちご池 | 22 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 甕 | (13.8) | 3.4 | 21.6 | 5YR5/6 | 下半欠 | 底部外面ナデ。 |
| 田井ちご池 | 23 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 甕 | (14.3) | 3.6 | - | 10R5/6 | 体部欠 | 外面煤付着。 |
| 田井ちご池 | 24 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 甕 | 15.4 | - | - | 10R5/6 | 口縁部3/5 | 体部内面剥落。外面煤付着。 |
| 田井ちご池 | 25 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 甕 | - | - | - | 7.5YR7/4 | 頸部1/3 | 外面煤付着。 |
| 田井ちご池 | 26 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 甕 | - | - | - | 7.5YR7/4 | 頸部1/2 | 内外面剥落。外面煤付着。 |
| 田井ちご池 | 27 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 甕 | - | - | - | 7.5YR7/4 | 小片 | 体部外面平行タタキ・煤付着。 |
| 田井ちご池 | 28 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 甕 | - | 5.5 | - | 10YR7/4 | 底部完 | 内外面剥落。 |
| 田井ちご池 | 29 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 甕 | - | 5.4 | - | 7.5YR7/4 | 底部完 | 内外面剥落。 |
| 田井ちご池 | 30 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 高杯 | (23.5) | - | - | 2.5YR5/6 | 下半欠 | 杯部内外面剥落。 |
| 田井ちご池 | 31 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 高杯 | - | - | - | 7.5YR7/4 | 口縁・脚端部欠 | 杯部内面ヘラミガキ？ |
| 田井ちご池 | 32 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 高杯 | - | (9.6) | - | 7.5YR7/4 | 杯部欠 | 内面剥落。 |
| 田井ちご池 | 33 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 鉢 | (10.6) | 1.2 | 4.5 | 7.5YR7/4 | 一部欠 | 指押さえ後ヘラミガキ。 |
| 田井ちご池 | 34 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 台付鉢 | - | - | - | 7.5YR6/4 | 口縁・台端部欠 | 体部内面剥落。 |
| 田井ちご池 | 35 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 鉢 | 18.0 | - | 7.6 | 5YR6/6 | 口縁部1/2欠 | 内面剥落。 |
| 田井ちご池 | 36 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 壺 | - | - | - | 7.5YR6/4 | 頸部以上欠 | 鉢に転用。 |
| 田井ちご池 | 37 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 台付鉢 | - | 4.2 | - | 10YR6/4 | 口縁部欠 | 体部内外面ナデ？製塩土器。 |
| 田井ちご池 | 38 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 台付鉢 | - | 5.6 | - | 5YR6/6 | 台部1/2 | 内外面剥落。製塩土器。 |
| 田井ちご池 | 39 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 台付鉢 | - | 4.9 | - | 10YR6/3 | 体部以上欠 | 内外面押さえ・ナデ。製塩土器。 |
| 田井ちご池 | 40 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 甕 | 14.0 | - | - | 10YR7/4 | 口縁部1/10 | 内外面剥落。 |
| 田井ちご池 | 41 | 竪穴住居 2 | 弥生土器 | 甕 | - | - | - | 10YR7/4 | 小片 | 体部外面平行タタキ。内面剥落。 |
| 田井ちご池 | 42 | 方形竪穴住居状遺構 2 | 弥生土器 | 台付直口壺 | - | - | - | 7.5YR7/6 | 体部一部 | 内外面剥落。 |
| 田井ちご池 | 43 | 方形竪穴住居状遺構 2 | 弥生土器 | 甕 | (13.8) | - | - | 2.5YR6/6 | 口縁部1/4 | 体部外面剥落。 |
| 田井ちご池 | 44 | 方形竪穴住居状遺構 2 | 弥生土器 | 甕 | - | 2.8 | - | 2.5YR6/6 | 過半欠 | 外面煤付着。 |
| 田井ちご池 | 45 | 方形竪穴住居状遺構 2 | 弥生土器 | 甕 | - | 2.4 | - | 7.5YR6/4 | 口縁部欠 | 外面煤付着顕著。 |
| 田井ちご池 | 46 | 方形竪穴住居状遺構 2 | 弥生土器 | 甕 | (16.4) | - | - | 5YR6/6 | 口縁部1/8以下 | 体部外面剥落。 |
| 田井ちご池 | 47 | 方形竪穴住居状遺構 2 | 弥生土器 | 甕 | (15.2) | 4.6 | - | 5YR6/6 | 上半一部欠 | 内外面剥落。 |
| 田井ちご池 | 48 | 方形竪穴住居状遺構 2 | 弥生土器 | 鉢 | - | - | - | 2.5YR6/6 | 頸部2/3 | 内外面剥落。二次的被熱。 |
| 田井ちご池 | 49 | 方形竪穴住居状遺構 2 | 弥生土器 | 鉢 | (14.0) | - | 6.9 | 5YR6/6 | 下半欠 | 外面丁寧なナデ。 |
| 田井ちご池 | 50 | 方形竪穴住居状遺構 2 | 弥生土器 | 高杯 | - | - | - | 2.5YR5/8 | 杯部1/8以下 | 内外面剥落。 |
| 田井ちご池 | 51 | 方形竪穴住居状遺構 2 | 弥生土器 | 高杯 | - | 10.0 | - | 2.5YR5/8 | 脚部1/3 | 内面工具ナデ。円形透かし孔4孔。 |
| 田井ちご池 | 52 | 方形竪穴住居状遺構 2 | 弥生土器 | ミナブ | - | - | - | 7.5YR7/6 | 体部1/2 | 内外面指押さえ。 |
| 田井ちご池 | 53 | 方形竪穴住居状遺構 2 | 弥生土器 | 台付鉢 | - | 5.0 | - | 7.5YR7/4 | 体部以上欠 | 内外面指押さえ。 |
| 田井ちご池 | 54 | 方形竪穴住居状遺構 2 | 弥生土器 | 鉢 | 15.8 | 1.5 | 12.9 | 7.5YR4/4 | ほぼ完形 | 底部焼成前穿孔。内面煤付着。 |
| 田井ちご池 | 55 | 炉 1 | 土師器 | 小皿 | 8.4 | 4.4 | 1.3 | 2.5YR6/6 | 口縁部1/6 | 内外面指押さえ後にナデ。 |
| 田井ちご池 | 56 | 包含層 | 土師器 | 小皿 | 6.2 | 4.4 | 1.7 | 10YR7/4 | 1/3 | 底部外面篋切り痕？ |
| 田井ちご池 | 57 | 包含層 | 土師器 | 小皿 | 6.7 | 5.8 | 1.5 | 10YR7/3 | 1/3 | 底部外面篋切り痕？ |
| 田井ちご池 | 58 | 包含層 | 土師器 | 小皿 | 7.5 | 5.4 | 1.6 | 10YR7/4 | 1/4 | |
| 田井ちご池 | 59 | 包含層 | 土師器 | 小皿 | 7.3 | 5.3 | 2.0 | 7.5YR7/4 | 口縁部1/2欠 | 底部外面篋切り痕。 |
| 田井ちご池 | 60 | 包含層 | 土師器 | 小皿 | 8.4 | 4.4 | 1.5 | 2.5YR6/6 | 口縁部1/8欠 | 内外面指押さえ・ナデ。 |
| 田井ちご池 | 61 | 包含層 | 土師器 | 小皿 | 6.7 | 4.6 | 1.9 | 7.5YR7/4 | 1/3 | 外面剥落。 |
| 田井ちご池 | 62 | 包含層 | 土師器 | 小皿 | 7.4 | 5.4 | 2.3 | 10YR7/4 | 1/3 | 外面剥落。 |
| 田井ちご池 | 63 | 包含層 | 土師器 | 小皿 | (7.9) | 5.9 | 2.5 | 10YR7/4 | 1/4 | 底部外面篋切り痕。 |
| 田井ちご池 | 64 | 包含層 | 土師器 | 小皿 | 7.8 | 5.3 | 2.0 | 10YR7/4 | 1/5 | 内外面剥落。 |
| 田井ちご池 | 65 | 包含層 | 土師器 | 小皿 | 7.8 | 5.9 | 2.1 | 10YR7/4 | 口縁部1/4欠 | 内外面指押さえ・ナデ。 |
| 田井ちご池 | 66 | 包含層 | 土師器 | 小皿 | 8.2 | 7.6 | 2.0 | 10YR7/4 | 1/3 | 内外面指押さえ・ナデ。 |
| 田井ちご池 | 67 | 包含層 | 土師器 | 小皿 | 8.2 | 6.2 | 2.3 | 10YR7/4 | 口縁部1/4 | 底部外面篋切り痕？ |
| 田井ちご池 | 68 | 包含層 | 土師器 | 小皿 | 8.4 | 6.6 | 2.0 | 5YR7/6 | 1/4 | 内外面剥落。 |

| 出土遺跡 | 掲載番号 | 遺構・土層名 | 種別 | 器種 | 計測値(cm) | | | 色調 | 状態 | 形態・手法の特徴など |
|-------|------|--------|------|-----|---------|--------|------|----------|-----------|-----------------------|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 田井ちご池 | 69 | 包含層 | 土師器 | 小皿 | 8.9 | 6.4 | 1.2 | 7.5YR7/4 | 1/2 | 内外面指押さえ・ナデ。 |
| 田井ちご池 | 70 | 包含層 | 土師器 | 小皿 | 8.8 | 6.2 | 1.8 | 10YR7/4 | 1/4以下 | 内外面剥落。 |
| 田井ちご池 | 71 | 包含層 | 須恵器 | 甕 | - | - | - | N5/0 | 小片 | 内外面回転ナデ。 |
| 田井ちご池 | 72 | 包含層 | 備前焼 | 播鉢 | - | - | - | 5YR4/2 | 小片 | 内外面回転ナデ。 |
| 田井ちご池 | 73 | 包含層 | 勝田焼 | 杯 | - | 7.2 | - | N6/0 | 底部2/3 | 内外面回転ナデ。 |
| 田井ちご池 | 74 | 包含層 | 備前焼 | 壺 | - | 13.7 | - | 5Y4/1 | 小片 | 内面下半自然釉。 |
| 岡東高塚 | 1 | 竪穴住居 1 | 弥生土器 | 甕 | - | 5.0 | - | 7.5YR7/4 | 底部1/4 | 外面ナデ。 |
| 岡東高塚 | 2 | 竪穴住居 1 | 弥生土器 | 甕 | - | 5.5 | - | 5YR6/4 | 小片 | 底部外面ナデ。 |
| 岡東高塚 | 3 | 段状遺構 1 | 弥生土器 | 高杯 | - | - | - | 2.5YR6/6 | 杯部・脚部欠 | 円盤充填。 |
| 岡東高塚 | 4 | 包含層 | 弥生土器 | 甕 | - | 6.3 | - | 7.5YR6/6 | 小片 | 内面剥落。 |
| 岡東高塚 | 5 | 包含層 | 弥生土器 | 器台 | (16.5) | (16.5) | - | 2.5YR5/6 | 過半欠 | 口縁部内面凹線 2条・御描波状文。 |
| 岡東高塚 | 6 | 包含層 | 須恵器 | 杯 | 12.6 | - | - | N7/0 | 杯部1/7 | |
| 岡東高塚 | 7 | 包含層 | 須恵器 | 杯 | - | - | - | N7/0 | 小片 | |
| 岡東高塚 | 8 | 包含層 | 須恵器 | 杯 | - | - | - | 5Y6/1 | 小片 | |
| 岡東高塚 | 9 | 包含層 | 須恵器 | 杯 | - | 6.4 | - | N6/0 | 底部1/2 | 糸切り。 |
| 岡東高塚 | 10 | 包含層 | 須恵器 | 杯 | - | (6.4) | - | N6/0 | 底部1/4 | 糸切り。 |
| 岡東高塚 | 11 | 包含層 | 須恵器 | 高杯 | - | - | - | N7/0 | 脚柱部1/2 | |
| 岡東高塚 | 12 | 包含層 | 須恵器 | 壺 | - | - | - | N6/0 | 小片 | |
| 岡東高塚 | 13 | 包含層 | 須恵器 | 甕 | - | - | - | N6/0 | 底部1/2 | 外面格子目タタキ後に工具ナデ。 |
| 岡東高塚 | 14 | 火葬墓 1 | 須恵器 | 杯蓋 | 14.9 | - | 2.9 | N6/0 | 完形 | ロクロ回転左。15の蓋。 |
| 岡東高塚 | 15 | 火葬墓 1 | 須恵器 | 短頸壺 | 9.2 | 12.6 | 14.9 | N6/0 | 完形 | ロクロ回転左。高台の焼きが甘く、片側不整。 |
| 岡東高塚 | 16 | 火葬墓 1 | 須恵器 | 杯 | 13.0 | 9.4 | 4.1 | N5/6 | 完形 | 底部寛切り。17の蓋に転用。 |
| 岡東高塚 | 17 | 火葬墓 1 | 須恵器 | 短頸壺 | 12.0 | 11.4 | 14.7 | N4/0 | 完形 | ロクロ回転左。内面ナデ。 |
| 岡東高塚 | 18 | 火葬墓 1 | 土師器 | 杯 | (13.3) | 8.0 | 3.1 | 2.5YR5/6 | 1/7 | |
| 岡東高塚 | 19 | 火葬墓 1 | 須恵器 | 長頸壺 | 7.5 | 7.7 | 14.6 | N5/0 | ほぼ完形 | 外面・口頸部内面自然釉付着。 |
| 岡東高塚 | 20 | 灰原 1 | 勝田焼 | 壺 | (17.4) | - | - | N6/0 | 口縁部1/6以下 | |
| 岡東高塚 | 21 | 灰原 1 | 勝田焼 | 壺 | - | - | - | N4/0 | 小片 | |
| 岡東高塚 | 22 | 灰原 1 | 勝田焼 | 壺 | - | - | - | N4/1 | 小片 | |
| 岡東高塚 | 23 | 灰原 1 | 勝田焼 | 壺 | - | - | - | N5/0 | 頸部完 | |
| 岡東高塚 | 24 | 灰原 1 | 勝田焼 | 壺 | - | - | - | N5/0 | 小片 | |
| 岡東高塚 | 25 | 灰原 1 | 勝田焼 | 壺 | - | - | - | N4/0 | 小片 | |
| 岡東高塚 | 26 | 灰原 1 | 勝田焼 | 壺 | - | - | - | 7.5YR4/1 | 小片 | |
| 岡東高塚 | 27 | 灰原 1 | 勝田焼 | 甕 | - | - | - | N6/0 | 小片 | 外面横方向平行タタキ。内面斜めハケメ。 |
| 岡東高塚 | 28 | 灰原 1 | 勝田焼 | 鉢 | - | 18.2 | - | N5/0 | 底部1/8以下 | |
| 岡東高塚 | 29 | 灰原 1 | 勝田焼 | 壺 | - | - | - | N4/0 | 小片 | 底部内面自然釉付着。底部外面ナデ。 |
| 岡東高塚 | 30 | 灰原 1 | 勝田焼 | 鉢 | 32.3 | (14.0) | 12.4 | 5Y6/1 | 1/2 | 底部外面ナデ。 |
| 岡東高塚 | 31 | 灰原 1 | 勝田焼 | 鉢 | - | - | - | N5/0 | 小片 | |
| 岡東高塚 | 32 | 灰原 1 | 勝田焼 | 鉢 | - | - | - | N4/0 | 小片 | 底部内外面窯壁付着。 |
| 岡東高塚 | 33 | 灰原 1 | 勝田焼 | 鉢 | (22.6) | - | - | N6/0 | 口縁部1/5 | |
| 岡東高塚 | 34 | 灰原 1 | 勝田焼 | 鉢 | (30.2) | - | - | N5/0 | 口縁部1/6 | |
| 岡東高塚 | 35 | 灰原 1 | 勝田焼 | 甕 | (31.4) | - | - | N7/0 | 口縁2/5胴1/4 | 肩部外面縦平行タタキ後に斜めハケメ。 |
| 岡東高塚 | 36 | 灰原 1 | 勝田焼 | 甕 | (28.6) | - | - | N6/0 | 口縁小、胴2/3 | 胴部外面下半格子状の斜め平行タタキ。 |
| 岡東高塚 | 37 | 灰原 1 | 勝田焼 | 甕 | (35.2) | - | - | N6/0 | 口縁部1/2 | 頸～肩部内面ハケメ。 |
| 岡東高塚 | 38 | 灰原 1 | 勝田焼 | 甕 | 26.4 | - | - | N6/0 | 口縁部2/5 | 肩部内面ハケメ。口縁部に面。 |
| 岡東高塚 | 39 | 灰原 1 | 勝田焼 | 甕 | 35.0 | - | - | 5YR5/1 | 口縁部1/5以下 | 肩部内面ハケメ。口縁部に面。 |
| 岡東高塚 | 40 | 灰原 1 | 勝田焼 | 甕 | - | - | - | N6/0 | 頸部1/4 | 肩部内面ナデ。 |
| 岡東高塚 | 41 | 灰原 1 | 勝田焼 | 甕 | (28.0) | - | - | 7.5YR5/2 | 口縁部1/5 | |
| 岡東高塚 | 42 | 灰原 1 | 勝田焼 | 甕 | - | - | - | N6/0 | 小片 | 外面ヨコナデ。 |
| 岡東高塚 | 43 | 灰原 1 | 勝田焼 | 甕 | - | - | - | 2.5Y7/1 | 小片 | 肩部内面工具ナデ。 |
| 岡東高塚 | 44 | 灰原 1 | 勝田焼 | 甕 | - | - | - | N6/0 | 小片 | 外面格子タタキ後にハケメ。 |
| 岡東高塚 | 45 | 灰原 1 | 勝田焼 | 甕 | - | - | - | N5/0 | 小片 | 内面横方向ハケメ。 |
| 岡東高塚 | 46 | 灰原 1 | 勝田焼 | 甕 | - | - | - | N7/0 | 小片 | 外面横方向平行タタキ後に斜めハケメ。 |

| 出土遺跡 | 掲載番号 | 遺構・土層名 | 種別 | 器種 | 計測値(cm) | | | 色調 | 状態 | 形態・手法の特徴など |
|------|------|--------|-----|----|---------|-----|-----|----------|-------------|-----------------------|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 岡東高塚 | 47 | 灰原1 | 勝田焼 | 甕 | - | - | - | 5YR5/2 | 小片2点 | 肩部外面に線刻。内面横ハケメ後に1具ナデ。 |
| 岡東高塚 | 48 | 灰原1 | 勝田焼 | 甕 | - | - | - | 7.5YR6/2 | 小片2点 | 内面のハケメは上から横～縦～横。 |
| 岡東高塚 | 49 | 灰原1 | 勝田焼 | 甕 | - | - | - | N5/0 | 小片 | 外面は縦方向平行タタキ後に縦ハケメ。 |
| 岡東高塚 | 50 | 灰原1 | 勝田焼 | 甕 | - | - | - | 2.5Y5/1 | 小片 | 外面は縦方向平行タタキ後に縦ハケメ。 |
| 岡東高塚 | 51 | 灰原1 | 勝田焼 | 甕 | - | - | - | N6/0 | 小片 | 外面は格子目タタキ後に横方向のハケメ。 |
| 岡東高塚 | 52 | 灰原1 | 勝田焼 | 甕 | - | - | - | N4/0 | 小片 | 内面は横方向工具ナデ。 |
| 岡東高塚 | 53 | 灰原1 | 勝田焼 | 甕 | - | - | - | N6/0 | 小片 | 内面は横方向工具ナデ。 |
| 岡東高塚 | 54 | 灰原1 | 勝田焼 | 甕 | - | - | - | N6/0 | 小片 | 内面のハケメは横から縦方向に変化。 |
| 岡東高塚 | 55 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | (18.8) | - | - | N6/0 | 11縁部1/8以下 | |
| 岡東高塚 | 56 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | (17.4) | - | - | N3/0 | 口縁部1/6 | |
| 岡東高塚 | 57 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | (17.0) | 6.0 | 5.1 | N6/0 | 口縁1/4底部3/4 | 口縁部外面重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 58 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | (16.6) | - | - | 7.5Y6/1 | 口縁部1/7 | 内面に沈線状の条痕。焼成不良。 |
| 岡東高塚 | 59 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | (15.4) | - | - | N4/0 | 11縁部1/8 | 11縁部外面重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 60 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | (15.2) | 5.8 | 5.6 | N6/0 | 口縁1/4底部完 | 口縁部外面重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 61 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | (15.0) | - | - | N3/0 | 口縁部1/6 | |
| 岡東高塚 | 62 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | (15.1) | - | - | N6/0 | 口縁部1/6 | 焼け歪み顕著。 |
| 岡東高塚 | 63 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | 15.0 | - | - | N5/0 | 11縁部1/3 | 11縁部外面重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 64 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | 14.8 | - | - | N5/0 | 口縁部1/3 | |
| 岡東高塚 | 65 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | 14.6 | 5.6 | 5.7 | N6/0 | 4個溶着 | 口縁部外面重ね焼き痕。焼け歪み顕著。 |
| 岡東高塚 | 66 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | (13.4) | - | - | N5/0 | 口縁部1/4 | 口縁部歪み。 |
| 岡東高塚 | 67 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | (17.4) | 5.8 | 4.8 | N4/0 | 体部1/6底部1/3 | |
| 岡東高塚 | 68 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | (16.2) | 6.4 | 5.5 | N4/0 | 体部1/6底部完 | |
| 岡東高塚 | 69 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | 16.0 | - | - | N5/0 | 口縁部1/6 | |
| 岡東高塚 | 70 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | (15.7) | - | - | N5/0 | 口縁部1/4 | 口縁部歪み。 |
| 岡東高塚 | 71 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | 15.6 | - | - | N5/0 | 口縁部1/6 | 口縁部重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 72 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | 15.4 | - | - | N5/0 | 口縁部1/6 | 口縁部重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 73 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | (15.4) | - | - | N4/0 | 11縁部1/6 | |
| 岡東高塚 | 74 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | (14.4) | - | - | N4/0 | 口縁部1/4 | 口縁部歪み。 |
| 岡東高塚 | 75 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | 14.1 | - | - | N6/0 | 口縁部1/4 | 口縁部重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 76 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | (15.4) | - | - | N6/0 | 4個溶着 | |
| 岡東高塚 | 77 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | (16.0) | 5.7 | 4.9 | N6/0 | 11縁1/8底部2/3 | 11縁部重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 78 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | (16.2) | - | - | N5/0 | 口縁部1/4 | 口縁部重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 79 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | 15.6 | - | - | N4/0 | 口縁部1/3 | |
| 岡東高塚 | 80 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | 15.6 | 6.2 | 5.4 | N4/0 | 1/3 | 口縁部重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 81 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | 15.6 | - | - | N4/0 | 11縁部1/6 | |
| 岡東高塚 | 82 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | (15.6) | - | - | N5/0 | 口縁部1/5 | |
| 岡東高塚 | 83 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | 15.4 | - | - | N4/0 | 口縁部1/6 | 口縁部自然剥付着。 |
| 岡東高塚 | 84 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | 15.0 | - | - | N5/0 | 口縁部1/6 | |
| 岡東高塚 | 85 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | (15.3) | - | - | N4/0 | 11縁部1/7 | |
| 岡東高塚 | 86 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | 14.8 | 5.4 | 5.2 | N4/0 | 口縁2/5底部1/3 | 内面に沈線状の条痕。 |
| 岡東高塚 | 87 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | (14.5) | 6.0 | 5.5 | N5/0 | 口縁1/8底部完 | 口縁部重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 88 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | (14.4) | - | - | N5/0 | 口縁部1/5 | 口縁部歪み。 |
| 岡東高塚 | 89 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | 14.0 | - | - | N5/0 | 11縁部1/6 | |
| 岡東高塚 | 90 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 5.4 | - | N6/0 | 底部完 | |
| 岡東高塚 | 91 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 6.0 | - | N6/0 | 底部完 | 体部外面重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 92 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 6.0 | - | N5/0 | 底部1/2 | 底部条切り。 |
| 岡東高塚 | 93 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 6.2 | - | 2.5Y7/1 | 底部完 | 焼成不良。 |
| 岡東高塚 | 94 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 6.2 | - | N5/0 | 底部3/4 | |
| 岡東高塚 | 95 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 6.0 | - | N5/0 | 底部1/2 | 底部条切り。 |
| 岡東高塚 | 96 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 6.2 | - | N7/0 | 底部1/2 | 底部条切り。内面重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 97 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 6.0 | - | N5/0 | 底部完 | 内外面重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 98 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 6.4 | - | 2.5YR6/6 | 底部完 | 焼成不良。 |

| 出土遺跡 | 掲載番号 | 遺構・土層名 | 種別 | 器種 | 計測値(cm) | | | 色調 | 状態 | 形態・手法の特徴など |
|------|------|--------|-----|----|---------|-------|-----|----------|------------|----------------------|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 岡東高塚 | 99 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 7.0 | - | 5YR7/4 | 底部ほぼ完 | 焼成不良。 |
| 岡東高塚 | 100 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 6.2 | - | N4/0 | 底部完 | |
| 岡東高塚 | 101 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 6.3 | - | 10YR6/3 | 底部完 | 焼成不良。 |
| 岡東高塚 | 102 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 6.2 | - | 2.5YR7/2 | 底部完 | 焼成不良。 |
| 岡東高塚 | 103 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 5.8 | - | N6/0 | 底部1/2 | 底部糸切り。 |
| 岡東高塚 | 104 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 5.7 | - | N4/0 | 底部完 | |
| 岡東高塚 | 105 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 6.0 | - | N5/0 | 底部1/4 | 底部糸切り。 |
| 岡東高塚 | 106 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 5.7 | - | N6/0 | 底部ほぼ完 | 口縁部重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 107 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 5.7 | - | N5/0 | 底部完 | 内面重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 108 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 5.8 | - | N4/0 | 底部2/3 | |
| 岡東高塚 | 109 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 5.8 | - | N6/0 | 体部1/6底部完 | 口縁部重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 110 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 5.8 | - | 10YR8/2 | 底部完 | 焼成不良。 |
| 岡東高塚 | 111 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 5.6 | - | N5/0 | 底部完 | 内面に沈線状の条痕、重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 112 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 5.8 | - | N5/0 | 底部完 | 内面重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 113 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 5.8 | - | N5/0 | 底部完 | 内面重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 114 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 5.9 | - | N5/0 | 底部完 | |
| 岡東高塚 | 115 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 6.0 | - | N5/0 | 底部完 | 底部外面重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 116 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 5.8 | - | N6/0 | 底部完 | 内面重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 117 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 5.8 | - | N4/0 | 底部1/2 | 底部糸切り。 |
| 岡東高塚 | 118 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 5.8 | - | N5/0 | 底部完 | 内面に窪付着。 |
| 岡東高塚 | 119 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 6.1 | - | N5/0 | 底部2/3 | 内面重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 120 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 5.8 | - | 5YR6/4 | 底部完 | 焼成不良。 |
| 岡東高塚 | 121 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 5.7 | - | N6/0 | 底部完 | |
| 岡東高塚 | 122 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 6.0 | - | N4/0 | 底部2/3 | 底部糸切り。 |
| 岡東高塚 | 123 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 6.0 | - | N5/0 | 底部完 | |
| 岡東高塚 | 124 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 6.0 | - | N5/0 | 底部1/2 | 底部糸切り。 |
| 岡東高塚 | 125 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 5.4 | - | 7.5YR7/4 | 底部完 | 内面に沈線状の条痕、焼成不良。 |
| 岡東高塚 | 126 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 5.4 | - | N5/0 | 底部完 | |
| 岡東高塚 | 127 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 5.4 | - | N6/0 | 底部完 | |
| 岡東高塚 | 128 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 5.1 | - | N6/0 | 底部完 | |
| 岡東高塚 | 129 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 5.3 | - | 5YR6/4 | 底部完 | 焼成不良。 |
| 岡東高塚 | 130 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 5.6 | - | N6/0 | 底部完 | 内面重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 131 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 5.7 | - | N6/0 | 底部完 | 内面重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 132 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 6.6 | - | N4/0 | 底部1/2 | 底部糸切り。 |
| 岡東高塚 | 133 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 7.8 | - | N5/0 | 高台完 | 底部糸切り。 |
| 岡東高塚 | 134 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 7.0 | - | N4/0 | 底部1/3 | 底部糸切り。 |
| 岡東高塚 | 135 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | 15.8 | 6.6 | 5.7 | N5/0 | 口縁1/4高台1/3 | 口縁部歪み。内面重ね焼き痕。底部糸切り。 |
| 岡東高塚 | 136 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | (14.3) | 7.2 | 6.5 | N5/0 | 口縁1/4高台1/2 | 口縁部歪み。内面重ね焼き痕。底部糸切り。 |
| 岡東高塚 | 137 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 7.2 | - | N5/0 | 底部1/2 | 底部糸切り。 |
| 岡東高塚 | 138 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 6.5 | - | N5/0 | 底部完 | 内外面重ね焼き痕。底部糸切り。 |
| 岡東高塚 | 139 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 7.3 | - | N5/0 | 3個溶着 | 底部糸切り。 |
| 岡東高塚 | 140 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 6.4 | - | N5/0 | 6個溶着 | 底部糸切り。 |
| 岡東高塚 | 141 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 6.6 | - | N6/0 | 2個溶着 | 底部糸切り。 |
| 岡東高塚 | 142 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 6.4 | - | N5/0 | 2個溶着 | 底部糸切り。 |
| 岡東高塚 | 143 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | 15.4 | 6.2 | 4.0 | 5Y5/1 | 1/3 | 底部糸切り。内面絶記号。 |
| 岡東高塚 | 144 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 6.0 | - | N4/0 | 底部2/5 | 底部糸切り。 |
| 岡東高塚 | 145 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | (6.6) | - | N5/0 | 底部1/4 | 底部糸切り。 |
| 岡東高塚 | 146 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | - | 6.8 | - | N5/0 | 底部1/3 | 底部糸切り。 |
| 岡東高塚 | 147 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | (9.8) | 4.5 | 2.8 | N4/0 | 口縁1/4底部完 | 焼け歪み顕著。口縁部重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 148 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | (11.0) | 4.8 | 4.0 | N5/0 | 口縁1/2底部完 | 口縁部歪み。 |
| 岡東高塚 | 149 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | (9.9) | - | - | N4/0 | 口縁部1/4 | |
| 岡東高塚 | 150 | 灰原1 | 勝田焼 | 椀 | (8.4) | - | - | N6/0 | 口縁部1/6 | 口縁部重ね焼き痕。 |

| 出土遺跡 | 掲載番号 | 遺構・土層名 | 種別 | 器種 | 計測値(cm) | | | 色調 | 状態 | 形態・手法の特徴など |
|------|------|--------|-----|------|---------|--------|-----|----------|--------|-----------------|
| | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | | | |
| 岡東高塚 | 151 | 灰原 1 | 勝田焼 | 椀 | - | - | - | N5/0 | I 縁部小片 | I 縁部重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 152 | 灰原 1 | 勝田焼 | 椀 | - | 4.0 | - | N5/0 | 底部完 | |
| 岡東高塚 | 153 | 灰原 1 | 勝田焼 | 椀 | - | 4.6 | - | N5/0 | 底部1/2 | 底部糸切り。内面重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 154 | 灰原 1 | 勝田焼 | 椀 | - | 4.7 | - | N5/0 | 底部完 | 内面重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 155 | 灰原 1 | 勝田焼 | 椀 | - | 4.8 | - | N4/0 | 底部完 | 内面重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 156 | 灰原 1 | 勝田焼 | 椀 | - | 4.4 | - | N4/0 | 底部完 | 内面自然釉付着。 |
| 岡東高塚 | 157 | 灰原 1 | 勝田焼 | 椀 | - | 4.3 | - | N5/0 | 底部完 | 内面重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 158 | 灰原 1 | 勝田焼 | 皿 | 9.5 | 6.6 | 1.8 | 2.5Y7/1 | 1/4 | 底部糸切り。焼成不良。 |
| 岡東高塚 | 159 | 灰原 1 | 勝田焼 | 皿 | (10.5) | (7.8) | 1.3 | N4/0 | 1/8 | 底部糸切り。重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 160 | 灰原 1 | 勝田焼 | 皿 | - | - | 1.6 | N5/0 | 小片 | 重ね焼き痕。 |
| 岡東高塚 | 161 | 灰原 1 | 勝田焼 | 皿 | - | - | 1.1 | N4/0 | 小片 | |
| 岡東高塚 | 162 | 灰原 1 | 勝田焼 | 皿 | - | - | 1.1 | N5/0 | 小片 | |
| 岡東高塚 | 163 | 灰原 1 | 勝田焼 | 皿 | 7.0 | 4.8 | 1.6 | 5Y6/1 | 1/2 | I 縁部アタリ痕。 |
| 岡東高塚 | 164 | 灰原 1 | 土師器 | ミシユア | 7.4 | 5.0 | 3.1 | 10YR7/4 | 1/2 | 体部押さえ・ナデ。底部糸切り。 |
| 岡東高塚 | 165 | 灰原 1 | 土師器 | 皿 | (9.8) | 6.0 | 1.4 | 7.5YR7/4 | 1/4 | 底部糸切り。 |
| 岡東高塚 | 166 | 灰原 1 | 土師器 | 皿 | 8.8 | 5.0 | 1.9 | 5YR7/4 | 1/4 | 内外面回転ナデ。 |
| 岡東高塚 | 167 | 灰原 1 | 土師器 | 皿 | - | (7.0) | - | 5YR7/4 | 底部1/6 | 底部糸切り。 |

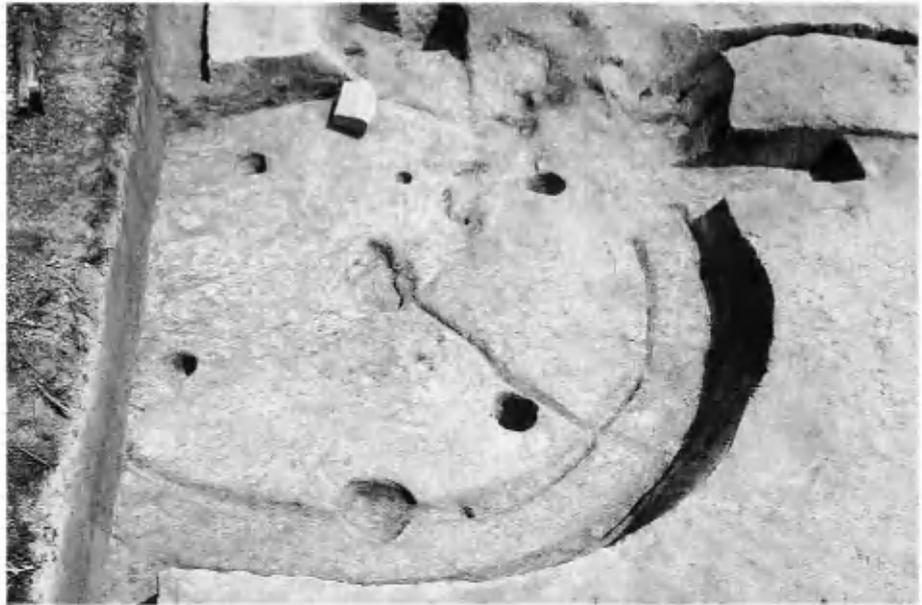
石器観察表

| 出土遺跡 | 掲載番号 | 遺構・土層名 | 器種 | 計測値(mm) | | | 重量(g) | 石 材 | 時 期 | 備 考 |
|--------|------|-------------|--------|---------|-------|-------|-------|--------------|--------|-----------|
| | | | | 最大長 | 最大幅 | 最大厚 | | | | |
| 田井たれをず | S1 | 竪穴住居 1 | 鎌 | 19.0 | 15.0 | 2.3 | 0.7 | サヌカイト | 弥生中期後半 | |
| 田井たれをず | S2 | 竪穴住居 2 | 叩き石 | 108.0 | 66.5 | 43.0 | 532.4 | 閃緑岩 | 弥生中期後半 | 大型蛤刃石斧転用。 |
| 田井たれをず | S3 | 竪穴住居 2 | 砥石 | 91.0 | 87.0 | 42.0 | 598.8 | 流紋岩 | 弥生中期後半 | |
| 田井たれをず | S4 | 竪穴住居 2 | 台石 | 390.2 | 240.8 | 89.0 | 13kg | 石英斑岩(黒色ガラス質) | 弥生中期後半 | 完形。 |
| 田井たれをず | S5 | 竪穴住居 2 | 砥石 | 400.5 | 200.6 | 110.3 | 9kg | 流紋岩 | 弥生中期後半 | 完形。 |
| 田井たれをず | S6 | 段状遺構 1 | 柱状片刃石斧 | 139.5 | 26.0 | 43.0 | 295.1 | 流紋岩質溶結凝灰岩 | 弥生中期後半 | 完形。 |
| 田井たれをず | S7 | 土壇 4 | 鎌 | 25.0 | 21.0 | 4.5 | 2.0 | サヌカイト | 弥生中期後半 | ほぼ完形。 |
| 田井たれをず | S8 | 包含層 | 鎌 | 19.5 | 9.0 | 2.5 | 0.6 | サヌカイト | 弥生中期後半 | |
| 田井たれをず | S9 | 包含層 | 鎌 | 14.5 | 17.5 | 3.0 | 0.7 | サヌカイト | 弥生中期後半 | |
| 田井たれをず | S10 | 包含層 | 砥石 | 72.5 | 28.0 | 24.0 | 73.3 | 流紋岩 | 弥生中期後半 | |
| 田井たれをず | S11 | 包含層 | 叩き石 | 92.5 | 38.5 | 27.5 | 142.9 | 流紋岩(緑色) | 弥生中期後半 | 完形。 |
| 田井ちご池 | S1 | 竪穴住居 2 | 石包丁 | 105.0 | 44.5 | 9.0 | 57.6 | 流紋岩 | 弥生後期後半 | ほぼ完形。 |
| 田井ちご池 | S2 | 竪穴住居 2 | 砥石 | 42.0 | 34.0 | 12.0 | 29.4 | 頁岩 | 弥生後期後半 | |
| 田井ちご池 | S3 | 竪穴住居 2 | 砥石 | 49.5 | 12.0 | 6.5 | 3.6 | 頁岩 | 弥生後期後半 | |
| 田井ちご池 | S4 | 竪穴住居 2 | 石包丁 | 135.0 | 45.0 | 9.5 | 77.5 | 安山岩(黒色) | 弥生後期後半 | ほぼ完形。 |
| 田井ちご池 | S5 | 竪穴住居 2 | 碧玉 | 25.5 | 6.7 | 孔径2.0 | 0.7 | 碧玉 | 弥生後期後半 | |
| 田井ちご池 | S6 | 方形竪穴住居状遺構 2 | 砥石 | 85.0 | 51.0 | 20.5 | 133.7 | 頁岩 | 弥生後期後半 | |
| 岡東高塚 | S1 | 竪穴住居 1 | 扁平片刃石斧 | 28.5 | 13.5 | 5.5 | 3.7 | ホルンフェルス | 弥生後期前半 | 刃部欠損。 |
| 岡東高塚 | S2 | 竪穴住居 1 | 砥石 | 69.0 | 61.0 | 30.0 | 237.3 | 砂岩 | 弥生後期前半 | |
| 岡東高塚 | S3 | 竪穴住居 1 | 大型蛤刃石斧 | 160.5 | 65.0 | 43.0 | 734.3 | 珩岩 | 弥生後期前半 | 刃部欠損。 |
| 岡東高塚 | S4 | 方形竪穴住居状遺構 1 | RF | 17.0 | 17.5 | 9.0 | 2.9 | 水晶 | 弥生後期前半 | |
| 岡東高塚 | S5 | 包含層 | 石包丁 | 68.0 | 31.0 | 8.3 | 20.6 | サヌカイト | 弥生後期前半 | |

1 全景
(北西から、
空中撮影)

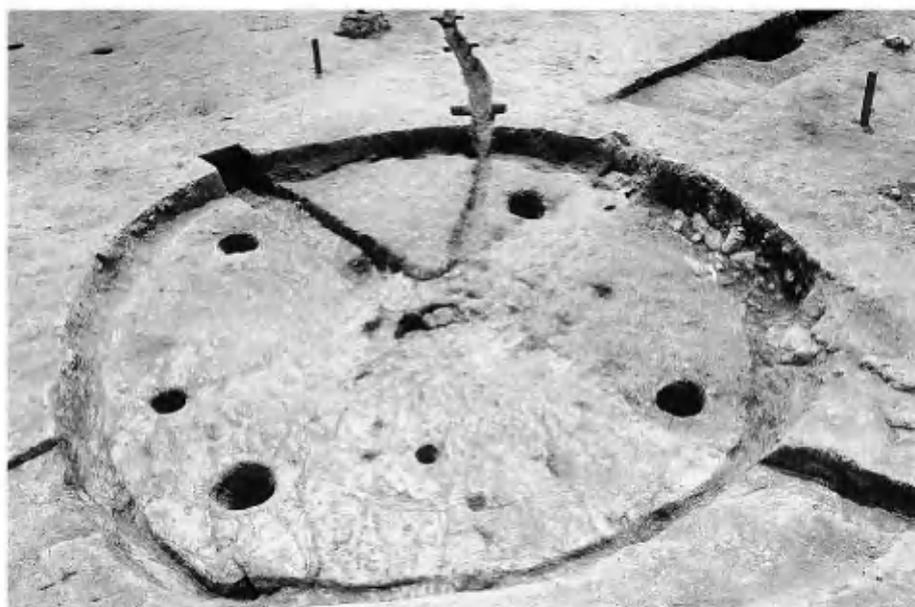


2 竪穴住居 1
(南西から)



3 竪穴住居 1
屋外溝
(南東から)

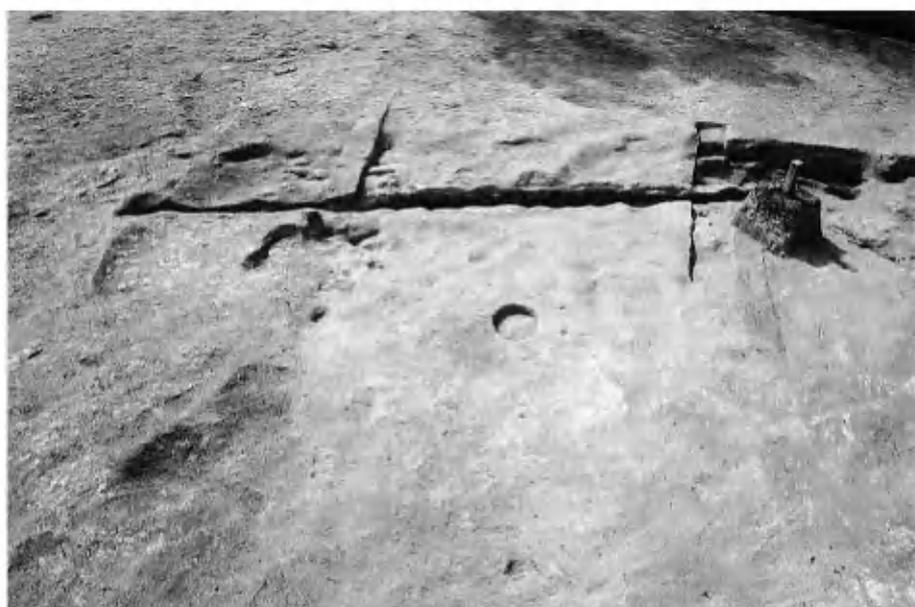




1 竪穴住居 2
(北から)



2 竪穴住居 2
屋外溝
(北から)



3 段状遺構 1
(東から)

1 段状遺構 2
(南東から)

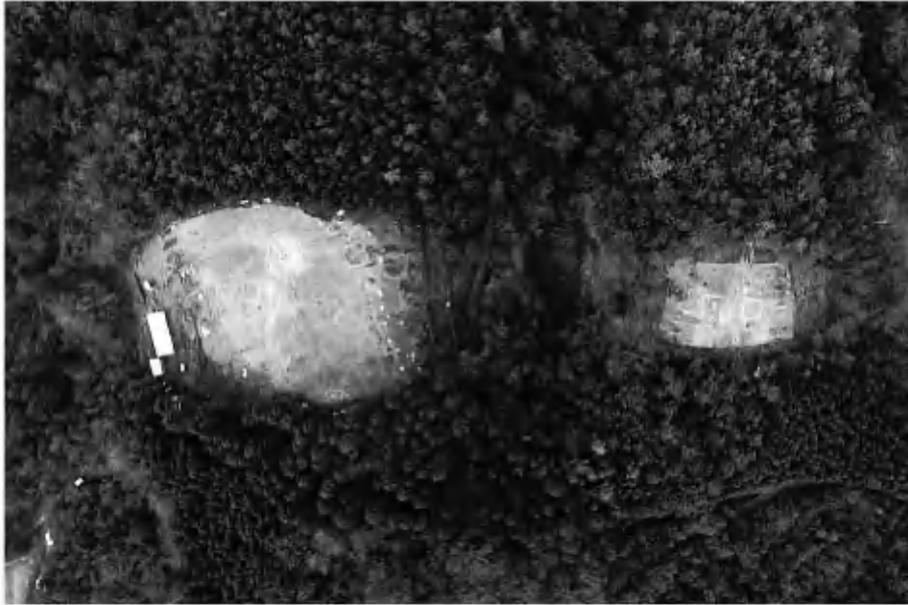


2 段状遺構 3・4
(南東から)



3 土壙墓 1
(東から)





1 全景
(南から、
空中撮影)



2 方形竪穴
住居状遺構 1
(東から)



3 竪穴住居 1
(西から)

1 竪穴住居 2
(北西から)



2 竪穴住居 2
炭化材検出状況
(東から)

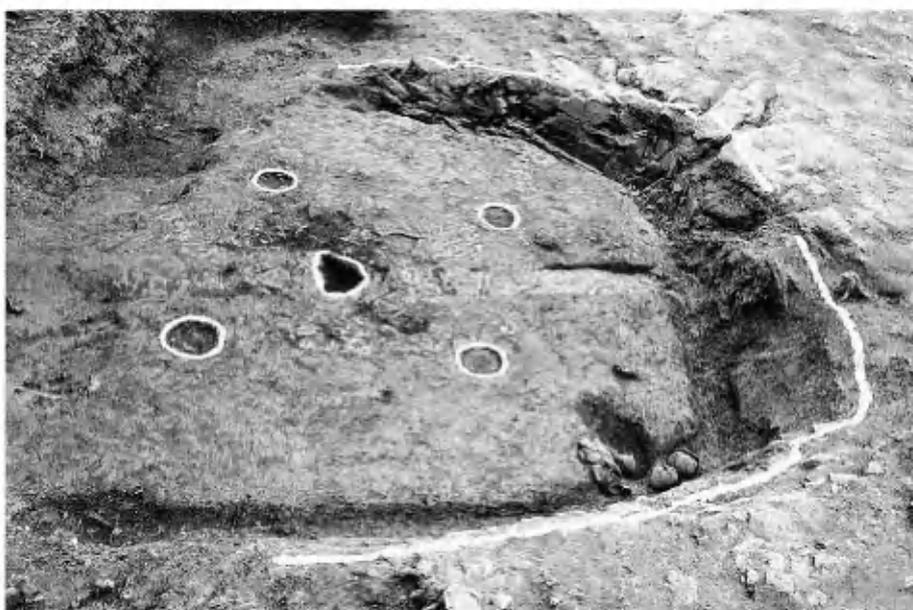


3 竪穴住居 2
土器18出土状況
(北から)





1 竪穴住居 2
炉 1
(東から)



2 方形竪穴
住居状遺構 2
(北西から)



3 方形竪穴
住居状遺構 2
土器出土状況
(南から)

1 方形竪穴
住居状遺構 2
ポケット
(東から)

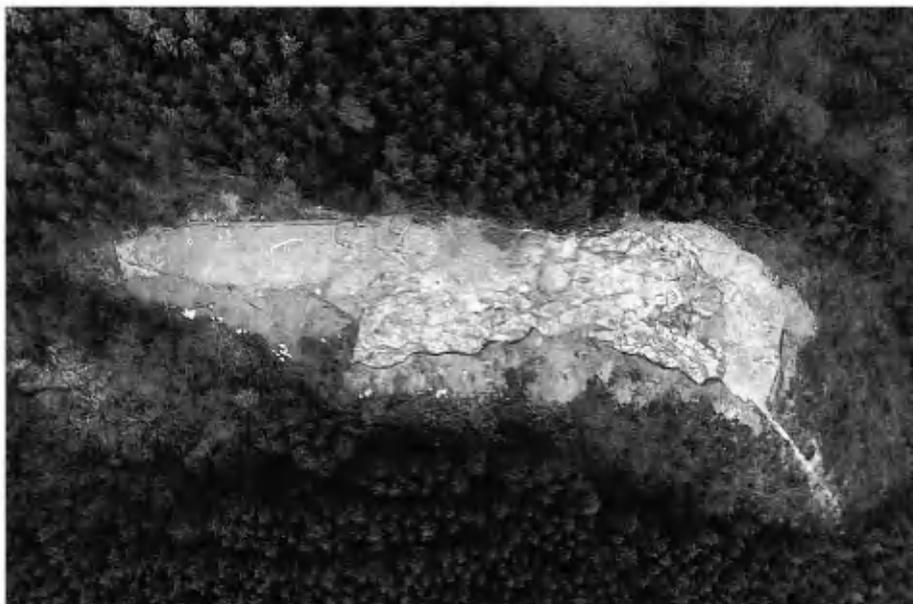


2 焼土壇 1
(東から)



3 炉状遺構 1
(北から)





1 全景
(南西から、
空中撮影)



2 竪穴住居 1・
方形竪穴
住居状遺構 1
(南東から)



3 竪穴住居 1
(西から)

1 方形竪穴
住居状遺構 1
(西から)



2 段状遺構 1
(南から)



3 灰原 1 周辺
(北東から)





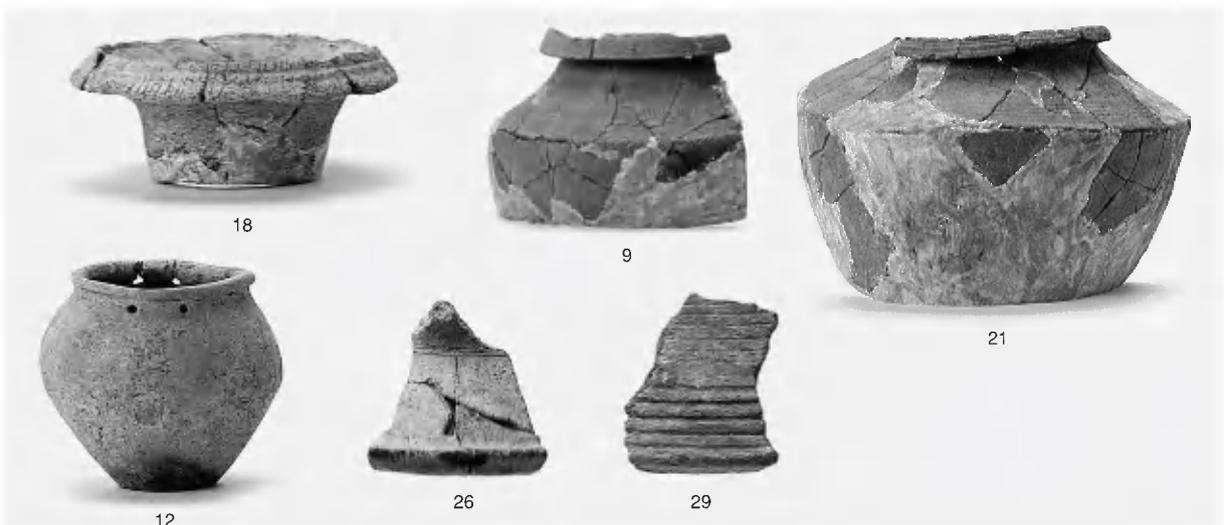
1 火葬墓1
検出状況
(西から)



2 火葬墓1
土器出土状況
(西から)



3 火葬墓1
(西から)

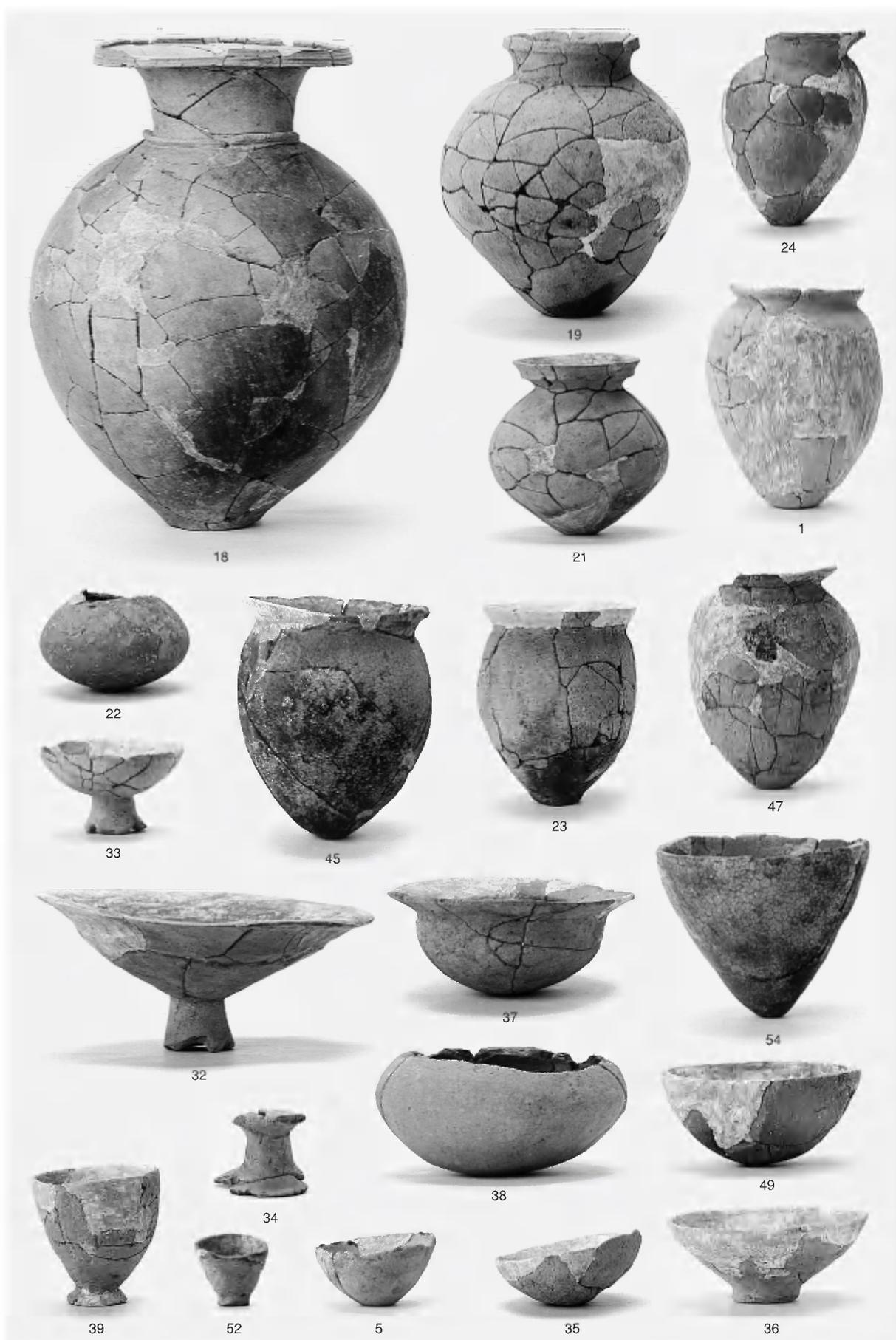


1 田井たれをず遺跡出土弥生土器



た：田井たれをず遺跡
 ち：田井ちご池遺跡
 岡：岡東高塚遺跡

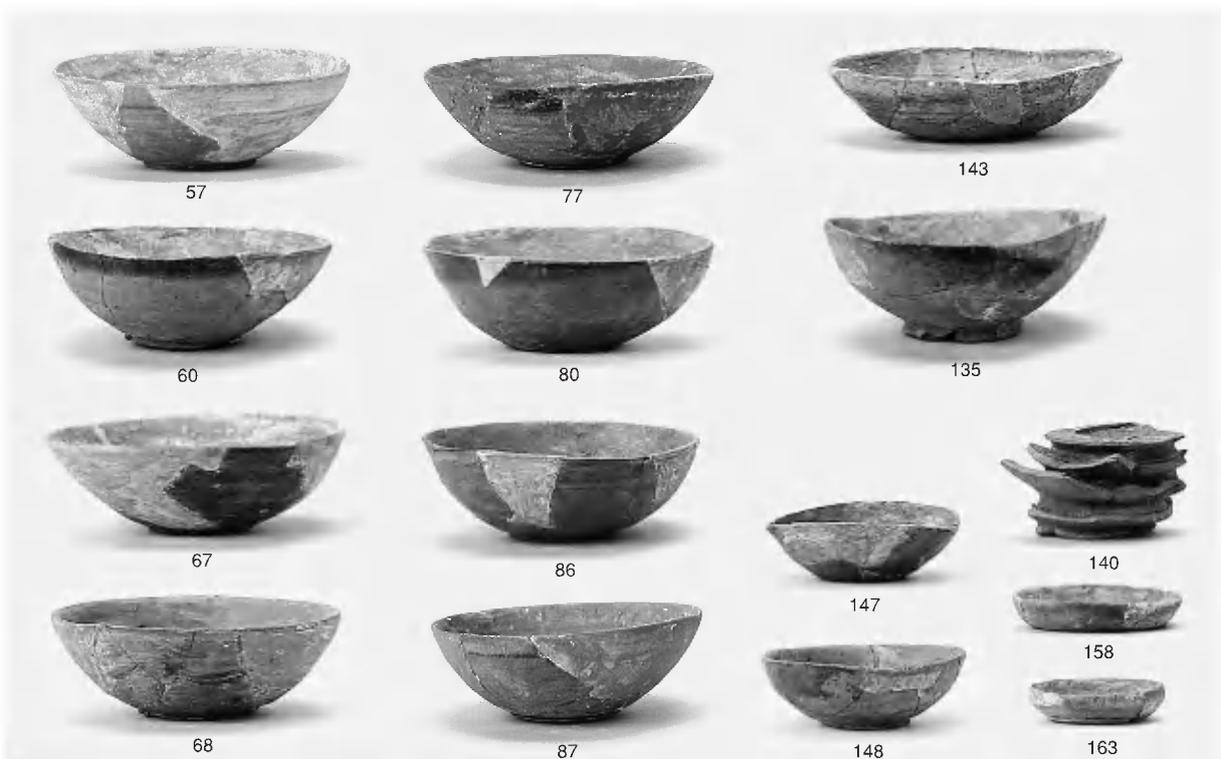
2 石器・石製品



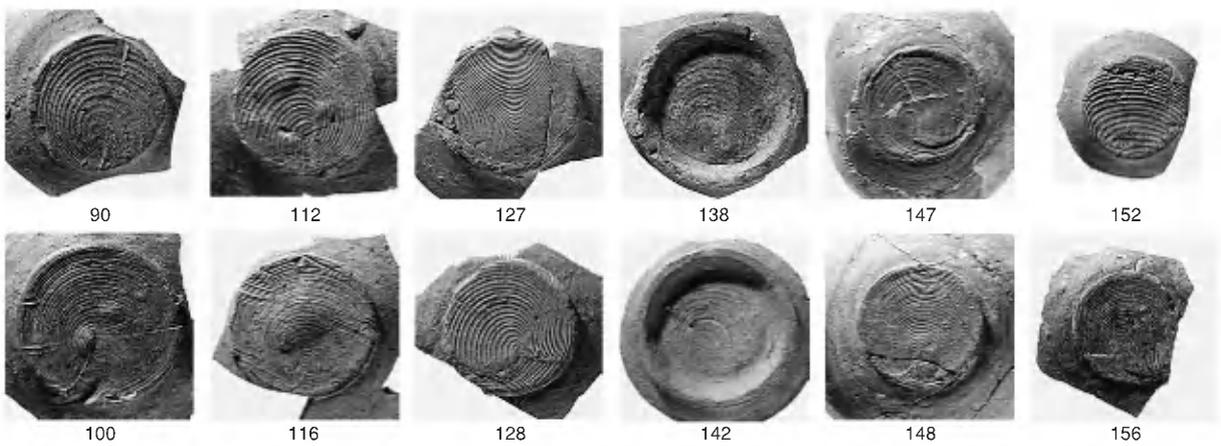
田井ちご池遺跡出土弥生土器



1 岡東高塚遺跡火葬墓 1 出土須恵器



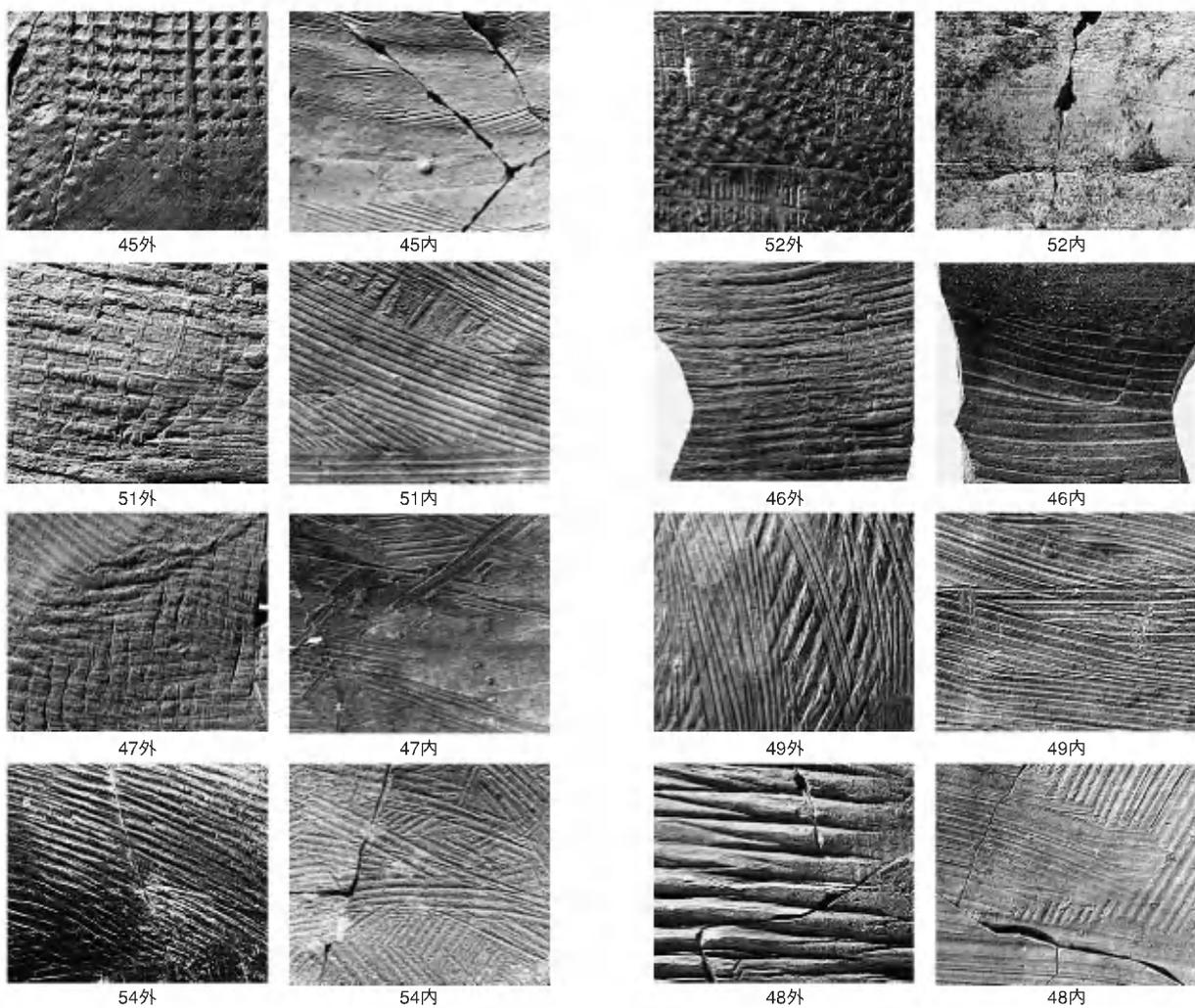
2 岡東高塚遺跡灰原 1 出土勝田焼(1)



3 岡東高塚遺跡灰原 1 出土勝田焼(2)



1 岡東高塚遺跡灰原1 出土勝田焼(3)



2 岡東高塚遺跡灰原1 出土勝田焼(4)

報告書抄録

| | | | | | | | | |
|------------------------|--|----------------|---------------------------------|-----------------------|-----------------------------------|-----------------------|-----------------------|----------------------|
| ふりがな | たいたれをずいせき たいちごいけいせき おかひがしたかつかいせき | | | | | | | |
| 書名 | 田井たれをず遺跡 田井ちご池遺跡 岡東高塚遺跡 | | | | | | | |
| 副書名 | ふるさと農道緊急整備事業に伴う発掘調査 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 171 | | | | | | | |
| 編著者名 | 光永真一 氏平昭則 金田善敬 蛭原啓介 | | | | | | | |
| 編集機関 | 岡山県古代吉備文化財センター | | | | | | | |
| 所在地 | 〒701-0136 岡山県岡山市西花尻1325-3 | | TEL 086-293-3211 | | | | | |
| 発行機関 | 岡山県教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒700-8570 岡山県岡山市内山下2-4-6 | | TEL 086-224-2111 | | | | | |
| 発行年月日 | 2003年1月31日 | | | | | | | |
| ふりがな | ふりがな | コード | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 | |
| 所収遺跡名 | 所在地 | 市町村 | 遺跡番号 | ° ' " | ° ' " | | | |
| たいたれをずいせき 田井たれをず遺跡 | おかやまけんかつたぐん 岡山県勝田郡 しょうおうちょうたい 勝央町田井 | 33622 | | 35° 3' 25" | 134° 8' 45" | 19990201～ 19990430 | 1,170m ² | ふるさと 農道緊急 整備事業 |
| たいちごいけいせき 田井ちご池遺跡 | | | | 35° 2' 45" | 134° 8' 30" | 20001204～ 20010331 | 2,140m ² | |
| おかひがしたかつかいせき 岡東高塚遺跡 | 〃 〃 〃 岡 | | | | 35° 2' 30" | 134° 8' 15" | 20001001～ 20001227 | |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | | |
| 田井たれをず遺跡 | 集落・墓地 | 弥生時代中期 | 竪穴住居2、段状遺構4、土壇墓1、土壇14 | 弥生土器・石器・鉄器 | | | | |
| 田井ちご池遺跡 | 集落・生産遺跡 | 弥生時代後期・古墳時代・古代 | 竪穴住居2、方形竪穴住居状遺構2、焼土壇1、炉状遺構1 | 弥生土器・土師器・勝田焼・備前焼・玉・石器 | 火災にあった弥生後期の山上集落 | | | |
| 岡東高塚遺跡 | 集落・墓地・生産遺跡 | 弥生時代後期・古代 | 竪穴住居1、方形竪穴住居状遺構1、段状遺構1、火葬墓1、灰原1 | 弥生土器・須恵器・土師器・勝田焼・石器 | 弥生後期の山上集落 奈良時代の火葬墓 勝田焼の灰原遺物 | | | |

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告171

田井たれをず遺跡
田井ちご池遺跡
岡東高塚遺跡

ふるさと農道緊急整備事業に伴う発掘調査

平成15年1月20日 印刷

平成15年1月31日 発行

編集 岡山県古代吉備文化財センター
岡山県岡山市西花尻1325-3

発行 岡山県教育委員会
岡山県岡山市内山下2-4-6

印刷 サンコー印刷株式会社
岡山県総社市真壁871-2